

環境レポート 2014

環境にイイこと、
プラス。

ECO
FIRST+

APITA

PIAGO
ピアゴ

私たちは応援します
ESD
AICHI-NAGOYA



工二一株式会社

会社概要

本社	〒492-8680 愛知県稲沢市天池五反田町1番地
設立	2012年2月16日*
資本金	100億円（2014年2月21日時点）
代表者	佐古 則男
事業内容	衣・食・住・余暇にわたる総合小売業のチェーンストア
売上構成	衣料品14.8%・食料品67.8%・住居関連品15.8%・その他1.5%（2014年2月期）
決算期	2月28日（年1回）
店舗数	1府19県下に229店舗（2014年2月期）
従業員数	31,147名（2014年2月期）
営業収益	7,714億円（2014年2月期）
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行、住友信託銀行
HPアドレス	http://www.uny.co.jp
グループ連結営業収益	1兆321億円（2014年2月期）
主なグループ企業	(株)サークルKサンクス、(株)99イチバ、(株)さが美、(株)パレモ、(株)モリエ、UNY (HK) CO.,LIMITED、 優友（上海）商貿有限公司、(株)ユーライフ、(株)UCS、(株)サン総合メンテナンス、(株)サンリフォーム、(株)ユニコム、 (株)マイサポート、(株)ユニフード

*純粋持株会社体制移行にあたり、準備会社としてユニグループ・ホールディングス（株）を設立した日です。

なお、2013年2月21日付けで（旧）ユニ（株）を事業会社と持株会社（存続会社）に会社分割し、準備会社が事業会社を吸収するとともに両社の商号を入れ替えました。

事業所

※2014年7月末現在

中京エリア

- 名古屋市 ヒルズウォーク徳重ガーデンズ（ピアゴラ フーズコア徳重店）、アピタ新守山店、アピタ千代田橋店、アピタ東海通店、アピタ名古屋北店、アピタ名古屋南店、アピタ鳴海店、アピタ緑山店、アピタ味鏡店、ピアゴ植田店、ピアゴ西城店、ピアゴラ フーズコア桜山店、ピアゴ鹿山店、ピアゴ清水山店、ピアゴ中村店、ピアゴ平針店、ピアゴラ フーズコア萱場店、ピアゴラ フーズコア正保店、ピアゴラ フーズコア柴田店、ピアゴラ フーズコア神野店、ピアゴラ フーズコア滝ノ水店、ピアゴラ フーズコア黒川店、ピアゴラ フーズコア今池店、ピアゴラ フーズコアアラタマ店、ユーホーム桶狭間店
- 愛知県 エアポートウォーク名古屋（アピタ名古屋空港店）、リーフウォーク稲沢（アピタ稲沢東店）、テラスウォーク一宮（アピタ一宮店）、ヴェルサウォーク西尾（アピタ西尾店）、アピタ阿久比店、ユーホーム阿久比店、アピタ安城南店、アピタ稲沢店、ユーホーム稲沢店、アピタ大口店、アピタ大府店、アピタ岡崎北店、アピタ蒲郡店、アピタ刈谷店、アピタ木曽川店、アピタ高蔵寺店、アピタ江南西店、アピタ小牧店、アピタ瀬戸店、アピタ知立店、アピタ東海荒尾店、アピタ桃花台店、アピタ豊田元町店、アピタ長久手店、アピタ向山店、ピアゴラ フーズコア赤池店、ピアゴ阿久比北店、ピアゴ安城店、ピアゴ井ヶ谷店、ピアゴ岩倉店、ピアゴ印場店、ピアゴ大清水店、ピアゴ大治店、ピアゴ香久山店、ピアゴ上和田店、ピアゴ気噴店、ピアゴ清洲店、ピアゴ吉良店、ピアゴ国府店、ピアゴ幸田店、ピアゴ江南店、ピアゴ佐屋店、ピアゴ篠木店、ピアゴ基目寺店、ピアゴ十四山店、ピアゴ勝幡店、ピアゴ新城店、ピアゴ武豊店、ピアゴ知立店、ピアゴ伝法寺店、ピアゴ東栄店、ピアゴ常滑店、ピアゴ豊明店、ピアゴ中切店、ピアゴ長久手南店、ピアゴ西春店、ピアゴ半田店、ピアゴ東刈谷店、ピアゴ菱野店、ピアゴ福釜店、ピアゴ碧南東店、ピアゴ洞店、ピアゴ布袋店、ピアゴ妙興寺店、ピアゴ八剣店、ピアゴ矢作店、ピアゴ大和店、ピアゴ豊川店、ピアゴ蟹江店、ピアゴ黒笹店、ピアゴラ フーズコア半田清城店、ピアゴラ フーズコア三河安城店、ユーホーム矢作店、ユーホーム安城店
- 岐阜県 アクアウォーク大垣（アピタ大垣店）、ラスパ御嵩（アピタ御嵩店）、アピタ各務原店、ユーホーム各務原店、アピタ北方店、アピタ岐阜店、アピタ中津川店、アピタ飛騨高山店、アピタ美濃加茂店、アピタ浅草店、アピタ鶴田店、ピアゴ恵那店、ピアゴ各務原店、ピアゴ笠松店、ピアゴ川辺店、アピタ関店、ピアゴ多治見店、ピアゴ長良店、ピアゴ穂積店、ピアゴ瑞浪店、ピアゴ可児店
- 三重県 アピタ伊賀上野店、アピタ桑名店、アピタ鈴鹿店、アピタ名張店、アピタ松阪三雲店、アピタ四日市店、ピアゴ赤尾店、ピアゴ阿倉川店、ピアゴ萱野店、ピアゴ上地店、ピアゴ保田店、ピアゴ菟野店、ピアゴ多度店、ピアゴ東員店、ピアゴ星川店
- 長野県 アピタ飯田店、アピタ伊那店、アピタ岡谷店、アピタ高森店、ピアゴ飯田駅前店
- 滋賀県 ピアゴ一里山店、ピアゴ今崎店、ピアゴ近江八幡店、ピアゴ豊郷店、ユーホーム豊郷店、ピアゴ松原店、ピアゴ水口店
- 京都府 アピタ精華台店
- 奈良県 アピタ大和郡山店、ユーホーム大和郡山店、アピタ西大和店、ユーホーム西大和店

北陸エリア

- 石川県 アピタ金沢店、アピタ松任店、ユーホーム松任店、ピアゴ七尾店、ピアゴ金沢ベイ店
- 富山県 アピタ魚津店、アピタ黒部店、アピタ砺波店、アピタ富山店、アピタ富山東店、ピアゴ小矢部店、ピアゴ富山西町店
- 福井県 アピタ敦賀店、アピタ福井店、アピタ福井大和田店、ピアゴ丸岡店

関東エリア

- 神奈川県 アピタ戸塚店、アピタ長津田店、アピタ日吉店、ピアゴ大口店、ピアゴ弘明寺店、ピアゴ座間店、ピアゴ大雄山店、ピアゴ中山店
- 埼玉県 ピオニウォーク東松山（アピタ東松山店）、アピタ岩槻店、アピタ吹上店、アピタ本庄店、アピタ大桑店、ピアゴ川本店
- 群馬県 けやきウォーク前橋（アピタ前橋店）、アピタ伊勢崎東店、アピタ笠懸店、アピタ高崎店、アピタ館林店、ピアゴ藤岡店
- 茨城県 アピタ石下店、アピタ佐原東店、アピタ守谷店
- 千葉県 アピタ市原店、アピタ木更津店、アピタ君津店
- 栃木県 アピタ足利店、アピタ宇都宮店
- 新潟県 リバーサイド千秋（アピタ長岡店）、アピタ新潟亀田店、アピタ新潟西店
- 福島県 アピタ会津若松店

山静エリア

- 静岡県 ブレ葉ウォーク浜北（アピタ浜北店）、アピタ伊東店、アピタ大仁店、アピタ掛川店、アピタ静岡店、アピタ島田店、アピタ初生店、アピタ藤枝店、アピタ富士吉原店、ピアゴ於呂店、ピアゴ香貫店、ピアゴ上岡田店、ピアゴ上島店、ピアゴ清水高橋店、ピアゴ大覚寺店、ピアゴ中里店、ピアゴ浜松泉町店、ピアゴ榛原店、ピアゴ袋井店、ピアゴ富士中央店、ピアゴ富士宮店、ピアゴ森店、ピアゴラ フーズコア中田店
- 山梨県 ラザウォーク甲斐双葉（アピタ双葉店）、アピタ石和店、アピタ田富店



店舗紹介

地域の中でライフスタイルを 多面的にカバーする、ユニーの各業態

ユニー株式会社は、衣・食・住・余暇にわたる総合小売業として、関東から北陸・東海地区に229店舗（2014年2月期）を展開するチェーンストアです。その代表であるモール型ショッピングセンターをはじめ、豊かで楽しい生活提案を取り入れた「日常生活向上店」を目指すアピタ店舗、毎日楽しく買い物ができる「日常生活便利店」を目指すピアゴ店舗など、地域の中でライフスタイルを多面的にカバーできるよう、さまざまなタイプの店づくりに取り組んでいます。また2008年8月21日にはスーパーマーケット事業を柱とする株式会社ユーストアと合併し、スーパーマーケット部門のより一層の充実に努めています。

モール型ショッピングセンター

数多くの専門店とエンターテインメントを兼ね備えた広域型複合ショッピングセンター



アピタ



「日常生活向上店」として、お客さまにより豊かな生活を提案する総合スーパーマーケット



ピアゴ



「日常生活便利店」として、ファッションから食料品まで地域密着型の品揃えを提供する総合スーパーマーケット



ピアゴ ラ フーズコア



こだわりの高品質食材を取り揃える都市型小型スーパーマーケット



夢屋書店



東海エリアを中心に展開する書籍販売店



ユーホーム



東海・北陸エリアを中心に展開するホームセンター



CONTENTS

会社概要・事業所・店舗紹介	1
環境理念・環境方針	3
社長インタビュー	5
特集 子ども環境学習	7
エコ・ファーストの約束	13
環境マネジメント	15
環境計画の概要	17



環境にイイこと、プラス。

低炭素社会

低炭素社会の構築	19
環境負荷	23

循環型社会

廃棄物を削減する取り組み	25
環境にやさしい容器包装	27
食品廃棄物リサイクルシステム	31

自然共生社会

生物多様性	35
-------	----



社会・地域にイイこと、プラス。

店舗での取り組み	37
ピック・アップ・エコストア	39
お客様の声	41
社会貢献・地域貢献	42
環境教育	50
ユニーの食育について	51



従業員にイイこと、プラス。

働きやすい職場環境づくり	53
--------------	----



自然との調和を大切に

「未来の子ども達に美しい自然を残したい」ユニーは環境に優しい生活をお客様と一緒に進めていきます。

対象範囲 ユニー株式会社229店舗及び本社事務所（各エリア事務所含む）
※旧ユニー（株）と旧（株）ユーストアは、2008年8月21日に合併しました。この環境レポートに記載している内容の一部は旧ユニー（株）に関するものみの場合もあります。

対象読者 ユニーの各店舗をご利用いただくお客様のほか、店舗の近隣住民の方々・お取引先・従業員など、当社にかかわる全ての皆様を対象とします。

対象期間 2013年度（2013年2月21日～2014年2月20日）
※一部上記対象期間以外の活動を記載しています。



環境理念

地球規模での環境破壊が深刻化している今日、
低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現させた持続可能な社会を構築するために、
ユニーは企業活動を通して貢献します。

環境方針

ユニー株式会社は

- 1 衣・食・住・余暇にわたる総合小売業として、環境負荷の少ない安全安心な商品及びサービスの提供と店舗開発の推進に努めます。
- 2 全従業員が環境問題に関心を持ち、環境マネジメントシステムを機能させ、運用することにより、汚染の予防及び持続的な改善に努めます。
- 3 環境側面に関係して適用可能な法的要求事項、エコ・ファーストの約束及び当社が同意するその他の要求事項を遵守し、お客様ならびに一般市民・行政機関とパートナーシップをとり、人と環境にやさしい持続可能な社会の実現に努めます。
- 4 持続可能な社会を目指した環境目的及び目標を設定し、営業活動を通じて
 - 低炭素社会の実現のために、省エネ型店舗・サプライチェーン全体でのCO₂排出量の削減を目指します。
 - 循環型社会実現のために、廃棄物削減やリサイクル推進に努めます。
また、容器包装の削減とリサイクル及び環境負荷の少ない容器包装の使用を推進します。
 - 自然共生社会実現のために、食品リサイクルループの構築、生態系保全に配慮した商品を販売します。
 - 次世代を担う子どもたちに、持続可能な社会について学ぶ環境学習を実施します。
- 5 この環境方針を実行・維持し、また広く一般に開示して、お客様と一緒に、地球環境保全活動及び社会貢献活動を推進します。

2013年2月21日

ユニー株式会社
代表取締役社長

佐古 則男

FAPRA賞(アジア太平洋小売業協会連合会賞)を受賞

ユニー株式会社の長年にわたる地域に根差した店舗での資源循環や地域の子ども達への環境学習などの環境・社会貢献活動の実績が世界的に認められ、FAPRA賞(アジア太平洋小売業協会連合会賞)を受賞し、前村 CEO が表彰状を受け取りました。



表彰状を受け取る前村 CEO (右から2番目)



持続可能な社会を目指して

現在のことだけではなく未来に向かって地球環境を壊さずに、人間や地球の生き物が共存していく社会を構築していくこと、この未来に続く仕組みが持続可能な社会です。

エコストア
ヴェルサウォーク西尾



- 化石燃料の使用削減
- エネルギーの節約
- カーボンフットプリントの少ない商品
- バイオマスの利活用
- エコストアの建設

低炭素社会

CO₂など温室効果ガス発生抑制を目指す社会

- リデュース…コピー用紙使用削減
- リユース…マイバッグキャンペーン
- リサイクル…リサイクルボックス



リサイクル
ステーション



エコ野菜

持続可能な社会

循環型社会

限りある資源を大切に、3Rを実践する社会

自然共生社会

生物多様性を
実現する社会

エコストア、ステキな未来へはじめての一步

お買い物をする際の、ほんのちいさなエコゴコロが地球の未来を救います。
10年後、20年後の地球の未来を快適なものにするために、
ユニと一緒に地球環境にやさしい生活をはじめませんか？

ユニーは新しいエコ・ファーストの約束の達成を目指し、次世代の子ども達に持続可能な社会を渡すためにユニーグループ全体で地球環境・地域社会に貢献します。



ユニー株式会社 代表取締役社長

佐古則男

ユニーは2014年6月に、新しいエコ・ファーストの約束を環境大臣と交わしました。

これからの5年間で、持続可能な社会を目指してさらに高い目標を掲げ、本業を通して低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現していくことを約束しました。

また2014年は、「国連ESDの10年」の最終年であり、愛知県・名古屋市中で「ESDに関するユネスコ世界会議」^{※1}が開催されます。ESDを2005年から実践し、地域に根ざした環境活動を推進してきたユニーにとっても、これまでの成果と課題を見直し、さらに「わかりやすく取り組みやすい環境・社会貢献活動」を進める節目の年でもあります。佐古則男代表取締役社長と百瀬則子執行役員グループ環境社会貢献部長による対談で、その思いを紹介します。(インタビュー：2014年6月12日)

※1 ESDに関するユネスコ世界会議：地球環境や平和・貧困問題など、次世代が担う多くの課題解決を目指して世界中で実施しているESD（持続可能な開発のための教育）の成果と今後について協議する会議です。(ESD=Education for Sustainable Development)

新しいエコ・ファーストの約束を締結し、さらに高い目標を目指します

百瀬 2008年に交わした約束は2013年までに全ての項目を達成し、新しいエコ・ファーストの約束を6月に交わすことができました。エコ・ファーストの約束はとても厳しい内容で、達成するために担当部署や店舗は大変な努力を要しましたが、お客様や地域の自治体・NPOと一緒に頑張っただけで達成できました。

佐古 「食品リサイクルループを全地域で構築する」「レジ袋辞退率75%」など、最終年度はかなり厳しい状況でしたが、全社を挙げて約束達成のために頑張りましたね。ユニーの環境活動は、本業を通してお客様に「環境にやさしいお買い物」をしていただき、エコライフを推進していくことが目的なので、これらの成果は地域社会の環境保全に繋がるともいえます。今後は新しいエコ・ファーストの約束を果たすことで、地域環境・地域社会に貢献していきます。

子ども達に分かりやすく印象に残るESDの取り組み

百瀬 ESD（持続可能な開発のための教育）とはあまり聞きなれない言葉ですが、かけがえのない地球を大切に守り未来に繋げていくことです。ユニーでは、環境・社会貢献活動をスタートさせた当初から「未来の子ども達に美しい自然を残したい」というテーマで

さまざまなESDを実施してきました。

特に地域に根ざしたESDとして、2002年からは店舗で地域の子供達に「お店探検」という環境学習を開催してきました。いつも行くスーパーで「ごみの行方」「リサイクル工作」などを店長がリーダーになり実施しています。店長がリーダーをすることで従業員や他のお客様にも環境活動に関心を持ってもらえるという効果も生まれました。

佐古 いつの時代も、子ども達こそ未来そのものです。また、環境に対する意識は大人になってからではなかなか身に付きません。だからこそ、子ども達に環境について学んでもらうことが大切なのです。ユニーがより重きを置いているのは、耳で聞いた目で見たりするだけではなく、自分の手足を動かしたり臭いを感じたり、五感に響く活動を行うことによって、印象に残る、記憶に残る環境学習です。特に夏休み自然探検隊は、その最たるもの。五感を通して心や体にしっかりと刻み込まれた思いこそが、大人になって自ら動ける原動力になります。

百瀬 またユニーは、スーパーという生活者に一番近いところで、お買い物を通じた環境啓発を行っています。幅広い層のお客様が高い頻度で利用していただいているので、多くの方々に少しずつでもエコライフスタイルに関心を持ってもらうことができます。

佐古 まさにその通りです。我々小売業は、商品とサービスを通じてお客様に情報を伝

えることも重要な仕事のひとつで、「難しいことをいかにわかりやすく伝えるか」が情報提供において最も大切な視点です。ESDという大きな取り組みについても、「広く浅く」と「狭く深く」の両面をうまく生かして伝えていくことが重要です。ユニーでは、単に店舗で実施している環境活動を伝えるだけでなく、どんな商品を選べば環境にやさしいかを売り場で学べる具体的な環境教育も行っています。

安全・安心とコミュニケーションを核に地域社会に貢献する

百瀬 業種の特徴を生かした環境・社会貢献活動としては、地域社会とのかかわりをいかに育んでいくかも重要なポイントですね。

佐古 ええ、来店頻度の多さは、食料品を中心に日常生活用品を売っていることとともに、スーパーマーケットに地域のコミュニティセンターとしての役割が求められているからだと思います。バリアフリーにしたり休憩スペースを設けたりすることはもちろん、子育て支援や認知症サポーターなど地域の方々の交流を育む方策も重要です。

例えば、ユニーが実施している「ハッピーパスポート」というサービスは、年金受給者が年金支給日にご来店すると割引を受けられるサービスですが、これをきっかけに店舗に足を運んでいただき、地域の方々が交流を育める場所になることも目的にしています。

百瀬 アピタやピアゴの各店舗が地域から頼りにされていることを実感するのは、現在、耐震目的として3年間で32店舗の店舗改装および建て替えを行っている中で、お客様からいただくお言葉です。「なくならいわよね?」という声が非常に多く聞かれるからです。環境だけでなく、子育て支援や認知症サポーターの活動もしっかりと実を結ぶようになってきたことも要因だと思います。

佐古 耐震補強は、そういったお客様の信頼にこれからも応え続けるために、南海トラフ地震も見据え、業界に先駆けての取り組みです。さらに、ユニーでは、本社敷地内に「免震棟」を建設しました(2014年6月完成)。免震棟は、大型災害時に直接的な被害やライフラインの停止などにより本社機能が停止した場合でも自前のライフラインと通信機能で店舗をサポートできます。

百瀬 一方で、ユニーではそういった有事の際を考え、東日本大震災を機に各自治体との包括協定を数多く結び(現在7県と締結)、地域の安全・安心の確保にも力を入れています。自治体との包括協定は、観光や県産品の情報発信、地産地消の推進、子育て支援など多岐にわたります。

佐古 要は、ユニーの環境・社会貢献活動は、大きく括ると二つの方向性があるのです。一つは、商品・サービスを通じて実際的に環境・社会貢献をしていくこと。もう一つは、お客様とお客様、お客様と従業員、さらに行政と市民といったさまざまなコミュニケーションを深める環境を提供することです。どんな活動であっても、人と人のつながりが活動を発展させていきますから。

グループ力を引き出すリサイクルループ

百瀬 昨年2月に持株会社ユニーグループ・ホールディングス株式会社が誕生して一年が経ちました。小売業界で唯一のエコ・ファースト企業であるユニーは、環境・社会貢献活動においてもユニーグループを牽引する役割が期待されています。

佐古 ユニーは持続可能な社会構築を本業の中で実現しようと努めています。「低炭素社会」とは省エネ省資源などで地球温暖化を防止することですが、店舗に省エネ設備を導入し、照明をLEDにすること、また地域と一緒にレジ袋無料配布中止を実施し、成果を上げました。

「循環型社会」については、ユニーで実践している食品リサイクルループにグループ企業のサークルKサンクスを組み入れ、食



品再生資源^{※2}を堆肥や飼料にして、野菜や米を栽培し、また豚肉や鶏卵を生産しています。

これらは地域循環農業として、地産地消にも繋がり、誰がどこで作った作物かが分かる、安全・安心な新鮮で美味しい野菜などをお店で販売していますが、コンビニで販売することも進めていますね。

百瀬 今年はリサイクル堆肥を使った田んぼに、ユニーとサークルKサンクスのお客様や従業員、その家族も一緒に田植えをし、秋には収穫したお米でおにぎりやお弁当を作って、コンビニで販売する計画です。

佐古 今後はさらに、衣料品を通じたパレモや和装や雑貨を扱うさが美との協働も積極的に進めていきます。またカード事業などのUCSがISO14001環境マネジメントの認証取得を目指すなど^{※3}、グループ全体を環境活動に巻き込む水先案内人を、ユニーが務めていく必要を感じています。

※2 食品再生資源：店から排出される野菜クズや魚のアラ、売れ残りなどの食べられなかった食品を再生した資源。飼料や堆肥の原料としてまたエネルギーとしてリサイクルしている。

※3 2014年9月24日に取得。

「成功例を伝える」という社会貢献

百瀬 ホールディングスが誕生してまだ1年ですが、グループ力を活かして活動の幅が広がりました。2014年のゴールデンウィークには、東日本大震災被災地の小学校支援のために、ユニーとサークルKサンクス全店舗が協賛していただいた飲料メーカーや日用品メーカーと協働で、ドネーション(寄付)企画を実施しました。10日間で250万点の対象商品を販売し、集まった寄付金で、賛同して購入していただいたお客様と一緒に、プラスバンドの楽器を贈呈することができました。

佐古 私は環境・社会貢献を広げる最大のポイントは、先に実践した企業があったら、その成功例を伝え、うちもやろうかと思っていただけるようにしていくことだと思います。ノーレジ袋が非常にいい例です。環境・社会貢献活動はパワーも必要ですし、最初に

やるとリスクもつきまといますが、結果的にみんながやることで大きな成果を生み出します。率先してやっていく姿勢がグループ全体に浸透するよう、ユニーが旗振りになることも、エコ・ファースト企業として重要な役割だと認識し、取り組んでいくべきでしょうね。

百瀬 お買い物の方法が多様化し、インターネットなどで家に居ながらほとんどの物を買える時代に、わざわざ店に足を運んでいただく価値を小売業は持たなければなりません。その価値を高める一つが、環境・社会貢献活動です。

例えばアピタ・ピアゴの店頭ではリサイクルボックスで使用済みの容器包装を回収していますが、ペットボトルなど1週間に2tも集まる店があります。店舗としては処理作業の大変さがあるのですが、お客様の視点に立って考えると、フィルムをはがし、キャップを取り、きれいにしたペットボトルを自宅からわざわざマイバッグに入れて持って来てくださるわけです。これは実はすごいことで、アピタやピアゴに持ち込めば、間違いなく環境保全につながるかと認識していただいているからこそこの行動で、企業としては非常に誇らしいことだと思います。

佐古 非常に大切な視点ですね。お客様の環境意識の高まりを受け入れる体制が店側にできているかどうか。これは逆も言え、受け入れる体制が店側にあるからお客様の環境意識が高まっていく。つまり、エコ・ファーストというのは、「ユニーはエコ・ファースト企業です」と自ら名乗ったことで成果が上がったわけではなく、お客様と店側がお互いに共感し合える取り組みを一緒にやっという姿勢から成果は表れるのだと思います。そのためにとっても大切なことは、やはり「取り組みのしやすさ」だと思います。どうすれば、多くの人に取り組んでもらえるかを常に考えていくこと。このことに、ユニーはこれからも全力で取り組んでいきたいと思っています。



代表取締役社長 佐古則男(左)、執行役員グループ環境社会貢献部長 百瀬則子(右)

2014年11月に愛知県・名古屋市で「ESDに関するユネスコ世界会議」が開催されます。
ESD (Education for Sustainable Development) とは「持続可能な開発のための教育」「持続発展教育」と訳されます。
ESDは、一人ひとりが世界の人々や世代、環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革するための教育です。
ユニーはESDの考え方を取り入れた環境学習に取り組んでいます。

ESD (持続可能な開発のための教育) とは

地球の温暖化、資源の浪費と枯渇、生態系サービスの劣化など、私たちが生きるための基盤である地球環境が持続可能な状況になりつつあります。また、世界中の人が私達日本人と同じ生活をする、地球2.3個分の食糧や資源が必要だといわれています。このような状況であることを意識せずに食糧や資源を使い続けられれば、未来の子ども達は生きていくことが困難になるかもしれません。誰もが幸せに生きることのできる社会、つまり持続可能な社会を構築するためには、今と未来に想いを馳せ、地球の限りある資源を大切に使う暮らしや社会、そして一人ひとりの行動を変えていかないとはいけません。そのための学びあいがESD、持続可能な社会づくりのための教育です。

2014年に愛知県名古屋市で開催される「ESDに関するユネスコ世界会議」は、これからのESDについて協議する重要な国際会議です。このように国際社会、日本社会において、持続可能な社会をつくり上げるための人材育成、教育 (ESD) を推進することが重要課題となっています。

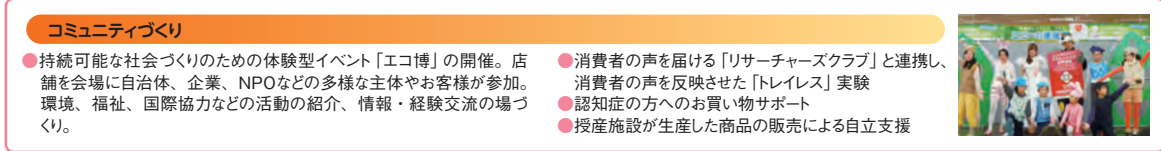
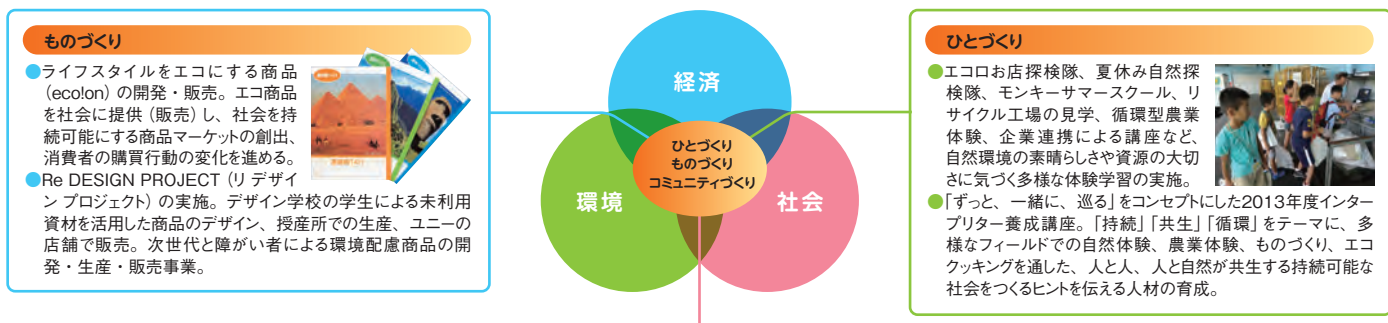
●ESDの歩み

- 1992年 国連環境開発会議 (ブラジル/リオ・デ・ジャネイロ) にて、持続可能な開発のための教育 (ESD) の重要性をうたった「アジェンダ21」を採択
- 2002年 持続可能な開発に関する世界首脳会議 (南アフリカ/ヨハネスブルグサミット) にて、日本の提案による「ESDの10年」が実施計画に盛り込まれる。第57回国連総会にて、ユネスコを主導機関として「国連ESDの10年」(2005～2014)を採択
- 2005年 「国連ESDの10年」スタート
- 2014年 「持続発展教育 (ESD) に関するユネスコ世界会議」(日本/愛知県・名古屋市、岡山市)



ユニーのESD

ユニーでは環境活動・社会貢献活動において、お客様、地域の方々、お取引先様、従業員などが一緒になって持続可能な社会をつくることを目指しています。ユニーが行っている環境学習はESDの考え方を取り入れています。持続可能な社会を担う子ども達に、お店探検隊や農業体験、自然探検などの体験学習を行うとともに、店舗では、いろいろな人が出会い交流する場を提供するなど、皆が集える地域のコミュニケーションスペースとしての機能づくりにも取り組んでいます。こうした普段の取り組みが知らず知らずのうちにESD活動となっているのです。



持続可能な社会づくりを牽引する企業としてESDに取り組んでほしい

本レポートから、御社がお客様、地域、他社、サプライチェーンとともに、生産、流通、消費、処理 (リサイクル・廃棄など) の各工程における環境改善に果敢にチャレンジし、その取組を、子ども、家族、地域の人々を対象にした環境学習・ESDプログラムに加工し、実践されていることを読み解いた。製造・生産者と消費者をつなぎ、その過程に環境、福祉、人権・雇用、国際協力、地域再生といった課題を組み入れ、学びあう場を創っている。各店舗の店長が、環境学習のリーダーとして存在し、社内の体制が構築されている。まさにESDであり、世界に誇れる取り組みである。
本年11月、「ESDユネスコ世界会議」が愛知県・名古屋市で開催される。その際に行われるワークショップのテーマの一つに「持続可能な消費と生産」が予定されている。持続可能な経済・社会の実現を加速化するために、世界会議で公表されるであろう「グローバル・アクション・プログラム」の具体的実行を進めるために、御社が持つ多様な素材や機能、ステークホルダーとの関係性、これまでの経験を活用した斬新なESD活動をさらに展開していただきたい。



子ども環境学習のあゆみ

年	環境学習	自然探検隊		農業体験		企業コラボ				工場見学		EPOC	紙芝居
		トヨタ白川郷 自然学校	モンキー サマースクール	JA農業体験	三功	東邦ガス	中部電力	ブラザー工業	デンソー	中央化学	丸富製紙		
2001	アピタ桑名店 にて初めて 実施												
2002	1店舗 新守山店 (アピタ)												
2003	4店舗												
2004	5店舗												
2005	7店舗												
2006	13店舗												
2007	14店舗												
2008	24店舗												
2009	25店舗												
2010	48店舗												
2011	99店舗 アピタ・ピアゴ												
2012	96店舗 (102回) アピタ・ピアゴ 122店舗 エコイズラリー アピタ・ピアゴ 121店舗 エコイズラリー												
2013	114店舗 アピタ・ピアゴ												
2014													



ESDに関するユネスコ世界会議

ESD1年前イベント
(2013年11月)

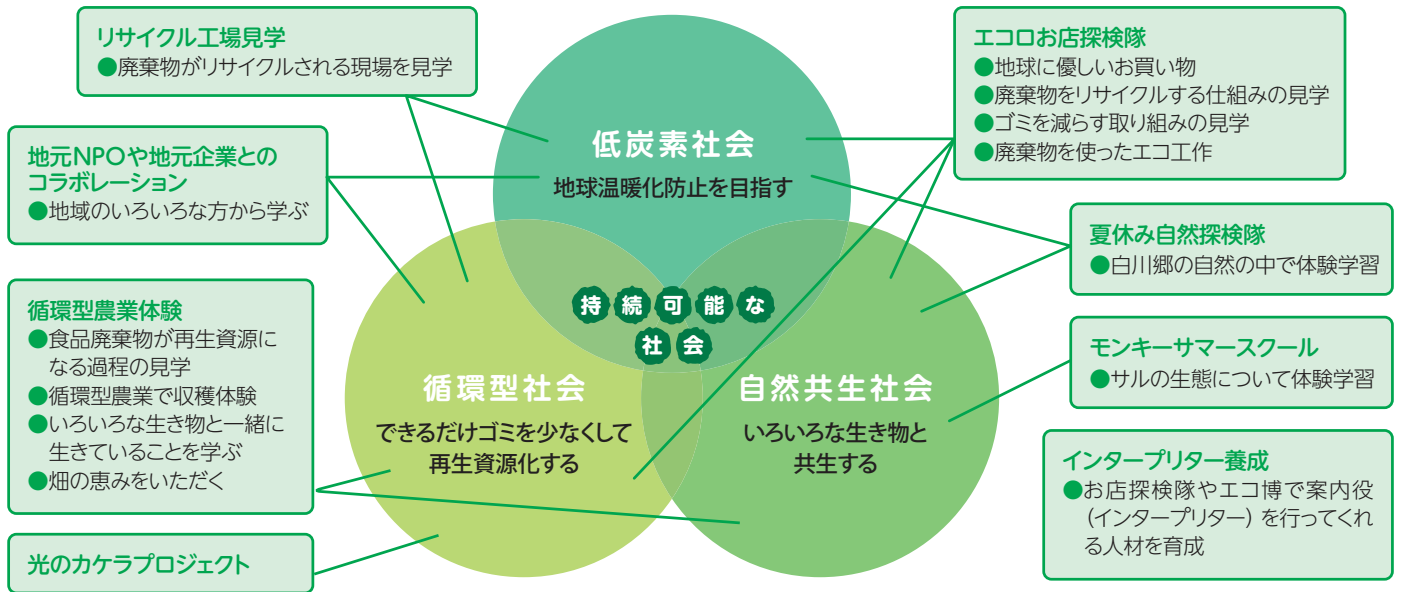
●iビル(愛知県一宮市)

ESD半年前イベント
(2014年6月)

●オアシス21(愛知県名古屋市)



ユニーは持続可能な社会をつかっていくために環境学習を実施しています。



地元NPOとのコラボレーション

ユニーの店舗のある地域で活動しているNPOと一緒に環境学習を実施しました。ユニーは店舗を活動の場所として提供、NPOはプログラムを実施し地域とのコミュニケーションを深めました。



エコネットふくい



とやまエコひろば



金沢エコライフクラブ

エコロお店探検隊

■ピアゴエコクイズラリー

食料品をメインに日常のお買い物に便利な「ピアゴ」のお店では、子ども達自身がお店を回りラリー形式でクイズに答えていくことでユニーの環境の取り組みや環境にやさしい商品を知ることができる「ピアゴエコクイズラリー」を実施しました。2013年には121店舗が実施し、2,547名が参加しました。

リサイクルボックスで回収された牛乳パックをリサイクルして作ったトイレットペーパーはどれだ?



元気な声でエコ宣言をして、エコクイズラリー終了です。

ESDブックカバーを夢屋書店で配布

2014年11月に愛知・名古屋で開催される「ESDユネスコ世界会議」への理解を深めていくため、愛知県の夢屋書店22店舗でユニーオリジナルESDブックカバーを配布しました。



■ユーホームお店探検隊

ホームセンターであるユーホームならではの環境への取り組みを学びました。LEDライト、よしず、エコ堆肥など、少しの工夫で環境にやさしい生活ができることを学びました。エコ工作は食品リサイクルのできた堆肥を使って花苗を植えました。



端材を使いオリジナルプランターを作ったよ



リサイクルエコ堆肥を使ってオリジナルプランターに花苗を植えたよ

■自由研究応援隊

夏休みの宿題のヒントはお店にある! 2013年は環境ラベルをテーマに展示を行い、自由研究のお手伝いをしました。



パネル展示を見ながら環境ラベルについて学んだよ

■エコロお店探検隊

アピタ・ピアゴではいろんな環境への取り組みを楽しみながら環境に興味をもってもらい、共感し、毎日の生活の中で「自分達ができること」を実践してもらうことを目標としています。

2001年にたった1店舗からスタートした「エコロお店探検隊」も2013年には114回実施し1,070名が参加しました。持続可能な社会を構築するための体験を通じて、これからの未来を担う子ども達が地球環境を守り続けてくれることを願います。

リサイクルの秘密を知ろう
使い終わった容器の行方を見学!

地球にやさしい
お買い物しよう
環境ラベルの意味を学ぼう!

お店の裏側を
探検しよう
お店から出るゴミの行方を知ろう!

エコ工作に
チャレンジしよう
使わなくなったものを材料にした工作体験!



1. お店探検隊いざ出発!

2. 容器が生まれ変わる?
お客様が使い終わった容器をリサイクルボックスに持ってきてくれたら、新しいものに生まれ変わるよ!



3. ecolon商品って何?
環境配慮商品「ecolon」の環境にやさしい秘密を知ろう。



6. バイオマスプラスチックって何?
植物生まれのバイオマスプラスチックを商品の容器として使用しているよ。



5. オリコン組み立て体験
折り畳めて何度でも使える「オリコン」を段ボール代わりに使っているよ。



4. ゴミの計量体験!
いつもは入れないお店の裏側では、ゴミを分別して計量しているんだ!



7. 環境ラベルを探せ!
普段何気なく使っている文房具にも、実は環境にやさしい商品があることを知ったよ。



8. リサイクル工作
捨てればゴミになるものを材料にして、リサイクル工作で生まれ変わったよ。



9. お店探検隊任務完了!
お店のエコな秘密が分かったかな? 家族や友だちにどんどん伝えよう!

夏休み自然探検隊

2005年からトヨタ白川郷自然学校で夏休み自然探検隊を開催しています。2013年はUIF企画としてイズミヤ株式会社（本社：大阪府）、株式会社フジ（本社：愛媛県）と合同で開催しました。ユニーからは「未来の自分への手紙」に応募した小学4年生～6年生の22名、イズミヤから5名、フジから5名の合計32名が世界遺産白川郷で自然を体験しました。

先人の知恵

白川郷の合掌集落で先人の知恵を学ぶ

「未来の自分へ伝えたい、白川郷」を探したよ!



展望台からの白川郷の景色、ずっと続くといいな



合掌造りの中で火を囲み先人の生活を感じたよ



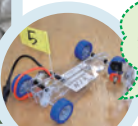
自然に触れる

森の中や自然エネルギーの大切さを体験

みんなで協力して川の水からクリーンな燃料エネルギーを作ったよ



CO₂を出さない燃料電池を使ったミニカー



インテリプリターから森の自然について教えてもらったよ



リスが食べたクルミのからや松ぼっくりをひろったよ!



今年のテーマ「みんなでなかよくつながりあう」を体験できました!



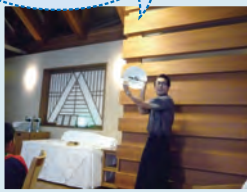
仲間づくり

初めての出会い、つながりあう仲間

テーブルマナーを習いフレンチハーフコースをいただきます!



森の木でオリジナル笛作り。どんな音色が聞こえてくるかな?



植物や花でテーブルコーディネートをし、お世話になった方をおもてなしたよ



鉄なべでピザを焼いたよ!



モンキーサマースクール

2011年より日本モンキーセンター（現：公益財団法人日本モンキーセンター）で生物多様性について学ぶサマースクールを開催しています。「ぼくの私の好きな生き物」をテーマに応募した23名の小学生が愛知県犬山市の日本モンキーセンターで、人間に一番近い生き物であるサルのことを学んだり、理想の動物園を考え発表したりしました。



センターに生えている葉っぱがサルの食べ物になったよ



サルが仲良くご飯を食べているところを観察したよ



手を使って上手に食べていることがわかったよ



学芸員さんにサルの骨の説明をもらったよ



川の水で磨製石器作りに挑戦!肉が切れたよ



みんなで協力して未来の理想の動物園を考えて発表したよ



人間に一番近い生き物のことを学んだ2日間でした!

夏休み親子環境教室

夏休み親子自然教室

静岡地区のアピタ静岡店、アピタ島田店の親子と自然教室を行いました。参加の条件は、飲み終わった牛乳パックを6枚持ってくることとし（トイレトペーパー 1個分）、リサイクルトイレトペーパー工場（丸富製紙株式会社）を見学しました。その後は、常葉大学の山田辰美教授と学生さんたちと一緒に富士山の秘密について学びました。富士の水は地下に多く集まる特徴があるなど山の水のめぐりを教わり、楽しく学びました。



常葉大学 山田教授によるワークショップ



富士の水のめぐりを知りました

リサイクル工場見学

中央化学株式会社

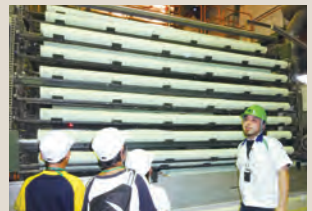
店舗のリサイクルボックスで回収した食品トレイをリサイクルしています。工場ではトレイを分別し、リサイクルベンチなどを作っています。



店舗から集まったトレイの山

丸富製紙株式会社

店舗のリサイクルボックスで回収した牛乳パック類をリサイクル、トイレトペーパーを作っている工場を見学しました。



カットする前のトイレトペーパーを見学

循環型農業体験

スーパーマーケットに並んでいるたくさんの食べ物はどこでどのように作られているのでしょうか？ ユニーが推進している食品リサイクルループの仕組みの見学や農業体験を通して、「たくさんの生き物と一緒に生きること（生物多様性）」「食べ物を大切にすること」を学びます。



大垣市環境市民会議との協同での輝生産組合での田植え



三功・酵素の里での農業体験

環境紙芝居

ユニーでは、環境のことをより身近に感じていただくため、2004年より愛知学芸大学の学生さんと一緒に環境紙芝居を制作しています。肉声でお話を読むことで、大人も子どもも家族で楽しみ、共感いただけるよう取り組んでいます。



紙芝居を制作した学生との上演



ESDをテーマにした紙芝居（2013年入賞作品）

地域でさまざまな講座を開催

インタープリター養成講座

ユニーでは、2007年から市民講座を提供するなごや環境大学で「お店探検隊インタープリター」を養成しています。小学生から大人までさまざまな世代が集まるこの講座では、買い物を通して環境について知ってもらい、それを家族や友人、いろんな人に伝えることを目的にしています。

この講座を卒業し「お店探検隊インタープリター」となった参加者は、ユニーのお店探検隊やイベントでスタッフとして活躍しています。



森でいろいろな生き物に出会いました



エコ野菜が生まれる畑で収穫体験



エコ博を探索するエコロキッズのリーダーとして活躍

EPOC

EPOCは中部地区を活動拠点とする環境パートナーシップクラブです。業種や規模の垣根を越えて企業が集まり、地域社会で活動しています。ユニーが所属する「次世代交流分科会」では子ども達に分かりやすく学び、体験できる講座を開きました。ユニーは「環境にやさしいお買い物」をテーマに、小学校や児童館で講座を担当しました。



二本木児童センター



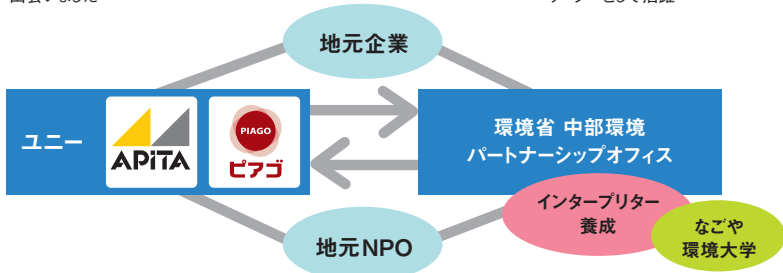
愛知県児童厚生員研修会



名古屋市長八社小学校



名古屋市長桃山小学校



エコ・ファーストの約束

ユニーは2008年に、総合小売業で唯一エコ・ファースト企業に選ばれました。

環境大臣と交わしたエコ・ファーストの約束は、2013年に地域のお客様や生産者、環境関連事業者、自治体との協働で達成することができました。

そして2014年6月、新しいエコ・ファーストの約束を交わし、さらに高い目標達成のために全社で取り組んでいます。

エコ・ファーストの約束を達成

■新しいエコ・ファーストの約束を締結

ユニーが2008年にエコ・ファースト企業に選ばれた要因は「食品リサイクルループ全国初の認定」でした。店舗から排出される廃棄物をできるだけリサイクルし、再生利用した製品や作物を再び店舗で販売するリサイクルループを構築し食品廃棄物を再生資源として利活用したことが認められたものです。

エコ・ファースト認定は5年ごとに更新され、新しい約束を締結します。ユニーは2014年から2018年までの5年間で、新しく約束した目標を達成しなければなりません。エコ・ファーストの約束を達成することで、持続可能な社会に一步一步近づいていくことを願って、地域に根ざした環境活動を推進していきます。



石原環境大臣と佐古社長（左）

■エコ・ファースト企業とのコラボレーション

エコ・ファースト企業が集まり、業界を超えて持続可能な社会を構築していくために、2009年にエコ・ファースト推進協議会を発足させました。ユニーはエコ・ファースト推進協議会メンバーのキリン株式会社、株式会社ライオンと協働で「環境にやさしいお買い物」を通してお客様にエコライフを提唱しています。

また店舗を建設している熊谷組の工事現場には、エコ・ファースト協議会で開催した「エコとわごコンクール」でユニー賞と熊谷組賞の受賞作品を現場周壁に描いて、子ども達のメッセージを周囲のお客様に伝えています。



キリン・ライオンとの協働企画



北川環境副大臣とエコ・ファーストの約束を交わす大野本部長（右）



エコとわごコンクール表彰式。ユニーから応募した3名の子も達が入賞

エコ・ファーストの約束の進捗状況

1 食品循環資源のリサイクルループによる再生資源化および容器包装廃棄物の削減に取り組みます。	● 食品リサイクルの取り組みを全店舗で実施し、2012年までに再生利用等実施率60%を達成します。	▶▶▶ 再生利用等実施率 69.6% (2013年度)	p31 参照
	● 再生利用事業計画制度を活用し、食品リサイクルループを店舗のある1府18県に拡大します。(福島県を除く)	▶▶▶ 全府県にリサイクルループを構築し、国から認定(福島県除く)	p31 参照
	● 食品廃棄物発生抑制の取り組み (食品売上1万円当たりの発生量を2012年までに2007年比10%削減)	▶▶▶ 74.6% 削減 (2007年度比)	p31 参照
	● 2012年までにレジの辞退率75%を達成します。	▶▶▶ レジ袋辞退率 77.5% (2013年度)	p27 参照
	● 自治体と協力し、使用済み容器包装を店頭回収してリサイクルします。	▶▶▶ 店頭回収実績 3,616.4t 前年比 110% (重量)	p29 参照
2 持続可能な社会構築のための環境学習を実施します。	● 子ども環境学習を全店舗で実施します。	▶▶▶ 全店舗で実施	p7 参照
	● 環境関連事業者(廃棄物・リサイクル関連など)に対し研修を実施し、法令遵守、リサイクル推進を促します。	▶▶▶ 研修実施年 2回	p50 参照
3 消費者のライフスタイル変革による、低炭素社会実現を目指します。	● 環境に配慮した商品やサービスなど、消費者に地球温暖化防止を目指したライフスタイルを提供します。	▶▶▶ 環境配慮商品eco!on 商品開発・販売	p21 参照
	● 消費者の来店方法として、電気自動車の充電器の設置を進めます。	▶▶▶ 充電器設置店舗 29店舗34台 (2014年6月)	p20 参照



エコ・ファーストの約束



～環境先進企業として持続可能な社会構築の取組～

2014年6月18日

環境大臣 石原 伸晃 殿

ユニー株式会社
代表取締役社長

佐古 則男

「未来の子ども達に美しい自然を残したい」

ユニー株式会社は、食品循環資源の再生利用等を推進すべき食品等の小売業としての社会的責任を踏まえ、法令遵守を徹底するとともに、持続可能な社会構築を目指し、「お買い物」を通して消費者と一緒に地域に根ざした環境活動を推進します。

1 循環型社会構築を目指し、廃棄物の発生抑制と資源循環を推進します。

- 食品リサイクルを適正かつ積極的に推進します。
 - ・地域のリサイクル事業者・農業者と連携し、地産池消の取り組みとなる食品リサイクルループを2018年度までに全店舗に拡大し、再生利用等実施率80%を達成します。
 - ・食品廃棄物の発生抑制を推進し、2018年までに、年間売上高（百万円）当りの食品廃棄物発生量を32kg以下を達成します。
- 容器包装廃棄物の発生抑制の取り組みとして、2018年度までにレジ袋の辞退率85%を達成します。
- 循環小型家電のリサイクル回収を実施し、限りある資源を有効に循環させます。

2 持続可能な社会（低炭素社会・循環型社会・自然共生社会）構築のために、環境教育を実施します。

- 次世代を担う子ども達に対して、お買い物を通して持続可能な社会を実現するために、学び、考え、行動する環境学習を全店舗において年間1万人の子ども達に実施します。
- 消費者の行動変革により持続可能な社会を構築するために、店舗で環境イベントを開催し、年間5万人以上の消費者にエコライフスタイルを啓発します。
- 店舗での省エネ・再生資源地域循環を目指し、自社の従業員及びテナント従業員 年間3万人以上に環境教育を実施し、廃棄物削減・リサイクルを推進します。
- 当社と取引のある環境関連事業者（廃棄物・リサイクル関連等）に、法令遵守・循環型社会構築のための環境教育を実施します。

3 消費者の行動変革による、持続可能な社会を構築します。

- 環境配慮商品やサービスを、開発・提供することにより、お買い物を通して地球温暖化防止を目指したライフスタイルを推進します。
 - ・環境配慮PB商品の容器包装を環境設計し、バイオマスプラスチック製容器包装の拡大、また20%の商品の容器包装でトップクラスのリデュースを実施します。
- 地球温暖化防止を目指し、スマートシティを研究し導入を図ります。
- 電気自動車の普及推進のために、大型ショッピングセンター 100店舗以上に充電設備を設置します。



ユニー株式会社は、上記取組の進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。



環境マネジメント

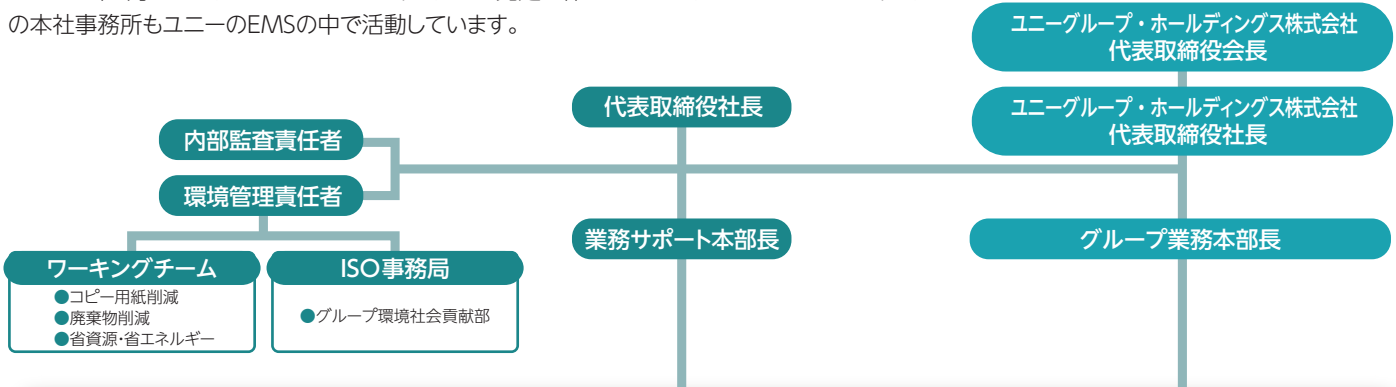
ユニーは、持続可能な社会の構築を営業活動を通して実現することが企業責任であると「環境方針」に掲げています。現在のことだけでなく、未来に向かって地球環境を守り、人間が自然と共存していける社会、持続可能な社会を「地球にやさしいお買い物」によって実現したいと願い、お客様や生産者、取引先そしてその他の関係する人達と一緒に目指していくために、環境マネジメントを実践しています。

環境マネジメントシステム (EMS) の組織と活動

ユニーは営業活動の中で地球環境に対してさまざまな影響を及ぼしています。商品を生産者から仕入れ、運び、販売し、お客様に消費していただくバリューチェーンのそれぞれの過程で発生する環境に悪い影響（環境負荷）をできるだけ低減することを環境目的目標にしています。また、環境配慮商品の販売やエコストアの建設、容器包装の削減や廃棄物のリサイクルなど、環境保全活動をさらに進めることも、環境マネジメントシステムで実践しています。

このシステムは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（検証）・Action（見直し、改善）のスパイラルで環境方針を実現し、持続可能な社会構築のために継続的に改善していくものです。

2013年2月ユニーグループ・ホールディングスの発足に伴い、ユニーグループ・ホールディングスの本社事務所もユニーのEMSの中で活動しています。



各部門の代表的な環境目的目標

業務サポート本部 ●総務部 ●法務部 ●業務指導部 ●店舗会計部 ●人事教育部 コピー用紙使用量削減、巨大地震発生時の事業継続に向けた取り組み(総務部)。店舗への環境法令遵守の徹底(業務指導部)。事務センター化による店舗作業効率の向上(店舗会計部)。従業員に対する環境保全・社会貢献に関する意識・知識の向上(人事教育部) 改善部・国際部	IT物流本部 ●情報システム部 ●物流部 ●ECビジネス部 電子帳票化によるペーパーレス(情報システム部)。センター統合による物流の合理化(物流部)。ネットスーパーの展開を推進(ECビジネス部)	開発本部 ●企画部 ●管財部 ●建設部 ●店舗開発部 エコストアの建設と環境配慮設備の評価。既存店舗の照明設備のLED化	グループ戦略本部 ●経営企画部 ●関係会社管理室 グループ会社のシンクタンクとして環境影響の軽減の施策を提案・実施を促す 秘書室・広報IR室
テナント本部 ●企画管理部 ●開発導入部 ●運営部 ●催事部 専門店から排出される廃棄物削減・リサイクル推進。分別徹底による再生紙比率UPへの取り組み	営業サポート本部 ●商品・品質管理部 ●お客様サービス部 ●営業政策部 ●営業企画部 ●営業管理部 PLCに関与し、価値ある商品を提供(商品・品質管理部)。環境配慮企画の立案・推進・進捗確認(営業政策部)。折り込みチラシに頼らない広告媒体の活用(営業企画部)。店舗における行政と連動した環境負荷の低減(営業管理部)	衣料本部 ●レディース部 ●子供ベビー部 ●メンズ部 ●インナー部 ●靴・服飾部 ●商品企画開発部 クールビズ・ウォームビズ商品の拡販。店舗従業員へ環境配慮型商品の教育、リサイクル仕着の使用推進	グループ営業企画本部 ●グループ商品企画部 ●グループ商品品質管理部 ●グループ物流部 ●グループ販促部 環境配慮商品(ecolon)の開発(グループ商品企画部)。環境を配慮した包材の開発・推進(グループ商品品質管理部)。グループ物流の再構築による顧客満足度の提供と輸送コスト削減(グループ物流部)
住関連本部 ●ヘルス&ビューティ部 ●ホームファッション部 ●ホビー&スポーツ部 環境配慮商品(ecolon)の販売推進。社内におけるコピー用紙使用量の削減	食品本部 ●ドライ食品部 ●鮮魚部 ●精肉部 ●青果部 ●コンセ部 ●プロセスセンター管理部 店舗での廃棄物削減の取り組み。StyleONE商品の拡販	関連事業本部 ●ユーホーム事業部 ●夢屋書店事業部 ●業務部 節電型便座・節水型便器の販売推進。生ゴミによるリサイクル堆肥の拡販(ユーホーム事業部)。返品率の削減。[ESD文庫ブックカバー]配布によるESDアピール(夢屋書店)	グループ業務本部 ●グループ業務企画部 ●グループ環境社会貢献部 グループ会社の環境影響の負荷軽減に繋がる施策の企画・立案・実施 監査室
関東事務所 ●業務管理部 ●関東営業部 ●衣料部 ●住関連部 ●食品部 レジ袋有料化実施に関して、行政との連携によるお客様への理解活動の推進。食品リサイクルの推進。子ども環境学習の全店実施とエコ博の開催。EV充電スタンドの設置。アピタ長津田店にてISO認証取得	山静事務所 ●業務管理部 ●山静営業部 ●衣料部 ●住関連部 ●食品部 静岡県との包括協定の取り組みにおける環境イベント開催。排水水質基準の遵守。食品リサイクルの推進。子ども環境学習の全店実施とエコ博の開催。EV充電スタンドの設置。アピタ富士原店にてISO認証取得	北陸事務所 ●業務管理部 ●北陸営業部 ●衣料部 ●住関連部 ●食品部 トレイのケミカルリサイクル実施。PETボトル回収を全店に拡大。食品リサイクルの推進。子ども環境学習の全店実施とエコ博の開催。EV充電スタンドの設置。アピタ松任店にてISO認証取得	グループ経理財務部 グループ会社の資金の調達、運用業務をユニーHDに一元管理することによる作業効率の向上

環境マネジメント (ISO14001) の取り組み

2004年1月に本社事務所がISO14001を認証取得し、その後関東事務所・山静事務所・北陸事務所がそれぞれ本部として認証取得しました。2008年2月、本社が各本部を統合、同年8月にはユーストアを合併し組織変更・拡大を図りました。そして2013年8月、ユニーグループ・ホールディングスが認証範囲に加わりました。また審査機関は、2004年から2009年までオリオン・レジストラ・ジャパンでしたが、2010年からは株式会社日本環境認証機構 (JACO) に依頼しています。



サーベイランス審査



サーベイランス部門審査



サーベイランス現場内審査



店舗でISO14001取得に向け活動開始

今後店舗での環境活動を推進するためにISO14001の認証取得を店舗へ広げていきます。2014年2月からモデル店舗 (アピタ千代田橋店、アピタ長津田店、アピタ富士吉原店、アピタ松任店) にてISO14001理解活動を開始しました。モデル店舗は2014年12月に認証取得を目指しています。

ISOの目的目標には、従業員から出た環境側面をテーマにして取り組んでいきます。



店舗での理解活動の様子 (アピタ長津田店)



環境側面の特定 (アピタ富士吉原店)



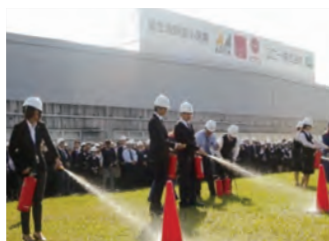
内部監査員養成合宿



従業員集合教育

緊急事態への対応

環境影響で重大なものに災害があります。愛知県稲沢市の本社では2011年の東日本大震災レベルの災害が東海地方におこることを想定し、防災訓練を計画して実施しました。



本社合同消火訓練

「ユニーグループ危機管理センター」の建設

東日本大震災を教訓に、巨大地震などの大規模災害に対応するため、2014年6月、ユニー本社敷地内に「ユニーグループ危機管理センター」を建築しました。

目的

- 災害により本社や店舗の機能が制限された場合、営業復旧の柱であるIT物流本部が常駐する「ユニーグループ危機管理センター」を拠点に店舗をサポートし、速やかな営業復旧や営業継続に繋がります。
- 大型地震発生時、免震・耐震構造に優れた「ユニーグループ危機管理センター」を、来社されたお取引先様や本社従業員の一時避難場所として利用します。

特徴

- 液状化対策として、地中深くまでコンクリートの区画壁を造り、その上に建屋を造る「TOFT工法」を採用しています。
- 停電・断水に備え、3日間使用可能な「非常用発電」「上水」システムを屋上に設置しました。
- 浸水の影響を受けぬよう、主要フロアや設備類は2階以上に配置しました。



災害時の店舗支援拠点の設置

ユニーグループ危機管理センターは、災害時に対策本部を設置し店舗支援を行う拠点として、また稲沢本部勤務のグループ従業員の避難場所としても活用されます。各店舗は、速やかな営業復旧と営業を継続することで、地域への支援拠点となって地域社会に貢献します。安全・安心を確保する拠点の充実に取り組んでまいりますのでよろしくお願い致します。



業務サポート本部 本部長 大野 明

環境計画の概要

ユニーは持続可能な社会を目指し、低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現するために、環境方針に基づき、さらにエコ・ファースト企業として、継続的な環境保全活動を行ってまいります。
 そのために、ISO14001マネジメントシステムを用い、具体的な環境目的および数値的な環境目標を設定し、達成するために取り組んでいます。
 現在だけでなく、未来のことも考えて計画を立て、お客様と一緒に「環境にやさしいお買い物」で持続可能な社会を実現します。

環境計画

環境方針	取り組み項目	2013年度目標
環境マネジメントシステムの構築	■ ISO14001による全社における環境マネジメントシステムの構築	■ 新たなエコ・ファーストの約束を締結する
		■ CO2排出抑制するための実施計画と手順を構築する
エコストアの実現	■ 省エネ設備によるエネルギー削減	■ 新店、改築店舗に有効な環境機器を導入し、その効果を測定する
	■ 環境配慮商品の販売による低炭素型ライフスタイルを提供する	■ 環境配慮型PB商品eco!onの容器包装の環境設計を図る（イズミヤ、フジとも協働する） ■ 環境配慮商品のバリューチェーンの環境負荷低減効果を見える化し、お客様に訴求する
環境負荷の低減	■ 省エネへの取り組み	■ CO2を原単位で1%削減する ■ 省エネ委員会で目標策定し、目標達成を図る
		■ 使用エネルギーを1%削減する
	■ 物流システムの見直し	■ 物流の合理化による環境負荷低減を図る ■ 段ボール 2%削減
	■ 包装資材の使用削減	■ PB商品の容器包装を見直し、バイオマスプラスチック製容器包装をもっと導入する ■ 包装資材使用 3%削減 ■ 関東地区でのレジ袋有料化店舗拡大を図る ■ レジ袋辞退率 76% ■ 未有料化店舗の辞退率を向上させる
廃棄物の適正処理とリサイクル推進	■ 廃棄物排出削減	■ 廃棄物排出総量 前年比 3%削減
	■ 食品リサイクル推進	■ リサイクルループに周辺店舗を組み入れ、規模の拡大を図る ■ リサイクルループ参加店舗 135店舗実施 ■ リサイクル率 60.0% ■ 発生抑制 △25.0% (売上100万円当たり33.00000kg) ■ 再生利用等実施率 67.0%
	■ 店頭容器包装回収の推進	■ リサイクルボックスの回収品目を増やす ■ 全店4品目を回収する ■ 一部店舗で透明プラスチック容器を回収リサイクルする
	■ バイオマスプラスチック製容器包装	■ 使用品目を増やす ■ 回収した容器でリサイクル製品を作製 ■ 店頭回収を拡大する
環境情報の開示と環境保全活動	■ 環境情報の開示	■ 環境学習DVD作成 ■ チラシ・POPなどで環境配慮商品を紹介し、拡販する ■ 新しいポスターを作成し、さらに情報提供を進める
	■ 環境保全活動	■ 未実施店で開催する ■ クリーンアップキャンペーン全店で年2回実施 ■ 新店・テナントの廃棄物分別教育を実施 ■ 子ども環境学習120回、農業体験6回実施
	■ 環境教育、啓発活動の拡大	■ エコ博を10回開催 ■ 環境関連事業者連絡会セミナー開催
環境汚染防止	■ 環境汚染物質の排出抑制と監視	■ 全店舗での排水水質監視を実施（清掃点検表の完全実施） ■ 低濃度PCBの適正管理実施

2013年度結果	評価	2014年度目標
■新たなエコ・ファーストの約束を締結することができた	○	■新たなエコ・ファーストの約束達成のための環境実施計画を立案する
■エネルギー、廃棄物排出状況、レジ袋削減、排水水質管理、リサイクルなどの管理システムにより、目標管理を実施	○	■CO2排出抑制するための実施計画と手順を構築する
■テラスウォーク一宮、ヴェルサウォーク西尾をはじめ、新店・改装店舗はLED照明や環境機器を導入	○	■新店、改装店舗に有効な環境機器を導入し、その効果を測定する
■環境配慮型PB商品eco:lonの開発、販売を拡大 eco:lon開発数 84件、売上10億3千万円 (150%)	×	■環境配慮型PB商品eco:lonの容器包装の環境設計を図る(イズミヤ、フジとも協働する) ■環境配慮商品のバリューチェーンの環境負荷低減効果を見える化し、お客様に訴求する
■カーボンフットプリントの算出ができなかった	×	■CO2を原単位で1%削減する
■実排出係数による排出量は増加したが、調整後排出係数では14.1%削減	×	■省エネ委員会で目標策定し、目標達成を図る
■全店で省エネ委員会を開催	○	■使用エネルギーを1%削減する
■電気使用量 978,741 kWh (101.0%) +1.0% ■ガス使用量 22,591 km ³ (102.4%) +2.4% ■石油使用量 7,555千ℓ (90.8%) △9.2%	○	■物流の合理化による環境負荷低減を図る
■輸送距離・量・エネルギー使用量いずれも増加。ただし、原単位は前年比99%となった	×	■段ボール 2%削減
■前年比 0.7%増加	×	■PB商品の容器包装を見直し、バイオマスプラスチック製容器包装をもっと導入する
■バイオマスプラスチック製容器の店頭回収、再生製品を作製	○	■包装資材使用 3%削減
■レジ袋 821t (97.9%) △2.1% ■包装紙 147t (98.7%) △1.3% ■紙袋 164t (93.7%) △6.3%	○	■辞退率向上を図る
■2014年2月20日から全店の食品売り場で無料配布中止	○	■レジ袋辞退率 79%目標 (2018年までに85%達成を目指す)
■レジ袋配布店舗 26.1%、有料化店舗 87.5% ■全社換算 77.5%	○	■廃棄物排出総量 前年比 3%削減
■廃棄物総排出量 0.5%削減 ■廃棄物処理場、リサイクル現場を確認	×	■リサイクルループに周辺店舗を組み入れ、規模の拡大を図る
■営業店舗所在地1府18県でリサイクルループを構築(福島県を除く) ■リサイクルループ参加店舗 136店舗	○	■リサイクルループ参加店舗 145店舗実施 ■リサイクル率 60.0%
■リサイクル率 59.5% ■発生抑制 △25.4% (2007年度比/売上100万円当たり32.80502kg) ■再生利用等実施率 69.6%	△	■発生抑制 △26.0% (売上100万円当たり32.56000kg) ■再生利用等実施率 67.0%
■牛乳パック 581,646kg (101.1%) ■トレイ 291,509kg (100.1%) ■アルミ缶 596,767kg (107.4%) ■ペットボトル 2,146,522kg (115.0%) ■リサイクルボックス回収実績 10.0%向上	○	■リサイクルボックスの回収品目を増やす ■全店4品目を回収する ■リサイクル回収量を増やす
■透明プラスチック容器回収は未実施	×	■一部店舗で透明プラスチック容器を回収リサイクルする
■リサイクル製品(道路工事資材)作製	○	■使用品目を増やす
■店頭回収35店舗で実施	△	■店頭回収を拡大する
■環境学習テキストを発行 ■eco:lonなどの情報を掲載 ■環境掲示板の設置を標準化	○	■環境学習DVD作成 ■チラシ・POPなどで環境配慮商品を紹介し、拡販する ■新しいポスターを作成し、さらに情報提供を進める
■エコ博、環境展を開催 10店舗 ■全店実施(全国表彰される)	○	■未実施店で開催する ■クリーンアップキャンペーン全店で年2回実施
■テナントの廃棄物分別教育を実施	○	■新店・テナントの廃棄物分別教育を実施
■子ども環境学習 114回、農業体験 7回実施	○	■子ども環境学習120回、農業体験8回実施
■エコ博を7店舗で8回開催 ■メッセナゴヤ、EPOCに参加	○	■エコ博を10回開催、エコフェスタ4回実施
■講演会、リサイクル施設見学会 2回実施	○	■環境関連事業者連絡会セミナー開催
■水質検査の実施と排水管理マニュアルの徹底 ■排水水質検査全店実施、基準値以内法令遵守 ■適正管理の実施	△	■全店舗での排水水質監視を実施(清掃点検表の完全実施) ■低濃度PCBの適正管理実施

低炭素社会

低炭素社会の構築 環境にやさしいお買い物

気候変動の原因とされる地球温暖化は、CO₂など温室効果ガスの増加が原因といわれています。2011年の東日本大震災以降、CO₂削減の取り組みは以前ほどの勢いがなくなっています。しかし、地球温暖化は地球環境保全の最大の課題です。この解決には安全で持続可能なエネルギーの創造を果たすことであり、そして私たちが暮らし方を見直し、ライフスタイルを低炭素型に変えていくことです。ユニーではFun to Shareに賛同して「地球にやさしいお買い物」をお客様に提案し、お客様と一緒に持続可能な社会の構築を目指します。

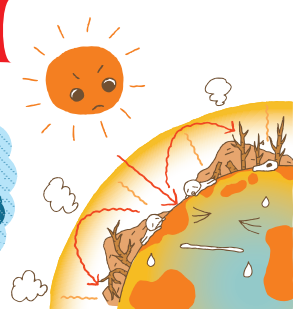
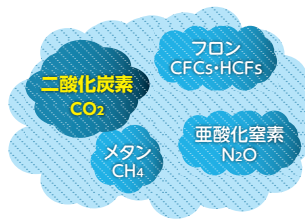
地球温暖化とは

地球環境の現状

CO₂などの温室効果ガス (GHG : Green House Gases)の増加により、地球表面から出てくる赤外線が吸収・再放出され大気中に熱が溜まり、地球温暖化が進んでいるといわれています。本来自然界で発生したCO₂は、森林や海洋による吸収によりバランスが取れていたのですが、人間が化石燃料 (石油や石炭、天然ガスなど) を消費するようになり、吸収しきれなくなりました。

地球温暖化は、化石燃料をエネルギーとして電気を起こしたり、自動車を走らせたり、冷暖房を使用することにより温室効果ガスを排出し、また熱を放出していることが原因といわれています。このまま地球温暖化が進むと、100年後には大気中の温室効果ガスがさらに増加し、平均気温が上昇し、多くの生き物が生存できなくなるといわれています。

地球温暖化の一番の原因は二酸化炭素!!



CO₂排出量を減らすための取り組み

地球温暖化の原因といわれているCO₂の多くは工場や輸送で発生していますが、私達の日常生活からの量も少なくありません。家庭での電気製品や自動車の使用だけでなく、スーパーの買い物由来のCO₂もあります。例えば石油を使った温室栽培の野菜や果物、飛行機で運ばれた輸入食品も、旬の作物や地産地消の食品に比べると、CO₂の発生は多いのです。また商品の容器包装やレジ袋もゴミになり焼却すればCO₂が発生します。

商品を選ぶとき、旬のもので地元産のもの、容器包装の少ないものを選びレジ袋を断れば、それだけCO₂の発生が抑えられ、低炭素社会に貢献できます。

カーボンフットプリントの算出

ユニーで販売している商品やサービスは、原料の採取、生産、運輸、販売、消費、使用後までの商品の一生 (ライフサイクルアセスメント) を通じて、多くのエネルギーが使われます。そのエネルギーの多くは石油など化石燃料から得ており、地球温暖化の原因となるCO₂を大気中に放出しているのです。

商品の一生において、それぞれの過程で排出されるCO₂の数値を表したものがカーボンフットプリントです。



●再生紙トイレットペーパー・アローザ (ダブル) の例



容器包装削減活動とリサイクルによるCO₂削減効果 (環境省「3R行動見える化ツール」プロジェクトによる)

ユニーでは循環型社会構築のための活動として、お客様と一緒に「容器包装の3R」を行っています。使用済みの容器包装をリサイクルボックスで回収する、レジ袋を購入すれば繰り返し使う、マイバッグやマイバスケット持参でレジ袋を使用しない、といった3R活動に取り組んでいます。これらの活動が資源循環だけでなく、CO₂の発生抑制に貢献し、地球温暖化防止に繋がることを、環境省のプロジェクトに参加し数値化することで確認できました。



リサイクルボックス

●レジ袋を辞退すると、1枚につき33gのCO₂が削減できます。

ユニーが2006年に使ったレジ袋 …… 3億3,363万枚

2013年に使ったレジ袋 …… 1億952万枚

差引 2億2,411万枚削減 (CO₂は2006年度対比7,483tの削減)

2013年度リサイクル回収によるCO₂削減量

	回収実績 (kg)	CO ₂ 削減量 (kg)
アルミ缶	596,767	3,640,278
牛乳パック	581,646	519,992
食品トレイ	291,509	1,442,970
ペットボトル	2,146,522	6,976,195
合計	3,616,444	12,579,435

●リサイクルボックスで回収すると
アルミ缶1kgで6.1kgのCO₂削減
牛乳パック1kgで0.894kgのCO₂削減
食品トレイ1kgで4.95kgのCO₂削減
ペットボトル1kgで3.25kgのCO₂削減

低炭素社会を目指すエコストア

エコマーク小売店舗認定第1号のアピタ千代田橋店

名古屋市のアピタ千代田橋店は、日本環境協会が新たに認定基準を制定したエコマーク小売店舗第1号として2012年1月27日に認定されました。その後2013年、2014年とエコマーク認定期間が継続されました。ユニーは持続可能な社会を目指し、店舗で具体的に実践しています。その活動と成果がエコマーク小売店舗の認定基準に達していると認定されたのです。特に評価された項目は、次のとおり。



お店探検隊で推進するエコストア

- 食品リサイクルループを実践し生産した野菜などを販売、さらにその工程を消費者に見学や農業体験を通して伝えていること。
- 容器包装廃棄物削減とリサイクル推進の取り組み。
- 消費者交流などによる環境啓発活動の実施。

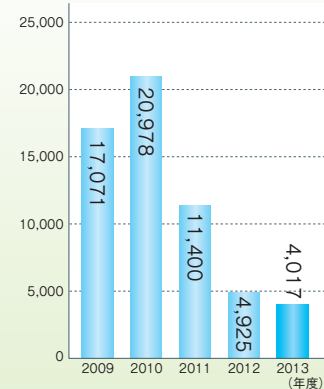


日本環境協会が千代田橋店の環境展に出展

家電リサイクル

家電リサイクル法に定められた冷蔵庫・洗濯機・エアコン・テレビの4品目を、お客様の家庭から回収しています。しかし、家電製品を取り扱う店舗が年々縮小しているため、回収量は減少しています。

2009年度家電リサイクル回収実績 (単位: 件)



環境配慮型エアダスターの導入

ユニーでは、レジつり銭機などの清掃に使用するエアダスターを従来の代替フロン (HFC-134a) を使用したものから、産業工場で排出されたCO₂ (本来大気に放出される) 使用のリサイクルジェットに代え、地球温暖化防止に努めています。代替フロンHFC-134aはCO₂に比べ、地球温暖化係数が高く、この環境配慮型エアダスターに代えることでCO₂排出量を1/3000にすることになります。またボンベは再利用できるため、廃棄物の削減にもなります。



リサイクルジェット

電気自動車の充電スタンドを設置

ユニーの大型店舗アピタやモールには1,000台以上の駐車場があります。お客様が自動車で来店されると、CO₂やその他の排気ガスが排出されます。そこで、環境にやさしい来店方法として電気自動車を使っていただくために、充電スタンドの設置を推進しています。

お客様がお買い物中に充電していただくことができ、遠方からも安心して来ていただけます。2014年7月時点で、普通充電器は26店舗31台、急速充電器は3店舗3台です。



2014年7月時点電気自動車充電スタンド設置店舗

地区	店舗	地区	店舗
神奈川県	●アピタ長津田店	愛知県	●リーフウォーク稲沢
埼玉県	●ピオニウォーク東松山* ●アピタ本店*		●テラスウォーク一宮
茨城県	●アピタ佐原東店		●ヴェルサウォーク西尾
群馬県	●けやきウォーク前橋		●アピタ千代田橋店
静岡県	●アピタ富士吉原店 ●アピタ初生店 ●ピアゴ浜松泉町店		●アピタ安城南店
富山県	●アピタ富山東店		●アピタ刈谷店
石川県	●ピアゴ金沢ベイ店		●アピタ豊田元町店
福井県	●アピタ敦賀店 ●アピタ福井大和田*		●アピタ鳴海店
奈良県	●アピタ西大和店		●ピアゴ蟹江店
		岐阜県	●ピアゴ新城店
			●ピアゴラフーズコアアラタマ店
			●アークウォーク大垣
			●アピタ御嵩店
			●アピタ美濃加茂店
			●アピタ岐阜店
			●ピアゴ可児店

*急速充電機 ※1店舗2台設置もあります



電気自動車充電スタンド

環境配慮商品

■ エコライフスタイルを進める商品

ユニーは持続可能な社会を構築することを目指し、お客様に毎日の暮らしができるだけ省エネ・省資源・ゴミを出さない資源循環を目指すエコライフスタイルにさせていただくために、店舗での環境活動を推進するとともに、環境配慮商品の開発・販売に努めています。環境配慮商品開発の目的は、お客様が毎日のお買い物で「環境にやさしい」という視点で商品を選んでいただくことで、家庭でのエネルギー消費を抑え、ゴミを削減でき、地球環境保全の貢献に繋がることです。

環境に配慮したオリジナル商品「eco!on」(エコオン)

ユニーはPB(プライベートブランド)・SB(ストアブランド)商品を開発するうえで、特に環境に配慮した商品をサブブランドeco!on(エコオン)として、パッケージやタグにこのロゴを付けて販売しています。

eco!onは、商品開発担当の申請書と添付資料をもとに、環境配慮商品としてお客様に提供できる商品であるかどうかを審査しています。審査では特に商品開発担当の「環境配慮への思い、ストーリー」についても対象にしています。その思いには、「現在だけでなく未来の地球環境に対する責任」や「購入していただくお客様へのメッセージ」「生産者のこだわり」などが含まれています。さらに生産現場や製造過程を視察し、審査しています。

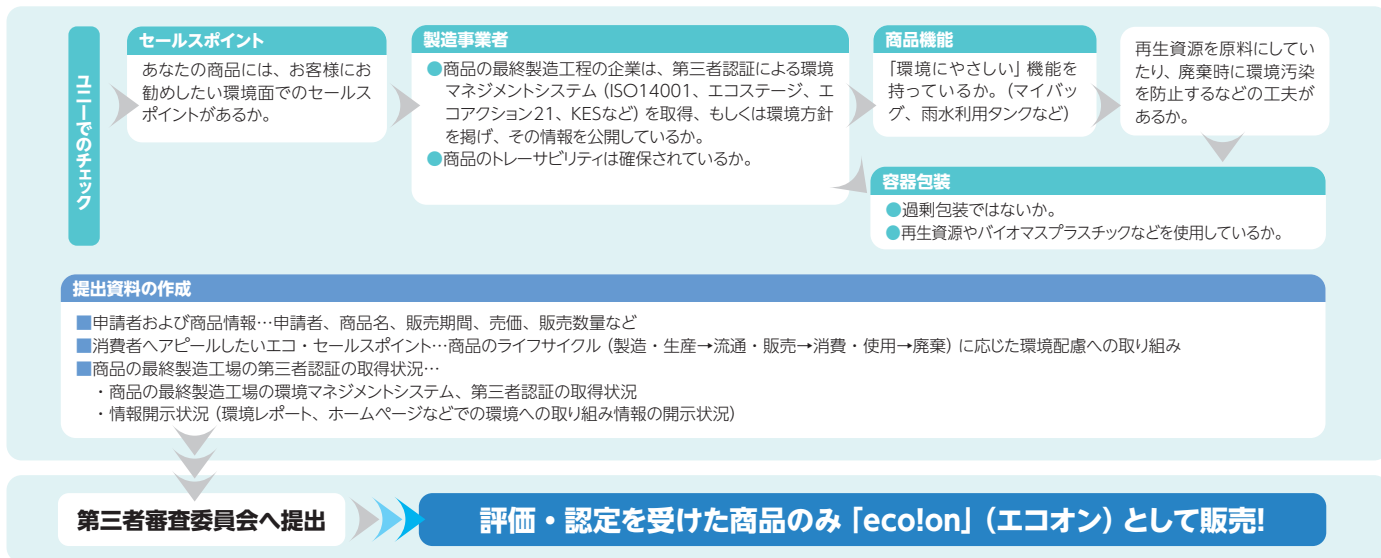
■ eco!onの考え方

環境配慮商品は、原料や製造過程、容器包装、使用時、使い終わった後の廃棄物が少なくリサイクルができることなどで、環境負荷の少ない商品です。eco!onは、環境負荷の少ない安全・安心な商品を提供することにより、お客様の快適な生活を支援し持続可能な社会構築を、お客様と一緒に推進していくことを目指しています。また、環境配慮商品の生産者を支援します。

- 1 お客様と一緒に育てていく環境配慮型商品です
- 2 ユニーが定める品質基準を満たしています
- 3 ユニーが定める環境に配慮した生産条件を満たしています
- 4 「eco!on」第三者審査委員会で審査を受け認定されています(毎年見直しを実施)

■ eco!on商品に認定されるまで

オリジナル商品を開発した商品開発担当者は、環境配慮商品eco!onの認定を受けるために、商品やメーカーに関する情報や環境認証などの資料を揃え申請書を第三者審査委員会に提出します。ここで審査し、認証を受けた商品をeco!onとして販売しています。



■ 第三者審査委員会

環境配慮商品eco!onの認定は、社内審査に加え、専門家や有識者による第三者審査委員会で審議していただいています。

第三者審査委員会メンバー

- 公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルティング協会 石崎 美英氏
- 名古屋大学情報文化学部環境学研究科教授 佐野 充氏
- 株式会社コボ 代表取締役社長 山村 真一氏



第三者審査委員会



商品開発担当者の商品説明



活発な議論が交わされます

環境配慮商品を売り場で探す [環境学習]

環境配慮商品を販売に繋げるためには、お客様に知ってもらい購入していただかなければなりません。そこでユニーでは、環境学習のプログラムに組み込んで、どこが環境にやさしいのか、何が環境負荷低減になるのかを伝えています。また、子ども達の夏休みの自由研究にしてもらうために、「夏休み自由研究応援隊」としてecolonの商品や説明パネルを店舗に展示しています。



店長がお店探検でecolonを説明



夏休み自由研究応援隊の展示



なごや環境大学の講座で環境配慮商品を説明



消費者がお気に入りecolonをプレゼン

eco!on商品の開発

環境配慮商品は特殊なものではなく、日常で使っていただく商品を、原料や容器包装を見直して使用時のエネルギー使用削減など従来品より環境負荷を少なくしました。手に取りやすいこともお客様が購入するきっかけになると推測しています。

「環境に配慮した」ということだけでは、お客様はなかなか商品を選択して下さりません。商品として魅力があり、さらに環境に配慮されているということ、そしてリーズナブルでなければ、購入には繋がらないのです。しかし、購入頻度の高い商品が環境配慮商品であれば、環境負荷低減に大きな効果が望めます。こうした観点から、商品開発担当はecolonを開発しているのです。

eco!on商品の開発

持続可能な社会の実現のため、「ecolon」を通じ、「ユニーの環境の考え方」「環境への取り組み」をお客様に伝えたいと思います。多くのお客様に認知いただけるよう、以下の事を配慮しながら商品開発を行っています。「お求めやすい価格」「使った結果がエコ」「売れるecolon」を考慮し開発をしています。



グループ商品企画部
部長 菅野 誠一

ユニーの企業価値を上げるようなブランドに育成したいと考えています。

環境配慮型カレンダーの開発



日常での必需品でなおかつ売れるecolonのコンセプトから環境配慮型のStyleONEカレンダーを開発しました。環境配慮のポイントとして原料の紙は森林認証紙、印刷には植物性インク(大豆)を使用しています。またアイテムは少ないですが、今後はさらに拡大したいと考えています。また新しい試みとして、カラーユニバーサルデザインを採用した商品もあります。これは全ての人に価値あるものという定義のもと、できるだけ多くの人が見分けやすい配色に考慮し、色を見分けにくい人にも情報が伝わるという考え方のもと、環境配慮だけではなく価値のある機能もプラスされた商品です。



グループ商品企画部
チーフバイヤー
佐藤 雄一

「eco!on」の商品

特別なものではなく、日常生活に欠かせない商品を環境に配慮したものにすることで、地球環境保全に貢献していることとなります。「eco!on」は、たくさんのお客様と一緒に低炭素社会・持続可能社会を築いていくことを目指しています。



●スリッパ
中敷きにペットボトルをリサイクルした繊維を一部使用



●マグボトル
何度も繰り返し使用できるのでゴミを出さない



●エコ野菜
食品リサイクルで作られた堆肥で栽培した野菜



●のし袋
FSC認証された紙を使用



●学習帳
FSC認証された紙を使用



●食品用ラップつめかえ用
包装資材を約90%削減



●アローザトイレペーパー
リサイクルボックスで回収した牛乳パックが原料の再生製品



●ふんわりエコロール
アローザをよりお値打ちにした商品を開発



●箱なしティッシュ
包装資材を約90%削減



●液体洗剤・柔軟剤
容器をサステナブル素材のバイオマスプラスチック製にしてCO₂を削減

環境負荷

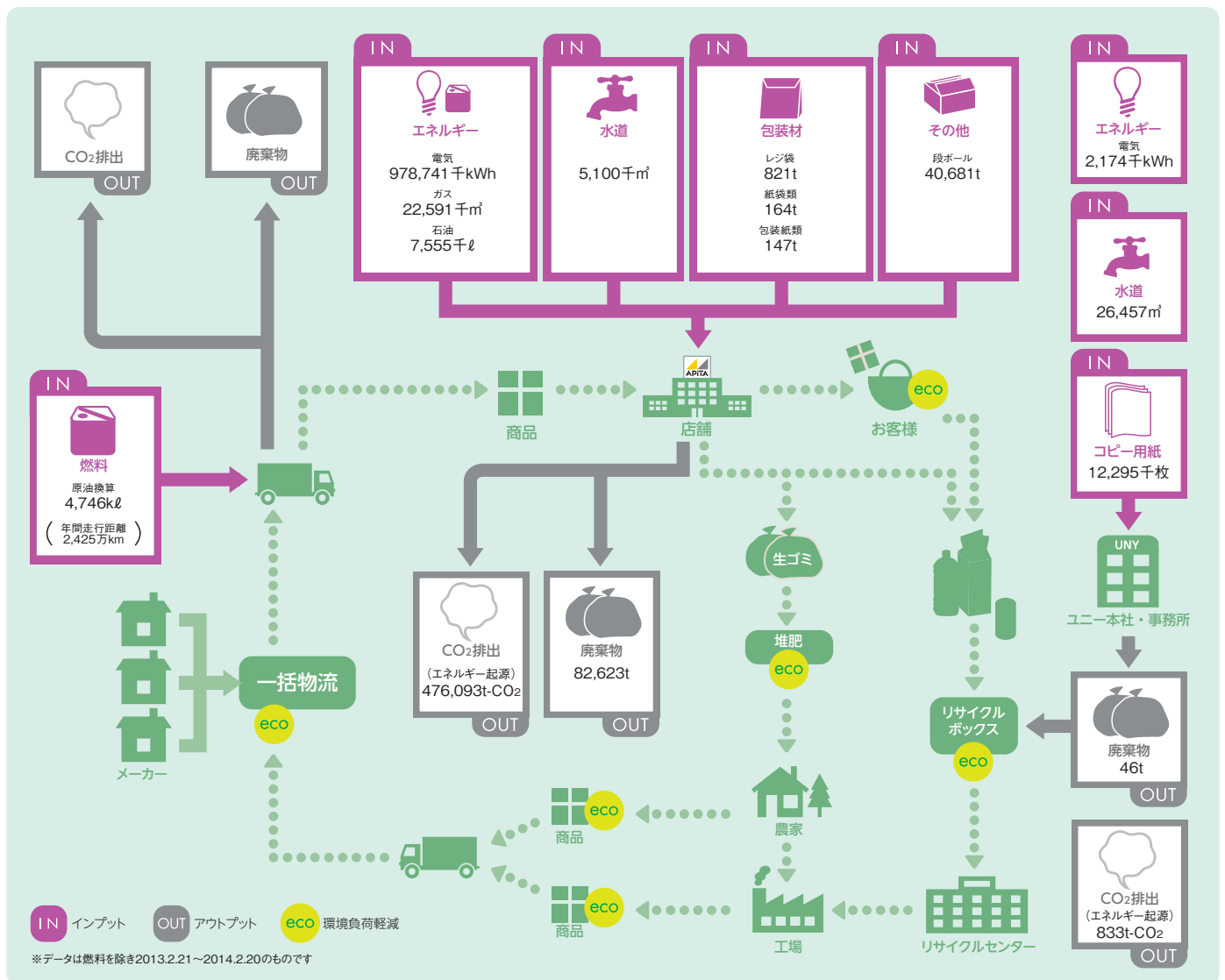
企業は事業活動（事業所の維持・商品の輸送など）をするうえで、地球環境にマイナスの影響を及ぼしています。これを環境負荷といいます。

ユニーはこれらの環境負荷をできるだけ出さないよう、継続的に軽減していくよう、その原因を調べ対策を考え行動していくことを、従業員や関係者がそれぞれの役割の中で実践しています。

事業活動における環境負荷

ユニーの事業活動の中で環境負荷の大きな原因は、店舗でのエネルギー使用です。店舗では、照明や空調・食品の冷蔵・冷凍の陳列ケースなどに電気やガスなどのエネルギーを使います。また、商品の輸送や冷蔵・冷凍保管の倉庫などでも多くのエネルギーを使用しています。これらのエネルギーは化石燃料（石油、石炭、天然ガスなど）から得ているため、地球温暖化の原因といわれているCO₂などを排出しています。それ以外にも、店舗から排出する廃棄物やお客様が商品と一緒に持ち帰る容器包装も大きな環境負荷の原因になります。

ユニーでは、これらの原因を明らかにし、環境負荷の低減に努め、エコ・ファースト企業として持続可能な社会を目指します。



環境負荷削減に向けての取り組み

私たち物流部は、環境負荷削減に向けて「一括配送」「混載推進」等でCO₂の発生の抑制に取り組んでいます。その結果、以下のとおりになりました。

- エネルギー使用量は、原油換算で4,746kℓ、前年比102.5%
- 輸送量は、4,500万t-km、前年比102.3%（輸送距離2,425万km）
- エネルギーの使用に伴って発生するCO₂排出量1万2,612t-CO₂、前年比102.5%、原単位では、100.4%
- 段ボール購入金額（弥富センター購入分）は、3,550万円、前年比111%

各センターにもデジタコ、ドライブレコーダー等で「エコ運転の啓蒙」に努めています。来期には北陸、山静にて統合センターが稼働予定で、さらなる物流の効率化を目指していきます。



IT物流本部 物流部長
村井 秀紀

省エネルギー・省資源活動

省エネ活動

店舗や事務所ではできるだけ電気を使わないよう、基本照明やスポット照明の消灯、屋外照明の消灯、空調の基本設定を28℃にするなどの節電を全店で実施し、電気・ガス・石油・水道の使用量を削減する努力をしています。

省エネルギー推進委員会

店舗では、エネルギー使用量の削減を目的に月に1度、省エネルギー推進委員会を開催しています。メンバーは、店長や各副店長の管理職に設備担当や専門店代表者などで構成されています。毎月の電気、ガス、水道などの使用量の推移を確認し、削減についての施策を検討し具体的に実施しています。



バックヤードの照明

「必要な場所で必要な時だけ点灯する」と、店舗のバックヤードや事務所の電灯にはプラススイッチ(紐)をつけています。特にバックヤードには、作業や設置場所の状況を調べ、一つひとつのスイッチに「常に点灯」「必要な時だけ」を表示しました。



ライトダウンキャンペーンに参加

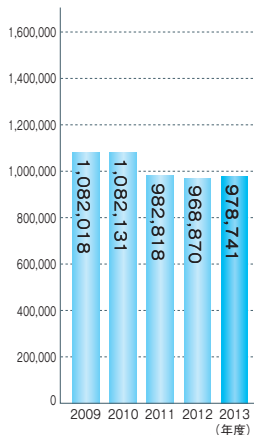
環境省主導のライトダウンキャンペーンに参加しました。これは、「CO2削減/ライトダウンキャンペーン」の一環で、6月21日(夏至の日)と7月7日(クール・アースデー) 両日の夜8時から10時までの2時間を特別実施日として設定し、商業施設や家庭での消灯を呼びかけたものです。また、日本縦断クールアースデープロジェクト2014にも賛同し参加しました。



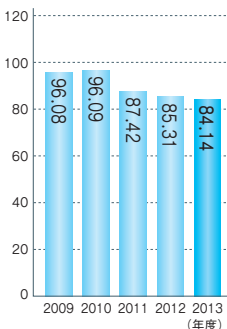
エネルギー使用量の推移

※データは、各年度とも当年2月21日～翌年2月20日までのものです。

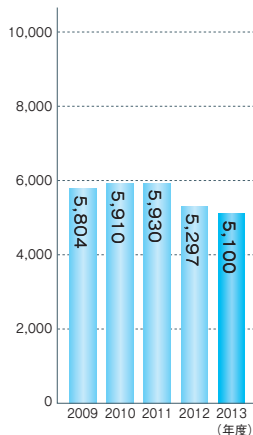
電気 (単位: 千kWh)



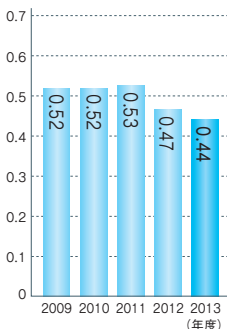
単位面積時間当たりの使用量 (単位: W/H.m)



水道 (単位: 千m)

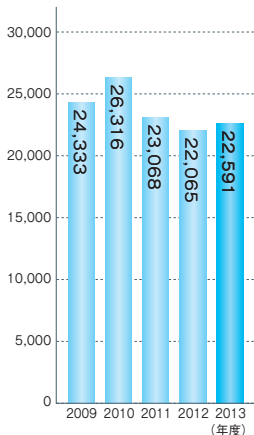


単位面積時間当たりの使用量 (単位: リットル/H.m)

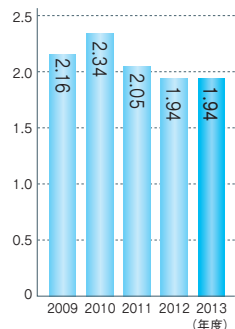


水道から井戸水への切り替え効果により、減少に繋がりました。今後は雨水利用や節水トイレの採用などにより削減を図ります。

ガス (単位: 千m)

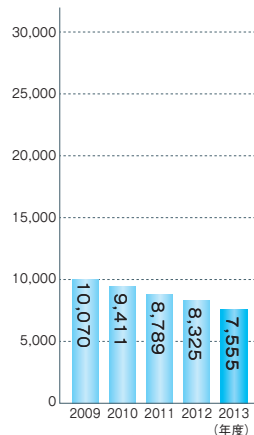


単位面積時間当たりの使用量 (単位: リットル/H.m)

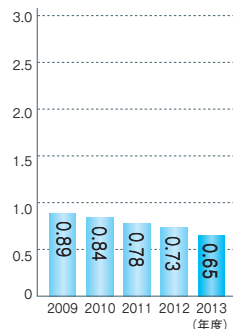


営業時間延長の店舗が増え、空調の利用時間が増えたことで増加になりました。今後は効率の良い設備転換により削減を図ります。

石油 (単位: 千リットル)

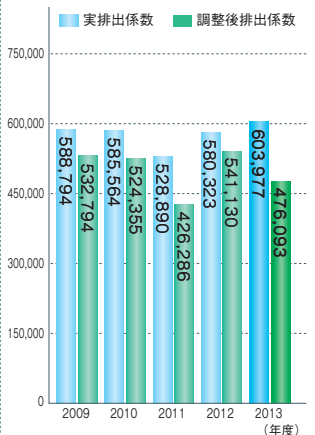


単位面積時間当たりの使用量 (単位: cc/H.m)

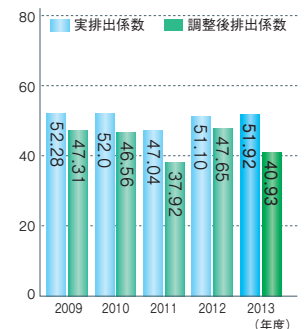


常用発電機から売電に切り替えた店舗の影響で大きく減少しました。今後は効率の良い設備転換により削減を図ります。

二酸化炭素排出量 (単位: t-CO2)



単位面積時間当たりの排出量 (単位: g-CO2/H.m)



実排出係数による排出量は増加したものの、東京電力、中部電力、北陸電力の調整後排出係数の削減効果により調整後排出係数による排出量はかなりの減少となりました。

3社の電気使用に伴う二酸化炭素の調整後排出係数

電気供給事業者	平成24年度 (t-CO2/kWh)	平成25年度 (t-CO2/kWh)
東京電力株式会社	0.000463	0.000406
中部電力株式会社	0.000469	0.000373
北陸電力株式会社	0.000546	0.000494

2013年度のCO2換算係数は下記より換算しました。

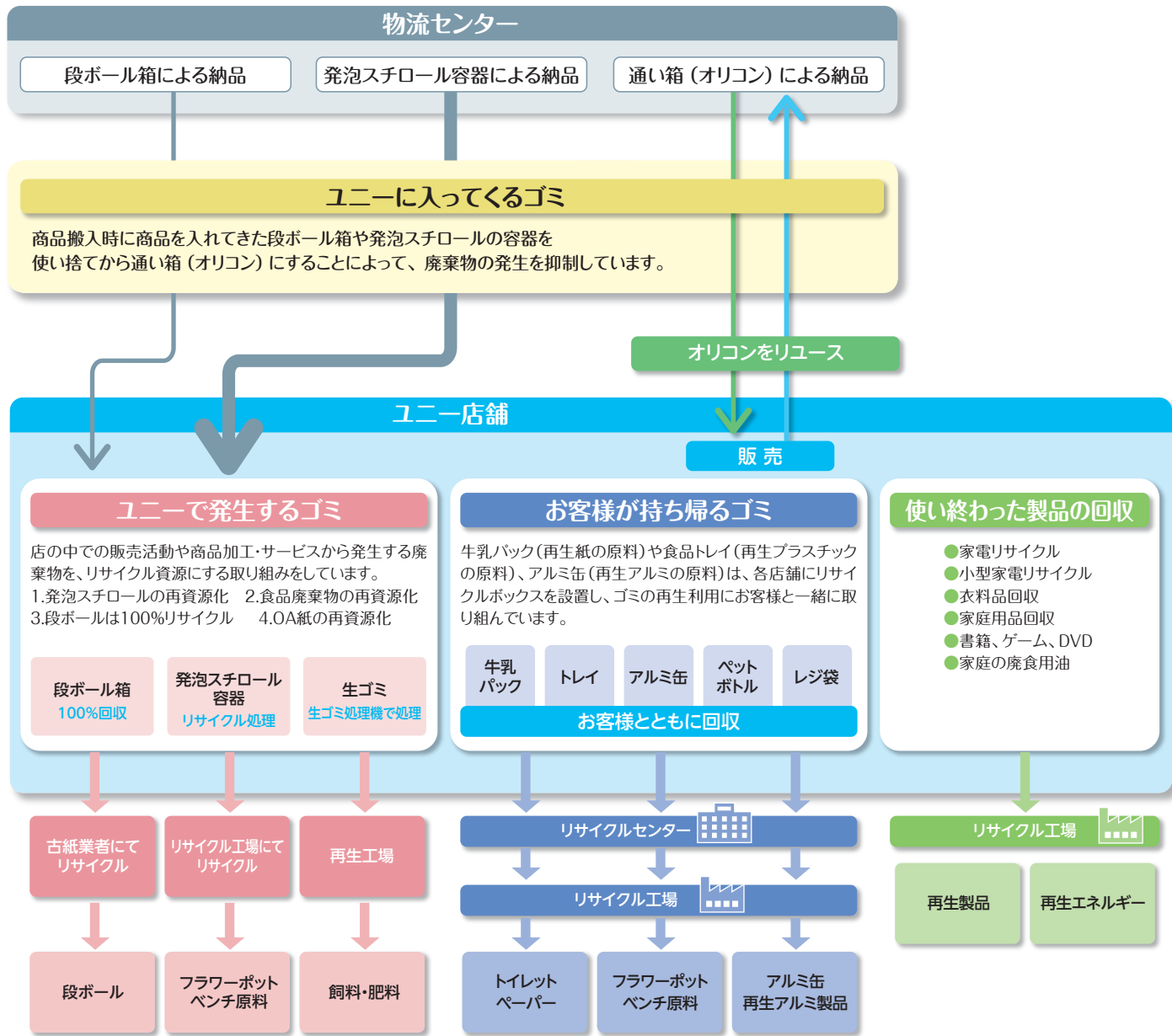
●電気…環境省ホームページ温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度について 電気事業者別のCO2排出係数(2012年度実績)(平成25年12月18日公表) ●水道…独立行政法人国立環境研究所「水道に関するCO2排出原単位の算定根拠」(環境省推奨) ●ガス・石油…環境省ホームページ温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度について 算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧(平成22年3月改訂後) ●調整後排出係数…電気事業者の調整後排出係数(京都メカニクスクレジット・国内認証排出削減量を加味している) ●単位面積時間当たりの使用量…CO2排出量/営業面積×営業時間

廃棄物を削減する取り組み



企業活動による廃棄物をできるだけ出さないようにするためには、廃棄物の発生場所や原因、種類などを正確に捉えることが必要です。ユニーでは全店舗で廃棄物計量器を設置し、排出場所・分類別に計量し、廃棄物の発生抑制やリサイクル推進に努めています。また、家庭に持ち帰るとゴミになる容器包装をできるだけ削減し、さらに使用済みの容器包装を店頭回収して再生利用しています。そして使い終わった製品のリサイクル回収も店舗では進めています。

廃棄物削減のための取り組み



廃棄物分別を徹底するために

ユニーの廃棄物分別計量は、店舗の直営部だけではなく、入店されているコンセッションナリーやテナント、お客様用ゴミ箱など共有部分での廃棄物など、あらゆる廃棄物で行っています。正確に分別計量してもらうために、関連している全ての人々を教育しています。



ユニーで発生するゴミ

ユニーでは2003年度から順次店舗に廃棄物計量器を設置し、店舗から排出される全ての廃棄物を排出場所ごとに分別計量しています。排出場所（売り場、専門店、その他）ごとに管理することで排出責任を明確にし、廃棄物の発生要因を追求し発生抑制に努めています。排出された廃棄物は分別を徹底することで再生資源としての価値が上がり、リサイクルが進みます。

2013年度の廃棄物排出量は2012年度対比99.5%で0.5%削減しました。今までは店舗から排出される廃棄物で構成比の高い段ボールを折り畳み式コンテナ（オリコン）や荷造り用わく箱（クレート）を使用することによって削減してきました。今後はさらに、商品廃棄を削減することによって、生ゴミやそれに伴う容器包装を削減していきます。また商品の簡易包装を推進し、家庭からもできるだけ廃棄物が出ない仕組みを構築していきます。

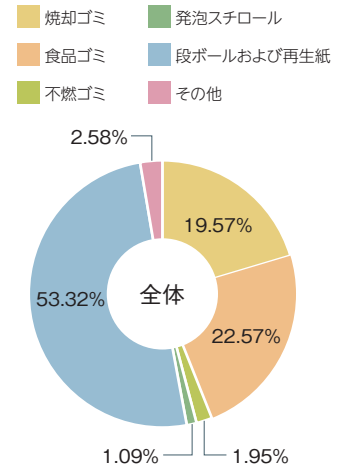
ユニーの直営だけでなく、売り上げ構成比が高まり廃棄物の排出量の増えている専門店にも分別教育を行い、廃棄物の発生抑制と正しい分別によって再生資源としての価値を高めリサイクルを進めていきます。

≫ 廃棄物排出量

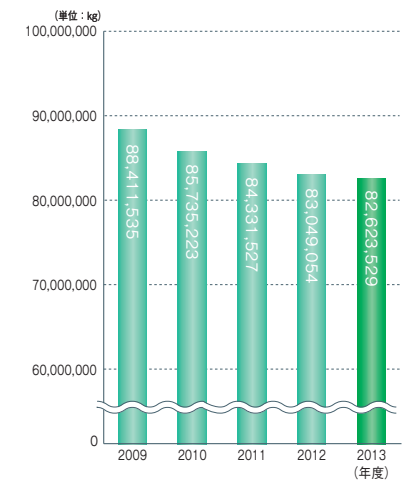
(単位:kg)

区分	種類	2011年度	2012年度	2013年度	前年比[%]	
可燃ゴミ	焼却ゴミ	一般可燃ゴミ	12,130,126	12,164,854	11,994,522	98.6%
		ビニール(食品系)	4,319,674	4,297,839	4,177,479	97.2%
		小計	16,449,800	16,462,693	16,172,001	98.2%
	食品ゴミ	生ゴミ	14,174,353	14,200,425	14,035,060	98.8%
		魚のアラ	3,177,342	2,520,947	2,322,053	92.1%
		てんかす	1,220,555	974,337	964,936	99.0%
		廃食用油	1,371,352	1,393,662	1,327,618	95.3%
		小計	19,943,602	19,089,371	18,649,667	97.7%
不燃ゴミ	ビン	1,054,398	1,058,184	1,129,825	106.8%	
	缶	512,169	491,763	482,476	98.1%	
	小計	1,566,567	1,549,947	1,612,301	104.0%	
発泡スチロール		982,894	958,302	903,002	94.2%	
段ボール および 再生紙	段ボール	40,787,926	40,409,890	40,681,559	100.7%	
	紙類(再生可)	2,110,142	2,417,343	2,472,695	102.3%	
	小計	42,898,068	43,785,535	44,057,256	100.6%	
その他	プラスチック	467,949	458,480	440,255	96.0%	
	ビニール(衣住系)	924,381	958,694	951,686	99.3%	
	ペットボトル	370,200	383,655	380,054	99.1%	
	陶器・ガラス	125,519	121,530	114,404	94.1%	
	金属カス	139,464	137,468	133,654	97.2%	
	その他	463,083	101,681	112,251	110.4%	
	小計	2,490,596	2,161,508	2,132,304	98.6%	
合計		84,331,527	83,049,054	82,623,529	99.5%	

≫ 廃棄物構成比率



≫ 廃棄物総排出量の推移



※2012年度の廃棄物排出量の段ボールの集計で一部データが加算されていませんでした。
本年度（2013年度）は2011年度と同じ範囲で集計しています。

廃棄物計量システム



売り場では廃棄物を種類ごとに別々の容器に分けて入れます。混ぜてしまうとリサイクルできないので、容器に入れる時にきちんと分別します。



廃棄物は排出場所・分別ごとにバーコードで管理し、計量器に載せ、重量を計ります。



シールを発行します。同時にデータは事務所の端末に記録、集計され、本社の端末に送信されます。テナントや売場には毎月集計された結果が告知されます。



計量した廃棄物は、それぞれ温度管理された廃棄物庫で保管されます。腐敗しやすい食品廃棄物などは冷蔵保管されます。

ユニーはお客様が自分で商品を選び、レジで清算するセルフサービスで販売しており、ほとんどの商品は容器に入れられ、包装されています。容器包装には、商品の品質保持や衛生安全のために、また持ち運びを安全で便利にする目的があります。しかし、これらの容器包装が家庭ゴミの50%を占め、廃棄処分やリサイクルに多くの手間やエネルギーが使われ、CO₂排出による地球温暖化の原因にもなっています。ユニーでは容器包装をできるだけ使わないお買い物や使用済み容器包装のリサイクル、サステナブルな原料の容器包装の使用を推進しています。

① 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋のように、お客様と一緒に「使わなくてもよい容器包装」を削減する。

- ◆ ノーレジ袋キャンペーン
- ◆ レジ袋無料配布の中止
- ◆ ばら売りなど、容器包装を使わない販売
- ◆ どうしても使用する容器包装の小型化・薄肉化
- ◆ トレイを使わない販売の検討
- ◆ 贈答品などの簡易包装
- ◆ マイボトルやマグカップなどの利用促進

② 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

お客様が商品と一緒に持ち帰った容器包装を回収し、再生資源にする。

- ◆ リサイクルによる店頭回収
- ◆ 再生資源として製品（トイレトーパーなど）やベンチなどにリサイクル
- ◆ 使用済みレジ袋を再びレジ袋にリサイクルする

③ サステナブル（持続可能な）原料を使った容器包装への取り組み

限りある化石資源（石油）を使用せず、繰り返し栽培可能な植物資源を原料にする。

- ◆ 環境配慮PB商品eco!onの容器にバイオマスプラスチックを使用
- ◆ 有料レジ袋にバイオポリエチレンを使用
- ◆ 生鮮食品の販売に生分解性バイオプラスチック、ポリ乳酸製パックを使用

① 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋削減への取り組み

スーパーでレジ袋の配布を始めたのは1970年代、薄くて丈夫、水に強く便利なことから瞬間に社会に浸透しました。ところが一度使うと廃棄されてしまい、自然界では分解しないことから、ゴミの増加や自然破壊につながると大きな問題になり、消費者団体などによる「お買い物袋持参運動」が1980年代に始まりました。ユニーでは1989年からレジ袋削減に取り組んでいます。2006年からは「ノーレジ袋キャンペーン」を開始、さらに啓発を進めましたが効果が出ず、2007年からは「レジ袋無料配布中止（有料化）」を始めました。廃棄されたレジ袋を焼却することでCO₂が発生することや原料である化石燃料（石油）の枯渇なども問題にされ、持続可能な社会の妨げになることから、ユニーでは2014年2月に全店の食品売り場でレジ袋の無料配布中止に踏み切りました。

レジ袋削減のための取り組み

お買い物袋持参運動開始

1989年に愛知県一宮市で「レジ袋をもう一度使いましょう」という、お買い物袋持参運動を開始しました。



お買い物袋持参運動の説明を受ける従業員（1989年11月、サンテラス一宮店）

マイバッグキャンペーン

2001年からは「何度も使えるレジ袋代わり」のマイバッグをスタンプカードと交換で差し上げるマイバッグキャンペーンを始めました。



ノーレジ袋キャンペーン

2006年から「レジ袋を使わないお買い物」をお客様と一緒に進めるために、ポスターや館内放送でアピールし、レジ袋の辞退率を高めることができました。



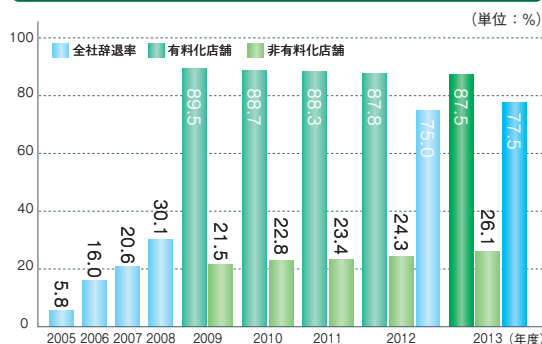
レジ袋の無料配布中止

2014年2月、全店の食品売り場でレジ袋無料配布を中止にしました。



アピタ伊勢崎東店

レジ袋辞退率の推移



レジ袋使用量の推移^{※1}

年度	枚数(単位：千枚)	重量(単位：t)	備考
2005	340,611	2,195	愛・地球博エコマネーに参加
2006	333,630	2,075	ノーレジ袋キャンペーン開始
2007	310,559	1,818	レジ袋無料配布の中止
2008	309,222	1,851	96店舗で無料配布中止
2009	134,678	1,029	170店舗で無料配布中止
2010	116,749	964	約73%の店舗で無料配布中止
2011	111,632	851	四日市市・弥富市などの店舗が加わる
2012	110,743	839	約80%の店舗で無料配布中止
2013	109,528	821	滋賀県、長野県、愛知県全域で無料配布中止

容器包装リサイクル法への対応^{※2}

年度	委託金額
2005	2億5,487万円
2006	2億7,322万円
2007	2億9,729万円
2008	2億7,978万円
2009	2億2,272万円
2010	1億6,655万円
2011	1億6,154万円
2012	1億4,868万円
2013	1億5,866万円 ^{※3}

※1 2008年にユーストアと合併し80店舗増える

※2 容器包装リサイクル法に基づき、財団法人日本容器包装リサイクル協会へ支払った委託金額

※3 PB商品のプラスチック容器使用増加のため微増した。

レジ袋無料配布中止 (有料化)

ユニーは、2007年6月に、横浜市のピアゴ中山店 (旧ユニー中山店) で初めて有料化を開始しましたが、単独での実施だったため、自治体や消費者・同業者との連携が取れず、またお客様からのご理解がいただけず来店客が減少、売り上げも一時低迷するといった厳しいスタートでした。

店舗での啓発活動の結果、売り上げは持ち直せましたが反省することがたくさんありました。これ以降、ユニーは自治体や市民との合意のうえ、周辺の近隣の同業社とも連携し、地域全体で取り組みました。その後は大きな問題もなく地域を拡大、2014年2月20日には全店舗レジ袋無料配布中止 (有料化) を実現しました。

- 1 自治体が、レジ袋削減は「廃棄物削減および地球温暖化防止」のためであることを広く市民に知らせ、主体的に取り組むこと。
- 2 地域の市民団体が支援して下さること。
- 3 地域の小売り事業者などが皆で参加すること。



自治体・市民団体・事業者の三者がそれぞれの役割を果たすために、協議会を設立し十分に話し合い、協定書を締結するよう努める。

地球環境活動に寄付

有料レジ袋を購入していただくと、ユニーは1枚につき1円を、地域の自治体の環境活動に寄付します。

■2013年度実績
102市町 185店舗 2,563万2,688円

全店舗でレジ袋有料化

2014年2月20日より、ユニー全店舗の食品売場でレジ袋無料配布中止を実施しました。2007年6月に横浜市のピアゴ中山店 (旧ユニー) を最初に、次々に各地域の自治体や市民の皆様、同業他社と協働でレジ袋の有料化を進めてきましたが、ようやく全店舗で実施することができました。また、この活動はお客様のご理解あつてのことなので、各店舗ではお客様への啓発活動を自治体と一緒に開催しました。

2014年2月20日よりレジ袋を有料化した店舗

	店舗数
新潟県	3
栃木県	2
群馬県	6
埼玉県	6
神奈川県	7
千葉県	3
静岡県	3
京都府	1
奈良県	2
合計	33



横浜市 アピタ長津田店



埼玉県 アピタ吹上店



栃木県 アピタ足利店



群馬県 アピタ高崎店

減装ショッピング

使用済み容器包装が家庭ゴミの50% (容積) といわれ、使用削減と容器包装の軽量化などによる排出抑制が廃棄物削減の大きな課題です。ただし、容器包装には商品の鮮度や品質を保全し、消費者が安全・安心に商品を持ち帰る機能が必要です。こうした容器包装の機能を持ち環境負荷を低減した環境配慮設計された容器包装をメーカーに提案、そうした商品を品揃えして消費者に購入していただくことは小売業の役割だと言えます。

そこで、中身に対して容器包装の割合 (重量) の少ない商品やPOPにマークを付けて消費者に紹介したうえで購入を促す「減装ショッピング」を提唱しています。これを推進する神戸大学とNPOに協力し、使用済み容器包装の発生抑制に効果の実証試験を支援しています。2013年は名古屋にある椙山女学園大学の学生も協働で実施しました。

マークの付いた商品の販売増加はまだ数字に表れてはいませんが、消費者には関心を持っていただけました。



減装ショッピングをお客様にアピール



売場に掲示



子ども達に紙芝居で説明



飲み終わったペットボトルでエコ工作

② 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

リサイクルボックスによる容器の店頭回収

ユニーではお客様の家庭から排出されるゴミを削減・再生資源とするために、食品取り扱い店舗全店で使用済み容器包装を店頭で設置したリサイクルボックスで回収しています。これはお客様と一緒に進める「循環型社会構築」のための取り組みの一つです。リサイクルボックスで回収する容器包装は再生利用ルートを確認し、国内で循環するシステムで運用しています。各店舗では回収実績を毎月集計し、ポスターで公表しています。またリサイクル製品を分かりやすく説明したポスターなども掲示し、お客様にリサイクルの仕組みを理解していただけるようにしています。お客様の意識も変わり、年々店頭回収量は増加しています。今後は価値を高めるリサイクルのルートづくりを構築することによって、お客様にもさらなる啓発を進めていきます。



回収した容器はリサイクルセンターに集約

リサイクル回収の輸送にかかるエネルギーやCO₂排出などが問題にされることがあります。ユニーでは店舗から物流センター内のリサイクルセンターへの搬送に配送便の帰り便を使うことにより、無駄な燃料やCO₂の排出削減に努めています（現在中京地区・北陸地区の物流センターにリサイクルセンターを設置。その他の地区は店舗から直接リサイクル工場に搬送しています）。リサイクルセンターでは、各店舗から回収した使用済み容器包装を計量し効率的に搬送しやすいように圧縮、それぞれのリサイクル工場に搬出します。



弥富物流センター内のリサイクルセンター

容器包装リサイクルの仕組み



使用済み容器包装のリサイクルループ

牛乳パックのリサイクル

牛乳パックはリサイクルボックスで回収され、リサイクルセンターで計量されます。他の古紙とともにユニーの包装紙・袋・トレイトペーパーに再生しています。

リサイクル工場では、パルパーで液化しスクリーン工程で原料を精製し、抄紙機で原紙を作り、リフターで巻きなおして製紙します。自動包装機でトレイトペーパーを包装し、出荷されます。

年度	2009	2010	2011	2012	2013
回収量	635,532	621,980	598,709	576,332	581,646

年度	参加店舗	食品取扱店舗	参加率 (%)	回収量 (kg)
2009	223	223	100.0	635,532
2010	223	223	100.0	621,980
2011	217	217	100.0	598,709
2012	217	217	100.0	576,332
2013	220	220	100.0	581,646

発泡スチロールトレイのリサイクル

食品トレイはリサイクルボックスで回収され、リサイクルセンターで計量されます。さらに洗浄・脱水して、ペレット（チップよりも細かく）にする。洗浄粉砕処理してチップ状にする。

リサイクル工場では、生鮮食品などに使われる発泡スチロールトレイは工場ではフラーボットやベンチの原料に再生しています。

年度	2009	2010	2011	2012	2013
回収量	333,789	321,549	304,644	291,151	291,509

年度	参加店舗	食品取扱店舗	参加率 (%)	回収量 (kg)
2009	223	223	100.0	333,789
2010	223	223	100.0	321,549
2011	217	217	100.0	304,644
2012	217	217	100.0	291,151
2013	220	220	100.0	291,509

アルミ缶のリサイクル

アルミ缶はリサイクルボックスで回収され、リサイクルセンターで計量・圧縮されます。薄い板にして、アルミ缶に加工する。溶かしたアルミニウムを塊（再生地金）にする。高温でアルミ缶を溶かす。

リサイクル工場では、アルミの製造には膨大な電気を必要としますが、アルミ缶の再利用によってエネルギーが節約できます。

年度	2009	2010	2011	2012	2013
回収量	474,305	521,590	534,081	555,663	596,767

年度	参加店舗	食品取扱店舗	参加率 (%)	回収量 (kg)
2009	172	223	77.1	474,305
2010	173	223	77.6	521,590
2011	173	217	79.7	534,081
2012	177	217	81.6	555,663
2013	193	220	87.7	596,767

ペットボトルのリサイクル

ペットボトルはリサイクルボックスで回収され、リサイクルセンターで計量・圧縮されます。フレークを溶かして透明なPET樹脂に戻す。フレークを溶かして透明なPET樹脂に戻す。粉砕処理をして細かくする。

年度	2009	2010	2011	2012	2013
回収量	1,619,948	1,755,475	1,760,944	1,865,920	2,146,522

年度	参加店舗	食品取扱店舗	参加率 (%)	回収量 (kg)
2009	172	223	77.1	1,619,948
2010	182	223	81.6	1,755,475
2011	178	217	82.0	1,760,944
2012	184	217	84.8	1,865,920
2013	193	220	87.7	2,146,522

店頭回収の現状

リサイクルボックスでの回収実績

2013年度のリサイクルボックス回収実績は、4種類とも前年を上回りました。これは、リサイクルボックス設置店舗を増やしたこと、お客様の資源再生に対する理解向上の成果と考えられます。特にペットボトルの回収量増加が顕著です。これは自治体回収や集団回収では常に回収していないため、いつでも持って来られる店頭回収の利便性の高さが回収率に繋がったといえます。店頭回収は作業的には大変ですが、お客様と一緒に循環型社会を構築することができ、環境貢献として大切なことと考えております。

リサイクルボックスでの店頭回収量

	アルミ缶	牛乳パック	発泡トレイ	ペットボトル	店舗総合計
回収店舗数	193店舗	220店舗	220店舗	193店舗	—
回収店舗	87.7%	100.0%	100.0%	87.7%	—
全社合計 (43期)	596,767kg	581,646kg	291,509kg	2,146,522kg	3,616,444kg
全社合計 (42期)	555,683kg	575,332kg	291,151kg	1,865,920kg	3,288,086kg
前年比	107.4%	101.1%	100.1%	115.0%	110.0%

③ サステナブル (持続可能な) 原料を使った容器包装への取り組み

バイオマスプラスチック製容器包装

容器包装にはプラスチック製のものが多く、その原料のほとんどは石油です。石油など化石資源は地球に残された量に限りがあり、近い将来には枯渇してしまう恐れのある貴重な資源です。使い捨てられる容器包装に、そのような貴重な資源を使ってよいのでしょうか。また化石資源である石油は産出する時や廃棄処分する時にもCO₂を排出し、地球温暖化の原因になるといわれています。

こうしたことを考えて、ユニーでは2006年から植物を原料としたバイオマスプラスチック製容器を使っています。植物は光合成により大気中からCO₂を吸収して成長し、また繰り返し栽培できることから、サステナブル (持続可能な) 原料です。

バイオマスプラスチックの特徴

バイオマスプラスチックは石油由来のプラスチックと異なる特徴があります。

- 1 植物が原料なので、石油資源が節約できます。
- 2 植物は地球上のCO₂を吸収するので、焼却処分してもCO₂を増やしません。
- 3 ポリ乳酸のような生分解性なのは、生ゴミなどの堆肥に入ると、熱と水分で水とCO₂に分解し廃棄物になりません。
- 4 使用済みバイオマスプラスチック製容器は、回収しリサイクルしています。



バイオスマーク

動植物を原料としたプラスチック
使用後は水と二酸化炭素に分解され、
自然に還ります。

バイオマスプラスチック (ポリ乳酸) 製容器包装

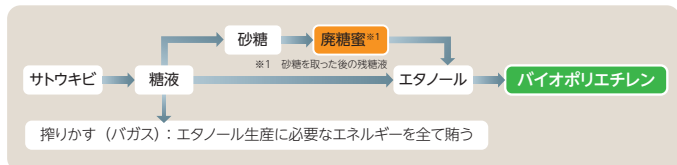
ユニーではサステナブル (持続可能) な資源であり、CO₂を増やさないことから、2006年より卵ケース (きらら紅) と青果売場で透明ケースやカットフルーツカップにバイオマスプラスチック (ポリ乳酸) を使用しています。使用済みの容器は回収しリサイクルしています。



バイオマスプラスチック (バイオポリエチレン) 製容器包装

植物性のバイオポリエチレン

ポリ乳酸製の容器に続き2012年から、サトウキビの廃材を利用したバイオポリエチレンを、容器包装 (液体洗剤や柔軟剤の容器・レジ袋) に使っています。従来の石油由来のポリエチレンと同じ性質を有しますが、植物性なので大気中のCO₂を吸収し、また繰り返し栽培できるので、サステナブル (持続可能な) 原料です。



レジ袋にバイオマスプラスチックを使用

2012年6月から、ユニーのレジ袋無料配布を中止している店舗で販売する有料レジ袋を、バイオポリエチレン25%含有製品に代えました。サトウキビの廃材から作られたバイオポリエチレンは、石油由来100%のレジ袋に比べ、サトウキビの生産～ポリエチレン原料製造工程～レジ袋製造～輸送～焼却処分までのCO₂を17%削減します。ユニーとしてはCO₂を年間262,231kg削減します。(試算：福助工業)

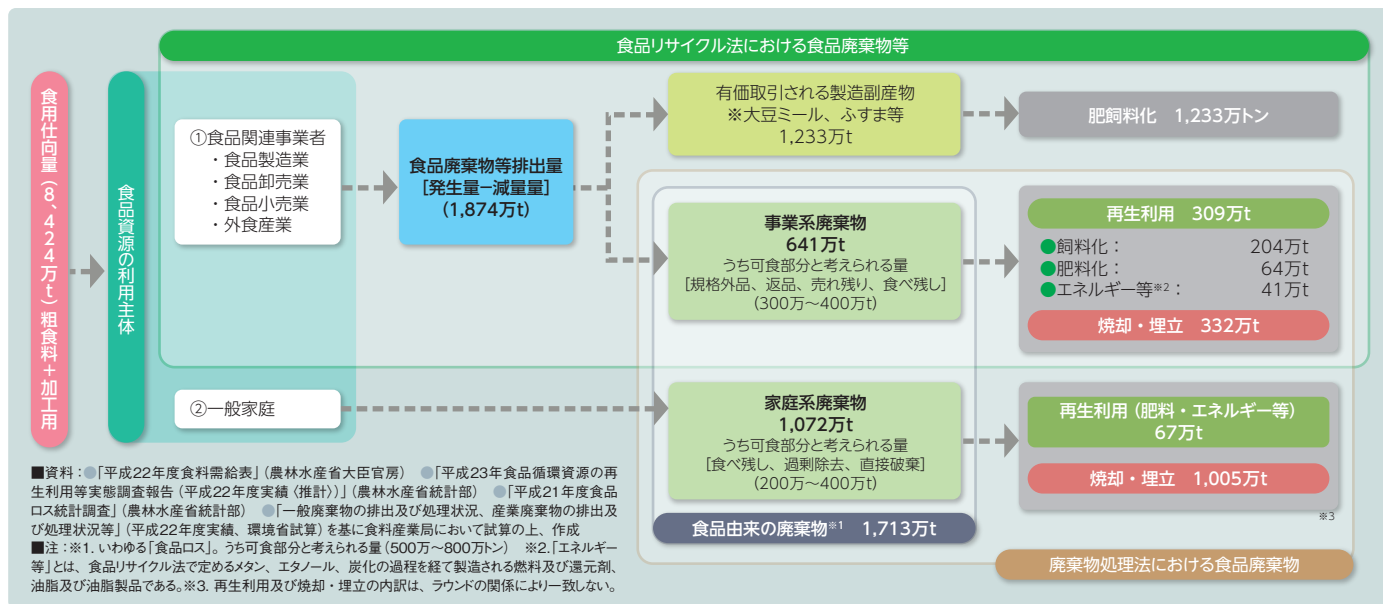


日本の食料自給率は40%に満たない状況で多くの食料を輸入に頼っていながら毎日たくさんの食料を廃棄しています。ユニーは食品リサイクル法を遵守し、食品廃棄物をできるだけ発生させない取り組みと、地域循環型農業による「食品リサイクルループ」の構築を推進しています。さらにこうした取り組みをお客様に理解してもらうために、農業体験や消費者交流会を開催しています。

日本の食品廃棄物等の利用状況

食品リサイクル法の対象である食品関連事業者の排出する事業系廃棄物は641万t、家庭から排出される廃棄物は1,072万tもあり、一年間で廃棄される食品由来の廃棄物（食品ロス）は1,713万tにもなります。そのうち500万～800万tはまだ食べられるものと考えられています。食品廃棄物の発生抑制には、食品関連事業者だけの問題ではなく、消費者も一緒に取り組む必要があります。また、生産者から消費者までのバリューチェーンで対策を講じることが今後の課題です。

■概念図（平成22年度推計）



食品廃棄物発生抑制への取り組み

■ユニーの店舗から排出される未利用食品（食品残さ）

2007年の食品リサイクル法改正では、「食品関連事業者においては、食品廃棄物等の発生抑制を最優先で取り組むもの」と位置づけられ、2012年の見直しでは、「業界区分の細分化と各々の発生率の目標値」が設定されるなど、発生抑制の重要性が高まっています。

ユニーから排出される食品廃棄物は、加工時に発生するキャベツの外葉や魚のアラなどの非可食部分と、「商品の売れ残り」「飲食店の食材の残り」などの可食部分があり、後者は消費者行動とも密接に関連しています。食品廃棄物の発生抑制を進めるためには、食品関連事業者と消費者が連携した取り組みが必要です。

市場や生産地から生鮮食品が搬入され、売り場に出すために調理加工する際に排出される食品残さ

総菜やパンなど店内で製造する際、飲食店で調理する時に排出される使用済み廃食用油

飲食店などでお客様が残した食品残さ

調理・パック詰・青果の調理クズ・魚のアラ・精肉クズなど

惣菜など製造・飲食の廃食用油

食品の食べ残し

商品の売れ残り（生鮮食品・工場製品）

非可食残さ

製品廃棄

ユニーの食品リサイクル方針

2001年にユニー環境部が設立した時点で、食品リサイクル法はすでに施行されており、食品関連事業者は業種の区別なく、食品廃棄物を20%以上リサイクルすることが義務付けられました。ユニーは環境負荷をできるだけ少なくしつつ達成するために「食品リサイクルの方針」を決めました。環境負荷が少なく、経済的負担が重くなく、かつ持続可能な方法を検討しました。そして、食品廃棄物を再生利用した循環型農業「食品リサイクルループ」を構築し、営業店舗の地元での地産地消も実現しました。

その後2007年の食品リサイクル改正では、業種ごとのリサイクル率目標値が新たに設定（小売業は45%）され、ユニーではさらに取り組みの強化を図りました。

- 1 安全であり環境負荷が少ないこと。
(大気汚染・水質汚染を予防し、省エネであること)
- 2 再生資源として有効であること。
(有価資源になり再廃棄しない)
- 3 経費が抑えられること。
(公共処理料金との比較)
- 4 継続できる方法であること。
(リサイクルルートが確立していること)

食品リサイクルの実績

リサイクル実績

2013年度は既存のリサイクルループへの参加店舗が増えたこと、てんかすリサイクルが年間を通じ稼働したことなどによりリサイクル率は59.5%に上昇しました。食品小売業のリサイクル目標値である45%を大きく上回っています。今後もリサイクルループへの参加店舗を順次拡大していく予定です。

店舗から発生する食品廃棄物（未利用食品）	2012年度			2013年度		
	排出量 (t)	リサイクル量 (t)	リサイクル率 (%)	排出量 (t)	リサイクル量 (t)	リサイクル率 (%)
生鮮食品の調理クズ（野菜、果物など）、賞味期限切れや飲食の食べ残し	14,200	6,850	48.2%	14,035	7,257	51.7%
魚のアラ（魚介類の調理クズや内臓・骨）	2,521	2,212	87.7%	2,322	2,059	88.7%
廃食用油（使用済み揚げ油）	1,394	1,394	100.0%	1,328	1,328	100.0%
てんかす（フライやテンブラなどの揚げカス）	974	418	42.9%	965	455	47.2%
合計	19,089	10,874	57.0%	18,650	11,099	59.5%

※端数を四捨五入しているため、合計数値と一致しない場合があります

食品リサイクルの推移

商品の廃棄ロス削減に取り組んできた結果、食品廃棄物の発生量は年々減少しています。売上100万円当たりの発生量（発生原単位）も毎年減少しており、2013年度は売上高百万円当たりの発生量は約32.8kgであり食品小売業の目標値65.6kg/売上高百万円を大きく下回っています。2007年度比では74.6%となり、発生原単位を加味した再生利用等実施率は69.6%に上昇しました。今後も未利用食品を廃棄する「もったいない」をできるだけ少なくするよう努めていきます。

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
食品廃棄物発生量 (t)	19,605	21,436	22,908	21,210	19,944	19,089	18,650
リサイクル量 (t)	6,656	7,561	9,444	10,378	10,812	10,874	11,099
リサイクル率 (%)	34.0	35.3	41.2	48.9	54.2	57.0	59.5
再生利用等実施率（当該年度の単純実施率に2007年度比の発生抑制を加味した値） (%)	34.0	47.3	48.9	59.0	64.1	66.5	69.6
食品廃棄物等の発生原単位（発生量：kg/売上高：百万円）	44.00000	35.83000	38.99000	35.64000	34.67696	34.15311	32.80502
発生原単位の対前年度比 (%)	-	81.4	108.8	91.4	97.3	98.5	96.1

※端数を四捨五入しているため、合計数値と一致しない場合があります

食品リサイクルの歩み

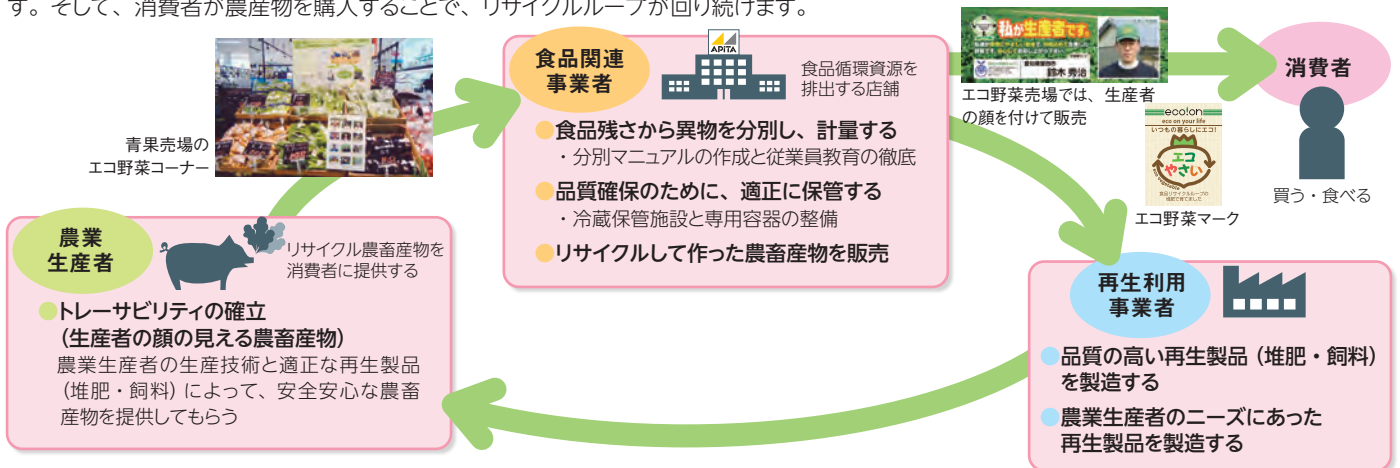
2001年に食品リサイクル法が施行されるにあたって、ユニーでは各地で「地域循環」を目指し、できるだけ環境負荷の少ないリサイクルループの構築に努めてきました。

- **2000年**
 - 福井市で地域循環堆肥へのリサイクルに取り組む
 - 名古屋市内店舗に熱乾燥処理機導入（アピタ新守山店）
- **2001年**
 - アピタ福井大和田店が地域循環堆肥へのリサイクルに参加
- **2002年**
 - 茨城県で堆肥リサイクルに取り組む
 - 愛知県内2店舗に真空乾燥機導入（アピタ岡崎北店・アピタ東海荒尾店）
- **2003年**
 - 富山市内4店舗、富山エコタウンに参加（バイオガスによる発電）
- **2004年**
 - 長野県（アピタ伊那店）・奈良県（アピタ大和郡山店）の店舗に真空乾燥機導入
 - 愛知県内3店舗でJA愛知経済連の協力により堆肥化および作物栽培・販売の実験開始
 - 三重県で堆肥リサイクルに参加（アピタ鈴鹿店）
- **2005年**
 - 三重県内で堆肥を使って栽培した作物の販売開始（アピタ松阪三雲店）
 - 愛知県で2店舗（アピタ瀬戸店・アピタ江南西店）に真空乾燥機導入
- **2006年**
 - 横浜市内3店舗が、食品残さを飼料にして飼育した豚肉を販売する「横浜市有機リサイクル」に参加
- **2007年**
 - 愛知県刈谷市で構築した「食品リサイクルループ」が、1月に全国で初めて食品リサイクル法再生利用事業計画に認定される
- **2008年**
 - 第1回食品リサイクル推進環境大臣賞最優秀賞受賞
 - けやきオーク前橋（アピタ前橋店）・アクアオーク大垣（アピタ大垣店）に真空乾燥機を導入
- **2009年**
 - 名古屋、春日井および瀬戸市内店舗から排出した食品残さを飼料にする取り組み「中部有機リサイクル」に参加
 - 千葉県・埼玉県・山梨県・石川県でリサイクルループの取り組みを始める
- **2010年**
 - 三重県（三功）、神奈川県（横浜市有機リサイクル）、富山県（富山グリーンフードリサイクル）の既存リサイクルループを再生利用事業計画に申請。8月神奈川県ループが認定される
 - 愛知県（中部有機リサイクル）のエコフィードで豚の飼育実験を実施
 - 千葉県（プライトビック）では、コンビニエンスストアのサークルKサンクス・ファミリーマートと共同でリサイクルループを構築。ユニーの関東地区で山崎製パンが製造した「エコフィードで育てた豚肉使用の惣菜パン」を販売
- **2011年**
 - 3月千葉県（プライトビック・山崎製パン）のリサイクルループが認定される。6月エコパークの惣菜パンをユニーとコンビニ2社で販売
 - 6月三重県（三功）のリサイクルループが認定される
 - 愛知県・岐阜県（中部有機リサイクル）のリサイクルループが認定される。環境省中部地方環境事務所の地域循環圏構築事業に参加し、岐阜県多治見市を組み込む
- **2012年**
 - 京都府の京都市有機質資源のエコフィードによる鶏卵生産のリサイクルループが認定される
- **2013年**
 - 京都府有機質資源のリサイクルループに滋賀県・奈良県の店を加え、認定される
 - 福井県の長谷川造園とJA花咲ふくのリサイクルループを申請し認定される
 - 新潟県の不二産業とJA新潟みらいのリサイクルループを申請し認定される
 - 長野県のいいた有機とJAみなみ信州のリサイクルループを申請し認定される
- **2014年**
 - 静岡県、山梨県のとんかす由来の堆肥（静岡油化工業）でサツマイモを栽培するリサイクルループが認定される
 - 埼玉県・群馬県でアイル・クリーンテックと角屋商店のリサイクルループを完成、認定される
 - 茨城県・栃木県でむかしの堆肥とレインボー・フューチャーとのリサイクルループを完成、認定される
 - 農林水産省からの補助金を受け、石川県のトスマク・アイとJA松任とのリサイクルループに取り組み、完成。認定されたことで1府18県下でのリサイクルループが完成
 - 第34回食品産業優良企業等表彰「環境部門」において、農林水産大臣賞を受賞
- **2014年**
 - 2014愛知環境賞において銀賞を受賞
 - JAグループ愛知との農業体験・消費者交流会をサークルKサンクスと共同で実施

食品リサイクルループの構築

リサイクルループを構成するパートナーシップ

ユニー、再生利用事業者、生産者がそれぞれの役割を果たすことによって、リサイクルの環が完成します。食品を無駄にせず、ゴミも減らすことができる地球にやさしいライフスタイルです。リサイクルの環で作った野菜や肉、卵は安全安心でおいしく、作った人の顔の見える農産物です。そして、消費者が農産物を購入することで、リサイクルループが回り続けます。



リサイクルループを有効に運用するために

店舗の所在地で食品リサイクルループを構築し、地域の再生利用事業者や農業生産者とパートナーシップを図っていくことがユニーの方針です。環境担当者は、優良な堆肥や飼料を製造する再生利用事業者と組み、また、生産された農畜産物を仕入れ販売することは、商品部や店舗担当者の仕事です。リサイクルループを円滑に推進するために、定期的に情報を交換し課題を解決しています。

環境担当者の役割

食品残さをリサイクルするためにパートナーを探す

リサイクルループで生産した農作物を販売することを目的としてパートナーを探す

再生利用事業者の製造する堆肥・飼料の品質確認。

再生製品(堆肥や飼料)を利用する農業者を探す

地産地消を前提に生産技術の高い農業者と組む。

仕入れ担当者・販売担当者の役割

リサイクル農作物を販売

生産された農作物を販売するために、社内で検討する

農畜産物の生産履歴・品質が社内基準を満たす。

農業生産者と食品関連事業者がパートナーシップを図る

販売計画を基に生産計画を立て購入契約を結ぶ。

売場ではリサイクル作物の特徴を消費者へ充分にアピールする

売り場に、「安全・安心な農作物」であることを明示。

2014 愛知環境賞で銀賞を受賞

愛知県では、2005年からJAグループと連携し食品リサイクルを推進してきました。刈谷市の再生利用事業者のヒラテ産業とJAあいち経済連と行った堆肥化の取り組みです。この取り組みは、2007年に食品リサイクル法の再生利用事業計画として全国初の認定を受けました。同年には「第1回食品リサイクル推進環境大臣賞最優秀賞」も受賞しています。また一宮市のディーアイディーでも、同様の取り組みを開始し、2008年にリサイクルループの認定を受けています。

その後「エコ・ファーストの約束」に基づき、1府18県に拡大して15件の食品リサイクルループを完成させました。こうした取り組みが地域循環型モデルとして先駆的であり、他への波及効果も期待できると評価され、愛知環境賞での銀賞受賞にいたりました。

地域に根ざした循環型農業は、地産地消・食の安全にも繋がります。生物多様性にも貢献しています。今後はグループ企業であるサークルKサンクスや同業他社と一緒に地域循環圏の構築を目指します。

D.I.Dバイオマスリサイクルシステム・JAグループ(愛知県)

●サークルKサンクスを環の中に組み入れ、さらに食品残さの搬入地域を拡大しました



第22回「食品安全安心・環境貢献賞」を受賞

ユニーは、日本食糧新聞社が制定(農林水産省・環境省後援)した第22回食品安全安心・環境貢献賞を受賞しました。食品リサイクルループなどステークホルダーとともに進める継続的な環境保全活動が評価されました。



受賞の挨拶をする大野業務サポート本部長



表彰式(右/大村愛知県知事、中央/表彰状 佐古社長、左/EPOC新美会長)



各地で広がる食品リサイクルループ

ユニーは店舗を営業している各地域で食品リサイクルループを構築し、循環の環を継続していくことを目標としています。食品リサイクルループは、未利用食品を再生利用するだけでなく、消費者と農業生産者を結び、地産地消を実現する有効な手段でもあります。トレーサビリティも明確であり食の安全・安心にもつながります。さらに、食品リサイクル法の「再生利用事業計画」の認定を受けることによりリサイクルループの有効性と継続性を高めています。現在、店舗所在地の1府18県で15件のリサイクルループを構築しています（原発事故影響による福島県を除く）。



食品リサイクル普及に向けての取り組み

農業体験と生産者との交流

食品リサイクルループで生産された作物の収穫体験とその生産者との交流会を定期的に開いています。消費者には、田畑の土に触れて、収穫の喜びと食べ物の大切さを実感してもらうほか、安全・安心な農産物作りにかかる生産者の努力を知っていただきました。



田植体験 (JAあいち中央)

JAあいち海部 エコ部会

食品リサイクルループに当初から協力していただき地域循環型農業を実践しているJAあいち海部エコ部会では、毎年総会を開催し前年度の総括と次年度の計画を承認しています。エコ部会役員、仲卸業者、ユニー青果部で定期的に会合をもち、互いの意見のすりあわせを行い、リサイクルループの継続的発展を図っています。



第7回JAあいち海部エコ部会総会
JAあいち海部 エコ部会総会 挨拶をする河上青果部長

自然共生社会

生物多様性 自然共生社会を構築するために

私たちの生活は、さまざまな「生物多様性」の恵みをいただいて成り立っています。ユニーでは、商品を通して生物多様性の恵みをお客様にお届けしています。そしてお客様がこうした商品を購入してくださることで「生物多様性」を守ることに繋がる、そうした取り組みを進めています。また次世代を担う子ども達が体験を通して、「私達はいろいろな生き物と一緒に生きている」ということを学ぶ環境学習を行っています。

命と暮らしを支える生物多様性

地球が誕生して以来、長い時間をかけて私たち人間を含めたさまざまな生き物が生まれ、つながり合って生きてきました。その生物多様性がもたらす恵み「生態系サービス」によって、私たちの命や暮らしは支えられています。生物多様性条約では、この生き物のつながりを3つのレベルに分類しています。

■生物多様性の危機

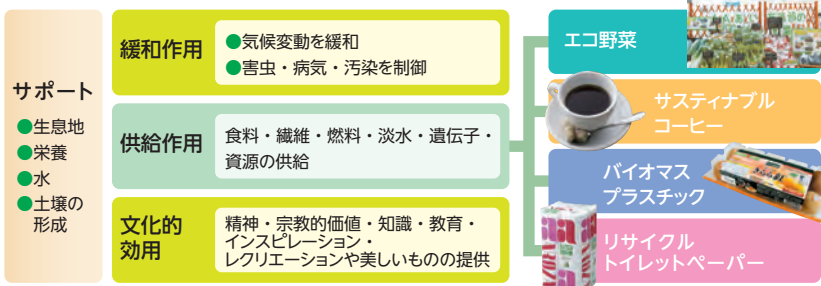
地球上に3,000万種の生き物がお互いにつながり合っている生物多様性ですが、人間の活動が原因で毎年4万種が絶滅していると推定されています。その要因は、①開発・乱獲により自然を破壊している、②里地里山などに人間が手を入れなくなった、③外来種の持ち込み、化学物質の排出などで生態系を攪乱した、④地球温暖化の影響、が挙げられています。

- 生態系の多様性**
海や川、森、里、さまざまな自然があること
- 種の多様性**
いろいろな生き物がいること
- 遺伝子の多様性**
同じ種でも個体差があること

生物多様性を守る取り組み

生物多様性は、私達に見えないところで恵みをもたらしてくれています。例えば、私達が生きるために必要な酸素は植物によって作られ、汚した水は微生物によって浄化されています。

こうした恵みを与えてくれる生物多様性を守って作られた食べ物や製品を選んで購入することで、お客様は生物多様性に貢献することになるのです。ユニーでは、商品を通して生物多様性の恵みを「供給作用」を通してお客様にお届けしています。



テーブルの上の生物多様性

ユニーの売り場に並んでいる食品は「生物多様性の恵み」です。生物多様性を身近なことに感じ、「私達は生き物の命をいただいて生きている」こと、自然環境やそこで生きる生き物を大切に守ったうえで生産された食べ物を選ぶことで、生物多様性に貢献することを伝えることが私達の務めです。



いろいろな生き物と一緒に生きる

次世代を担う子ども達に、身近な生き物とふれあうことで命を育む食べ物のことや、いろいろな生き物と一緒に生きていることを体感する環境学習を行っています。

農業体験

食品リサイクルループによる食品循環資源で作った堆肥で栽培した作物の収穫体験を実施しました。堆肥が発酵する時の臭いや熱を体感するとともに、堆肥で育てた野菜の畑にはミミズやカエルが生息していることを確認しました。



食品リサイクルの堆肥に触れる



大根収穫 (JAあいち海部)



芋ほり (JAあいち中央)

なごや環境大学インタープリター養成講座

伝える人 (インタープリター) として、魚やミツバチの生きている場所を訪ね、魚をさばいたり、蜜を収穫することで、生き物の恵みをいただいていることを体感し、家族や友達に伝えることを学びました。



ミツバチの巣から蜜を収穫



魚をさばく

エコ博 お店で生き物と触れ合いました

子ども達がお買い物に訪れるアピタの店でエコ博を開催し、生き物の命にふれ、「みんな大切な命」について学びました。

日本モンキーセンターキッズズー

子ども達に「生き物の命」と触れ合うことを体感するイベントを公益財団法人日本モンキーセンターとの協働企画としてエコ博で開催しました。カメやハムスターと触れ合い、いろいろな生き物と一緒に生きていることを感じました。



大きなリクガメ



小さな命に触れ合う

名古屋港水族館

ユニー本社の地元にある名古屋港水族館とコラボレーションし、移動水族館を開催しました。アカウミガメに触れたり、海の生き物に関するクイズ大会などを実施し、海に生きる生き物を知り学びました。



ウミガメに触れ合う



海の生き物クイズ

愛知県水地盤環境課 三河湾の生き物

愛知県との共催で、三河湾の生き物との触れ合いを通して、地元三河湾をもっと知ってもらおう活動を行いました。



三河湾の生き物と触れ合う

森を守る活動

森の町内会

森を守るために間伐し、その費用を環境評価として価格に反映させた紙を選んで使うことで、森林保全に貢献する活動です。ユニーは2013年の環境レポートなどの環境関連印刷物に7,286kgの森の町内会「間伐に寄与する紙」を使用し、長野県の0.47haの間伐に貢献しました。



森の町内会ロゴ

森の命を守る (キリン水源の森保全活動)

ユニーはエコ・ファースト企業のキリンビールやライオンとの共同企画でお客様と一緒に植樹活動を行いました。木を植えた後に手を入れることで森林を健全に保全できることを学びました。



キリン水源の森保全活動



生物多様性を利活用した商品

サスティナブルコーヒー

コーヒーは熱帯・亜熱帯の森で栽培されています。森は、たくさんの生き物の棲かであり、二酸化炭素を酸素に変える重要な役割を担っています。

サスティナブルコーヒーは、森とコーヒー栽培が共存できるように環境基準を守り、生態系を保全し、適正な価格で取り引きされているコーヒーです。そして、地球の未来、人々の未来がより良くなることを目指しているコーヒーです。世界的な環境認証団体により、お墨付きの「認証ロゴ」が与えられ、一般のコーヒーと見分けられるようになっているので、消費者にはぜひ購入して味わい、香りを楽しむとともに、森や生き物のことを考えていただきたいです。



サスティナブルコーヒー



珈琲工房ひぐち 樋口 精一さん

環境配慮商品eco!on

商品の容器や詰め替え用の袋といった資材はプラスチックでできています。通常プラスチックは石油を加工することで生産されますが、その石油は限られた資源であると同時に焼却時にCO₂を排出します。



バイオマスプラスチック製容器の柔軟剤

Style ONEの柔軟剤、液体洗剤類の包装資材をサトウキビ糖蜜由来のプラスチックを使用することで、枯渇が懸念される石油の使用量を抑制するとともにサトウキビの育成段階における光合成によってCO₂の発生を相殺する「カーボンニュートラル」を実現しています。



グループ商品企画部 チーフバイヤー 千葉 哲志



店舗での取り組み

来店された全てのお客様が快適にお買い物を楽しんでいただけるように、ユニーでは店内のいろいろな所を工夫しています。

また、「環境にやさしいお買い物」をお客様と一緒に進め、持続可能な社会を目指して、環境にやさしい商品の販売、包装資材の削減や廃棄物の削減、分別、リサイクルなどを実施しています。

環境に配慮した設備や工夫

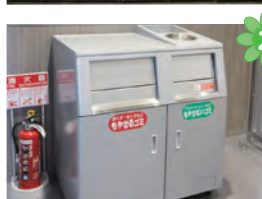
“環境に配慮した店づくり”を目指しているユニーの店内では、ゴミの減量、リサイクルや省エネを推進するため、さまざまな設備を用意するとともに、販売方法にも工夫をしています。特にお客様とともに進めるゴミの減量に関しては、お客様が利用しやすいように、リサイクルステーションのほか、各所に分別ゴミ箱を設置しています。

1 リサイクルステーション



牛乳パックをはじめ、アルミ缶・トレイ・ペットボトル・バイオマスプラスチック・卵パックなどお客様のお買い上げ後にゴミになるものを回収し、リサイクルしています。

2 分別ゴミ箱



店内各所に「燃やせるゴミ」や「燃やせないゴミ」など分別するためのゴミ箱を置き、ゴミを分別回収しています。

3 リサイクル処理機




生ゴミは肥料、発泡スチロールはプラスチックチップなど、再生資源としてリサイクルを行っています。

4 環境配慮商品




原料・製造工程・使用時・容器包装廃棄時などの環境負荷を低減した環境配慮商品を開発・販売しています。

5 情報の開示



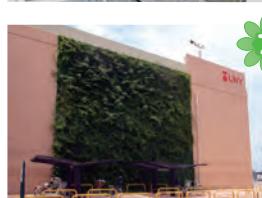
ユニーの取り組みをポスターなどで紹介・報告しています。

6 廃棄物計量システム



各売場やテナントから排出される廃棄物を分別し、計量することにより、減量やリサイクルの促進を図ります。

7 壁面緑化




ヒートアイランド対策と断熱効果のある、壁面緑化を店舗の外壁に導入しました。建物温度の上昇を抑え空調使用量を削減します。




ユニバーサルデザイン

8 多目的トイレの設置




車椅子でご利用いただけるトイレです。また、妊婦の方やお年を召した方もご利用いただけます。

9 段差のない入り口




駐車場と店内の段差をなくし、公道入り口から各玄関まで誘導ブロックを設置しました。

10 おもいやり駐車場



入り口の近くに、おもいやり駐車場を設置しました。おもいやり駐車場は体の不自由な方優先の駐車場です。

11 車椅子の無料貸し出し



店内でご利用いただける車椅子をご用意しています。



お子様連れの方への配慮

15 小さなお子様の遊び場



小さなお子様に安全に遊んでいただけるように、床や遊具にソフトな素材を使用した遊びのスペースを設けています。

16 ベビー休憩室 (赤ちゃんルーム)



お子様の授乳やおむつ替えにご利用いただけるベビー休憩室 (赤ちゃんルーム) を設けました。

17 子ども用トイレ設備の設置



男性用トイレにベビーシートを設置したり、子ども専用トイレを設置しました。



子供専用トイレ

よりよく利用していただくためのサービス・工夫

18 アピタのおいしい水



飲料やお料理に使用していただける水を提供する浄水機を設置しました。

19 危険防止の工夫



危険防止のために、店内の階段には手すりを付け、足元に誘導ブロックを設置しました。

20 電気自動車充電スタンドの設置



地球温暖化防止の取り組みとして、電気自動車用「急速充電器」を設置しました。お買い物しながら充電ができます。

12 優先エレベーター



混雑時などに車椅子の方が優先的にご利用いただけます。音声案内・点字表示をし、低い位置に操作ボタンを付けました。

13 介添えサービスの実施



1階各出入口にインターホンを設置し、お呼び出しによって介添えサービスのご要望にお応えします。

14 AED (自動体外式除細動器)



不測の事態に備えてAEDを設置しました。

バリアフリー新法

ユニーはすべてのお客様に快適にご利用いただける店づくりに取り組んでおります。バリアフリー新法とは、「高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」で、平成18年12月20日に施行されました。





ピックアップ エコストア

エコファーストの約束 3

地球温暖化防止を目指し、ユニーでは省エネルギー設備を設置し、さらに従業員をはじめ、お客様や取引先など関係する人たちと一緒に環境活動を進める「エコストア」を開店しました。

テラスウォーク一宮

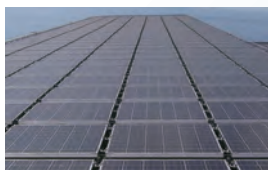
■ 新生ユニーの新たな取り組みを集約した旗艦店

2013年12月にオープンしたテラスウォーク一宮は、アピター宮店の全面建て替えによりモール型ショッピングセンターとして生まれ変わりました。アピタと70の専門店、1,300台の駐車場を備え、大型店ながらエコストアとしての機能も満載しています。



1 太陽光発電

屋根上や外壁に太陽光パネルを導入。太陽光で電気をつくり、得られたエネルギーを館内でも使用しています。現在の発電量や使用量をモニターで確認することができます。



2 空調

施設として冷房期間が長いので、冷温可能なガス式に加え冷房専用の電気式モジュールチラーを併用することで効率的な運転を行い、省エネを図っています。



3 店舗外壁の壁面緑化

外壁に壁面緑化を導入。ヒートアイランド対策と断熱効果があり、建物の温度上昇を抑え、空調使用量の削減にも繋がります。



4 電気自動車充電スタンド

排気ガスを出さない電気自動車のための充電スタンドを設置しています。地球にやさしい電気自動車の普及に貢献しています。



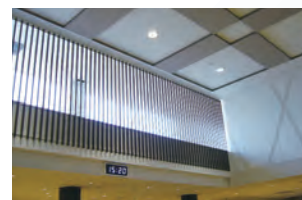
5 ECO材

床材やルーバーなどにリサイクル資材を使用。また、外壁や床には遮熱・断熱効果のある資材を採用し、環境負荷の軽減に配慮しています。



6 自然採光

フードコートのテラスや吹き抜けの高天井などに外光を積極的に取り入れ、照明負荷を軽減しています。





7 照明

店舗内外の共有部の照明はLEDを採用。省エネ、低発熱で環境負荷を軽減するだけでなく、長寿命で資源の消費も抑えられます。



8 ノンフロン冷蔵ケース

青果売り場の冷蔵ケースには、フロンガスを発生させない最新機器を導入。地球温暖化の原因物質の排出を抑える狙いがあります。



ヴェルサウォーク西尾

暮らしやすい駅タウンの再生を目指した新世代型ショッピングセンター

2014年3月にオープンしたヴェルサウォーク西尾は、美しく豊かな環境を守るため省エネルギーの推進など、エコスタイルに取り組んでいます。

環境にやさしい店づくり

- 施設の照明には電気使用量抑制効果のあるLEDを使用
- 太陽光パネルの設置
- 電気自動車充電スタンドの設置
- 高効率空調で電力使用量を削減
- 店舗外壁に壁面緑化の導入
- 低速待機型自動運転エスカレーターの設置
- 節水型トイレの設置



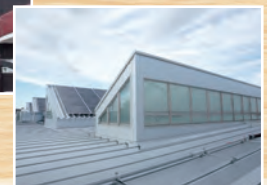
ピアゴ蟹江店

節電対策充実の省エネルギー（エコストア）モデル店舗

省エネルギー実現に向け、ピアゴ初の節電対策充実の省エネルギーモデル店として、ピアゴ蟹江店を2011年にリニューアルオープン。ランニングコストおよびCO₂排出量は30%以上の削減を目指します。

環境にやさしい店づくり

- 施設の照明には電気使用量抑制効果のあるLEDを使用
- 太陽光パネルの設置
- 電気自動車充電スタンドの設置
- 高効率空調で電力使用量を削減
- デシカント空調システムで温度管理
- クール・ヒートレンヂで店内に冷えた新鮮な空気を供給
- 建物の断熱性を強化し空調による電力使用量やCO₂排出量を削減
- 省エネ性能に優れた機器を導入（オール電化）
- 自然採光を取り入れることで昼間の照明点灯時間を短縮
- 雨水の利用で水道使用量約16%削減
- 店舗外観の壁面緑化
- 節電観測パネルの設置



お客様の声 人にやさしく、環境にやさしい店づくりのために

より良い店づくりのために、何よりもお客様のご意見を大切にしています。
 お客様の声に真摯に耳を傾け、速やかな回答と迅速な対応を心がけて、商品やサービスの改善を進めています。
 お客様の声を商品やサービスに反映することで、企業の社会的責任（CSR）を果たし、
 お客様が満足されることで、お客様に選ばれ・支持され、初めて継続的な社会貢献を果たすことができると考えています。

お客様の声のポスト

お客様の声ユニーを変えます

ユニーでは各店舗に「お客様の声のポスト」を設置しています。ポストには店舗施設や商品・サービスに対するさまざまなご意見ご要望、お問い合わせ、またご指摘やお叱りの声が寄せられています。これらの「お客様の声」には店長が必ず回答し、店舗や商品、サービスなどに反映させております。ポストに寄せていただいた「お客様の声」は地域のお客様のより良い生活を築いていくためのメッセージであり、ユニーの羅針盤でもあります。



営業サポート本部
 お客様サービス部長
 黒田 洋子

内容	件数	構成比率 (%)
ご意見・ご指摘	2,690件	63.2
お問い合わせ・ご要望	1,470件	34.6
お褒め	92件	2.2

※データは、2013年3月～2014年2月（ユニー本部 受付分）のものであります。



これからも、お客様からのメッセージを真摯に受け止め、お客様に支持され期待される店づくりに努めてまいります。
 環境、社会貢献に対してのご提案、ご要望など貴重なご意見もいただき、今後の取り組みの参考とさせていただきます。また、最近はお客様より心温まるお褒めの言葉をいただく機会が増えており、従業員一同のさらなる励みとしてありがたく思っております。

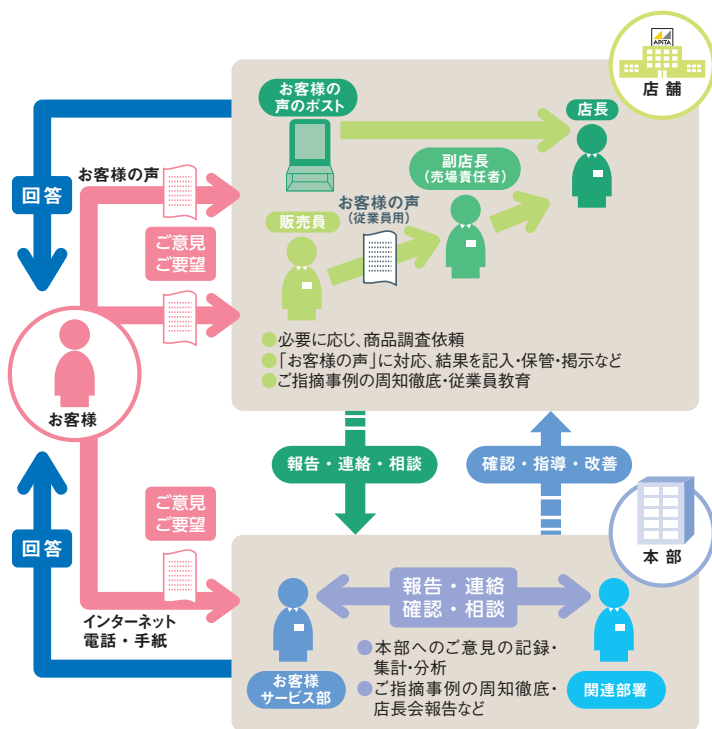
お客様の立場でさまざまな改善に努めています

お客様から寄せられたご意見、ご要望、ご質問などのうち、全社的な内容につきましては店舗から本部へ報告し、毎週とりまとめうえで本部内、各地区本部、関係部署へフィードバックし商品開発や品揃え、売場づくりやサービス改善に活かしております。こうしてお客様の声が全社の改善に繋がるのです。
 お客様サービス部は、年中無休でお客様の声をお聞かせいただけるよう対応しています。よりたくさんのお客様の声をお聞きし、なおいっそう従業員の意識を高め、お客様に気持ち良くお買い物をしていただけるよう努めてまいります。



お客様サービス部のメンバー

お客様の声の流れ



ホームページからの環境情報発信

ユニーのホームページでは、環境・社会貢献活動に関する活動や環境配慮商品などの情報を発信しています。また参加型イベントなどの応募情報なども掲載し、「やさしくらしPress」では生活の中での環境の知識を学べるページもあります。
 環境社会貢献部 ホームページアドレス

<http://www.uny.co.jp/corporate/torikumi/eco/index.html>





社会貢献・地域貢献

持続可能な社会は、地球環境を守るだけでなく「みんなが幸せに暮らしていくことができる社会」です。ユニーはその実現のために社会貢献・地域貢献活動を推進しています。そしてユニーの店舗は、市民の皆様やNPO、自治体と一緒に、頼りになる「地域のコミュニケーションセンター」としての役割を果たしていきます。



社会貢献活動

未来の子ども達に幸せな笑顔を贈る

ユニーの社会貢献活動のテーマは、「未来の子ども達に幸せな笑顔を贈る」こと。未来の地球を持続可能にし、貧困や飢餓のない平和な社会を築いていく子ども達の夢をかなえる活動を行っています。

災害被災地の子ども達に笑顔を贈る

2011年3月11日の東日本大震災の被災地では現在も復興事業が行われていますが、まだまだ支援活動が必要です。また、2013年11月には、超大型台風ヨランダがフィリピンに大きな被害をもたらしました。ユニーは他の企業やNPOと協働で、お客様と一緒に被災地の子ども達に笑顔を贈る活動を行っています。

● 東日本大震災被災地の子ども達を支援

● 子ども達の進学支援

ユニーとサークルKサンクスは、「公益財団法人みちのく未来基金」を通じて、東日本大震災で親を亡くした子ども達が、将来の夢をあきらめずに進学できるように、2012年より10年間にわたり、学資の支援をしています。



みちのく未来基金の子ども達

● ベルマークを集めて文房具を贈る

2013年1月10日から2月19日までの期間、ユニー全店舗のサービスカウンターと事務所で、お客様と従業員からベルマークを集め、東日本大震災被災地の小学校に学用品を贈りました。今年で3年目ですが79万点と昨年より30万点も多く集まりました。この事業はキリンビバレッジ(株)との協働で行っています。



回収したベルマークとキリンビバレッジ担当者

● 未来に心がつながる! 絵本プロジェクト

花王(株)との協働で、東日本の小学校・保育園・幼稚園の子ども達に絵本669冊(93万424円)を贈りました。これは、2013年3月26日~4月22日の期間中にアピタ・ピアゴ・ユーホーム・サークルK・サンクスで販売された花王のエコ商品1品につき1円を寄付金として役立てたものです。



竹駒保育園の子ども達

● 学生たちとのあったかいクリスマスチャリティーコンサート

名古屋コミュニケーションアート専門学校(名大)の学生たちのチャリティークリスマスコンサートをテラスウォーク宮(愛知県一宮市)とリーフウォーク稲沢(愛知県稲沢市)で開き、お客様から寄せられた寄付金で東日本の子ども達におもちゃを贈りました。学生たちとお客様の心温まるコンサートでした。



名古屋コミュニケーションアートの学生達

● 東日本大震災被災地の子ども達に夢を贈る

● 東北の子ども達にプラスバンドの楽器を届けよう!

[ユニーグループ・ホールディングス(株)のドネーション企画]

東日本大震災が発生して3年経った今も、現地では未だ復興が進まず、被災地の子ども達は地震や津波により学校や家が被害を受け、夢が遠のいてしまっています。東北の被災地の方々のことを忘れず、子ども達を応援するために、協賛企業の対象商品をお買い上げ1点につき1円の寄付を募り、楽器を購入して贈呈しました。

2014年4月24日から5月7日までの期間に、ユニー 229店舗、サークルKサンクス6,179店舗で実施し、合計345万5,413円となり、仙台市南材木小学校と折立小学校に楽器を贈りました。贈呈式では南材木小学校のプラスバンドがコンサートを開き、新しい楽器を使って見事な演奏を聞かせてくれました。子ども達は、被災地を元気づけようと演奏活動を続け、折立小学校は中学校の仮校舎から3年ぶりに元の校舎に戻って元気に活動しています。これからも、ユニーは協賛企業と協力して、お客様と一緒に子ども達を応援していきます。

- 協賛企業：アサヒ飲料(株)、(株)伊藤園、エステー(株)、貝印(株)、キリンビバレッジ(株)、コカ・コーラボトラーズ(株)、サントリーフーズ(株)
- 協力：NPO レスキューストックヤード



演奏した子ども達と支援する家族・先生・地域の大人たち・そして企業、皆で「これからも頑張ろう!!」



震災犠牲者の冥福を祈り黙とう



新しい楽器でコンサート



新しい楽器大切にします



みんなの笑顔を応援します

台風被災地 フィリピンの子ども達を支援

被災地へランドセルを贈呈

2013年11月、フィリピンを大型台風ヨランダが襲い、強い風と激しい雨による洪水は多くの被害をもたらし、たくさんの命が失われました。被災地の子ども達は家や学校を失い、勉強を続けることも困難な状況でした。

ユニーでは、サイズ変更などで在庫になっていたランドセル2,492個を被災地サマル島、レイテ島の子ども達に贈り、そして子ども達が笑顔で学校に通えるよう励ましました。この活動は、日本のNPOセカンドハーベストとフィリピンのNGO CDRC (The CITIZEN'S DISASTER RESPONSE CENTER) に協力していただき実現しました。

ユニーはこの台風ヨランダの被害救援募金を店舗で実施し、フィリピン赤十字に1,199万988円を贈りました。

NPO法人セカンドハーベスト名古屋

フードバンクとは、企業から食品を無償でいただき、それを必要としている人達に配る活動です。生活が苦しい外国人への支援が半分を占めています。そのため名古屋のフィリピン人支援組織とも連携しており、ユニーさんからフィリピンへのランドセル寄贈の提案があった時すぐに協力体制ができました。免税扱いなどの手間仕事もたくさんありましたが、無駄な費用を一切使わず、昨秋の台風被害地域で子ども達に配ることができました。

甚大な被害を被った被災地の子ども達の瞳は、ランドセルを背負うとうれしさを輝き、笑顔でいっぱいでした。



NPO法人
セカンドハーベスト名古屋
本岡 俊郎さん



贈呈式で大野部長のスピーチ



ランドセルを背負う子ども達



5時間かけて来てくれました

世界の子ども達を支援

WFP (国連世界食糧計画) 支援活動

ユニーはWFPの「給食プログラム」に参加し、途上国の子ども達が学校に通って勉強をできることを支援しています。従業員を対象に、「ワンコイン募金」を実施し、社内会議の出席者や社員食堂の利用者に呼びかけ、2013年度は100万円を寄付しました。



社員食堂前でワンコイン募金

世界の医療団 ～スマイル作戦キャンペーン～

「世界の子ども達を笑顔にしたい」と先天性の病気やけが、戦争などで傷を負って手術が必要な途上国の子ども達に、医療を施し笑顔を贈る活動です。2013年度には20店舗で開催し、1,879名の方々が参加し、子ども達にメッセージをいただき、508万円の寄付金振込みの手続きをしてくださりました。



スマイル作戦キャンペーン

UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) 支援活動

世界では多くの人々が内戦や戦争に巻き込まれ、また宗教や人種、政治的な立場が異なるという理由で迫害を受け、生命の安全を脅かされています。そのため故郷から逃げ出さざるを得ず、他国に避難した「難民」、国内の別の地域に避難した「避難民」になってしまった人々が安心できる暮らしに戻れるよう支援する活動を行っています。



UNHCR店舗での募金活動

エコキャップ運動～世界の子ども達にワクチンを～

2013年7月から2014年6月までの期間に集まったエコキャップは2,703万個でした。途上国の3万1,436人の子ども達にワクチンを贈ることができました。この活動は、お客様から店舗に寄せられたエコキャップを、近隣の読売新聞販売店の方が回収して、新聞を配達するトラックの帰り便で工場に集約し、リサイクル業者に届けるという、たくさんの善意が繋がり、多くの子ども達の命を救っています。



金山保育園で集めたエコキャップ

募金活動

AJU自立の家・車いすセンター、ピア名古屋の支援

1982年より「車いすの無料貸し出し」活動を支援する募金活動を旧ユースタからユニーが引き継いで続けています。2013年度には98万957円を寄付しました。

また知的障がい者通所授産施設ピア名古屋が多治見市の修道院で収穫し醸造したワインを店舗で販売し、障がい者の自立を支援しています。



AJU車いすセンター

愛の1円玉募金

各店舗の店頭で「愛の募金箱」を設置し、お客様・お取引先様・従業員から善意の募金を呼びかけています。集まった募金は地域の社会福祉協議会や福祉団体へ寄付しています。



愛の1円玉募金

中京地区	8,825,375円
関東地区	2,067,757円
山静地区	833,674円
北陸地区	1,338,814円
合計	13,065,620円

● お買い物で支援 ～ドネーション～

● 盲導犬育成キャンペーン ワンステップ

盲導犬を育てて目の不自由な方に役立てていた
 だくキャンペーンを日清ペットフード(株)の協賛で、同
 業社のイズミヤ(株)・(株)フジとの協業で実施し、対
 象商品の売上金の1%をNPO法人全国盲導犬施設
 連合会に寄付しました。たくさんの愛犬家の善意が
 集まり、2013年11月から12月末までの2カ月間
 で、約62万円を寄付することができました。



「ワンステップ」ポスター



全国盲導犬施設連合会から表彰

日本ハムとの緑化活動支援



国土緑化推進機構に
寄付

ユニーで販売した日本
 ハムの「森の薫りあびき
 ウィナー」を1袋につき2
 円、国土緑化推進機構
 に寄付しています。2013
 年度の寄付金額は、79万
 7,094円でした。

● フェアトレードを支援

● フェアトレードフェスティバルを開催

フェアトレードとは直訳すると「公正な貿易」。つまり発展途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することで、立場の弱い発展途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易の仕組み」をいいます。このフェアトレードの仕組みを広く知っていただくために、エシカルパネロープ代表原田さとみさんの協力のもとアピタ千代田橋店でフェアトレード名古屋ネットワークの学生、珈琲工房ひぐち、森永製菓(株)と協働で「フェアトレードフェスティバル」を開催しました。

ユニーはフェアトレード商品を提供し、お客様にその商品を選んでいただくことで、学校に行くこともできずに過酷な労働を強いられている子ども達を守ることを目指しています。



フェアトレードを紹介する活動



フェアトレードコーヒーの試飲



児童労働について訴える原田さん



フェアトレード商品
 (コーヒー、香辛料、チョコレート)



地域と世界を、そして今と未来をつなぐ、地球とのフェアトレード

フェアトレードは、身近なお買い物で世界の問題を解決します。そのフェアトレードをまちぐるみで応援するのがフェアトレードタウン運動。名古屋では市民・学生・団体・企業など一丸となり、タウン認定を目指します。タウン運動は、遠い途上国を思うことで、自分たちの足元を見つめ直し、地元の課題解決にもつながります。未来の子ども達に豊かな伝統、美しい地球を残すため、人・地球・社会に優しいフェアトレードの環を名古屋・愛知から発信です!



エシカルパネロープ代表
原田さとみさん

フェアトレード企画

アピタ・ピアゴでは数多くの商品を取り扱っていますが、その商品から環境・社会貢献をしたいと考え、「フェアトレード」商品品揃えしています。今回のイベントではお客様のフェアトレードへの関心の高さ、フェアトレードを紹介する学生さんの誠実さに驚かされました。これをきっかけに、これからも売り場できていることを精いっぱい取り組んでいきます。



ドライ食品部長
佐々木 光一

● NPO・地元企業とのコラボレーション

● 難民衣料支援

ユニーはNPOや地元企業のボランティアとともに、お客様の家庭で不要になった衣料品を回収しています。回収した衣料品は日本救援衣料センターを通じて、アジア・アフリカ・南米に送りました。この事業には日本通運にも協力していただきました。

衣料品回収店舗	実施日	協力機関	回収量(t)	参加者数(名)
アピタ千代田橋店	2014年6月 4日	名古屋を明るくする会 日本救援衣料センター	12	300
アピタ安城南店	2014年6月 7日	デンソーボランティア支援センター	11	170
アピタ刈谷店	2014年6月14日	デンソーボランティア支援センター	20	401
アピタ豊田元町店	2014年6月21日	トヨタ紡織ボランティア	5	168



デンソーボランティア支援センター



名古屋を明るくする会



トヨタ紡織ボランティア

● 「エコとお買い物券」プレゼント企画

家庭で不要になった衣料品を回収し、リサイクル資源として自動車の内装材として利活用しています。回収に協力してくださったお客様に、割引券として使用できる「エコとお買い物券」を差し上げています。1枚の使用で2円を、ユニーから被災地支援や緑化活動に寄付しています。



エコとお買い物券

≫≫エコとお買い物券・使用実績と寄付金

	引き取り枚数(枚)	使用枚数合計(枚)	寄付単位(円)	寄付金(円)	寄付先
2013年10月	1,859,266	205,797	2	411,594	公益社団法人 国土緑化推進機構
2014年 4月	1,990,836	254,859	2	509,718	東日本大地震復興応援 企画実行委員会

● WAFCA (ワフカ) 車椅子支援活動

車椅子の修理をボランティアで行っている(株)デンソー WAFCA (ワフカ)とあいおいニッセイ同和損害保険(株)が協働で、アピタ安城南店を会場にイベントを開催しました。近隣の安城養護学校・安城特別支援学校・愛知淑徳大学も参加し地域のお客様に活動を紹介しました。



WAFCAの活動紹介

● NPO LET'S食の絆 市民のための栄養相談

管理栄養士のボランティア活動を、アピタの店舗で行っています。健康に暮らすことは誰でも望んでいることですが、専門家に相談できる機会はなかなかありません。いつも買い物に行くスーパーで、食品模型を使った食事診断や食生活の相談を行っています。



食品模型で食事診断



健康な身体をつくる栄養指導

体験型イベント「エコ博」

ユニーはお客様と一緒に持続可能な社会を目指しています。各エリアのモール型店舗やアピタで、地球にやさしいライフスタイルの体験型イベント「エコ博」を開催しました。環境に興味のある方も、あまり気にしたことがない方も、お買い物がきっかけでエコ博に参加し、「地球にやさしいお買い物」や「エコライフ」を始められます。それが未来の子ども達に美しい自然を残すことに繋がります。

■2013年秋からのエコ博テーマ

2013年秋からのエコ博のテーマは「ESD（持続可能な開発のための教育）」「容器包装の3R」です。エコ博に賛同して地元行政やたくさんの企業・NPOが参加してくださいました。それぞれが推進している環境活動を展示やステージで紹介し、お買い物のお客様も一緒になって楽しみながら学んでいただきました。



たくさんのお客様に楽しんでいただきました

》》2013年～2014年エコ博、ecoフェスタ一覧

年	期間	名称	開催店
2013年	10月12日～13日	リーフエコ博	リーフウォーク稲沢
	10月19日～20日	長津田エコ博	アピタ長津田店
	11月16日～17日	静岡エコ博	アピタ静岡店
	11月23日～24日	福井大和田エコ博	アピタ福井大和田店
2014年	1月18日～19日	東海三県一市グリーン購入キャンペーン	ヒルズウォーク徳重ガーデンズ
	1月25日～26日	東海三県一市グリーン購入キャンペーン	テラスウォーク一宮
	2月1日～2日	東海三県一市グリーン購入キャンペーン	アピタ桑名店
	2月8日～9日	東海三県一市グリーン購入キャンペーン	アピタ岐阜店
	4月19日～20日	ecoフェスタ	アピタ美濃加茂店
	5月17日～18日	ecoフェスタ	アピタ稲沢店
	5月31日～6月1日	けやきエコ博	けやきウォーク前橋
	6月7日～8日	アクアエコ博	アクアウォーク大垣
	6月14日	ecoフェスタ	アピタ長津田店
	6月28日	ecoフェスタ	リバーサイド千秋
6月28日～29日	リーフエコ博	リーフウォーク稲沢	
7月2日～6日	ecoフェスタ	アピタ足利店	

ユニーの展示ブース

ユニーのESDテーマである「めぐる・つづく・いっしょに」をベースに展示を行い、エコ工作や紙芝居など、皆で一緒に楽しく環境について学びました。



ユニーの環境展ブース



エコキッズ探検隊



会場を一緒に回ってエコを楽しく学ぶガイドツアーを実施しています。案内役はユニーのインタープリター、ボランティアの皆さんです。

エコ工作



普段は捨ててしまうものから新しい素敵なものを作る「エコ工作」。子ども達が一生懸命に作った宝物です。

エコ宣言



“未来に地球をまるごととっておくために私達は何をした方が良かったか”を子ども達自身で考え記入してもらった「エコ宣言」。

環境紙芝居



環境について紙芝居でわかりやすく伝えます。

地元行政の出展ブース

ユニーの店舗がある各地域の県や市が取り組み、展示や情報発信をしました。



ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会の展示（テラスウォーク一宮）



稲沢市によるグリーンカーテン啓発展示（アピタ稲沢店）



美濃加茂市によるソーラーカー作り工作（アピタ美濃加茂店）



静岡市によるエネルギーに関する展示（アピタ静岡店）



前橋市によるゴミの分別釣りゲーム（けやきウォーク前橋）



新潟県によるレジ袋削減促進の展示（リバーサイド千秋）



神奈川県による3Rに関する展示（アピタ長津田）



栃木県による地球温暖化防止の展示（アピタ足利店）

生物多様性をテーマにしたブース

私達はいろんな生き物と一緒に生きています。生き物について学び、触れて命の大切さを学びました。



珈琲工房ひぐちによるサステナブルコーヒーの試飲



岐阜県の天然記念物「ハリヨ」



愛知県三河湾のアサリつかみ取り



日本モンキーセンター「キッズズー」生き物と触れ合い



名古屋港水族館「海の生き物クイズ」

企業ブース

エコ博に賛同した取引先企業が参加し、展示やゲーム、クラフトなどを出展しました。



容器の軽量化 (キリンビール)



環境にやさしい商品 (ライオン)



歯磨き教室 (ライオン)



環境にやさしいお洗濯 (花王)



環境に配慮しながらソーセージを作っています (日本ハム)



食パンの耳の有効活用 (山崎製パン)



環境にやさしい容器包装 (コカ・コーラ)



茶殻のリサイクル (伊藤園)



リターナブルピンの使用 (明治)



コーヒー容器包装削減についての展示 (味の素ゼネラルフーズ)

地元NPOのブース

ユニーは日頃から地域の皆様と一緒に環境活動を推進しています。



段ボールコンポストの説明 (大垣市環境市民会議)



減装ショッピング (NPOごみじゃばん)



食事バランスチェック (NPO LET'S 食の絆)



牛乳パックで万華鏡づくり (アースサポーター福井)



ブーケ作り教室 (岐阜県園芸福祉協会)

社会貢献をテーマにしたブース

持続可能な社会は「人にやさしい社会」です。皆が楽しく暮らしていくために、助け合う活動の紹介をしました。



アジアの車イス写真展 (AJU自立の家)



小児がん支援プロジェクト (UCS・アフラック)



盲導犬との触れ合い (全国盲導犬施設連合会)



世界の子供も達へ給食支援 (国連WFP)



東日本大震災支援 (ワタノハスマイル)

ステージで楽しくエコ

エコライブをテーマにミュージカル、人形劇などの発表をステージで行いました。



ESDをテーマにした子どもミュージカル (劇団シンデレラ)



エコな人形劇 (ミニ天井)



竹や自然の素材で演奏 (竹竹パンパー隊)



正しい手洗い教室 (ライオン)



熱中症対策セミナー (サントリー)

地域で環境啓発活動

ユニーは頼れる「地域のコミュニティーセンター」として、さまざまな地域貢献活動を行っています。いつもお買い物に利用していただいている店舗や地域の公園・公共施設で、自治体やNPOと一緒に市民の皆様と地域活動を推進しています。

●ポートメッセなごや 環境展示会

名古屋商工会議所主催の環境展に、ユニーとサークルKサンクスが共同で出展しました。「環境にやさしいお買い物」をテーマに、環境配慮商品や地産地消のお弁当の展示、マイ風呂敷を作っていたいただき、お買い物を持って帰る包み方をたくさんの参加者に体験していただきました。



ユニーグループで出展



オリジナル風呂敷作り

●大垣市環境フェア

大垣市環境市民会議は、市民・大垣市・企業などが一緒に環境保全活動を行っています。各団体・企業がそれぞれの環境活動を発表し、市民に楽しく環境について学んでもらうことを目的に、大垣城ホールで毎年開催しています。ユニーは環境展示やクイズ・エコ工作で出展しました。



大垣市環境市民会議と協働

●環境デーなごや

名古屋の中心地にある久屋大通り公園で開催された、環境デーなごやに日本チェーンストア協会中部支部として、同業社と一緒に参加しました。ブースでは各社の環境活動の紹介やエコ工作・環境紙芝居などを通して、訪れた市民の皆様へ地球環境への関心を高めてもらいました。



人気の環境紙芝居

●Mie こどもエコフェア

ECOについて楽しく学べる60のブースが、鈴鹿山麓リサーチパークで開催されました。ユニーは容器包装リサイクルのパネル展示と、飲み終わった牛乳パックを材料にして紙漉き絵葉書を作るブースで出展しました。



三重県や他企業・NPOと協働

●小型家電のリサイクル推進

2014年2月より携帯電話やカメラなどの小型家電の回収事業が、名古屋市内のアピタ全店や区役所などで始まりました。回収ボックスに入れられた小型家電は解体し、取り出されたレアメタルなどが再資源化されていきます。



回収開始イベントを実施 (アピタ千代田橋店)

地域に緑を増やす

●地域の緑化活動を支援

ヒートアイランドを緩和するには、緑被地帯を保全することが有効といわれています。ユニーでは有料レジ袋の販売で、1枚につき1円を、店舗が建つ市町の緑化活動など環境保全活動に寄付しています。

●大垣市の「レジ袋 市民の森」活動

岐阜県大垣市にあるアクアウォーク大垣には、大垣市環境市民会議との協働で造り上げた「レジ袋 市民の森」があります。市民ボランティアのグリーンサポーターが木や花の管理に活躍しています。



グリーンサポーター表彰



毎月花壇の世話をしています

●名古屋市名城公園 花の山プロジェクト

名古屋城近くの名城公園にある花の山に、2012年からユニーの花壇を市民ボランティアと一緒に造っています。花を楽しみ、地球温暖化防止にも役立っています。



名古屋市民と花植えをする佐古社長



ユニーの花壇

●東海3県1市グリーン購入キャンペーン

2002年より、愛知・三重・岐阜の東海3県と名古屋市の小売業が共催して、「環境にやさしいお買い物」を消費者に啓発する活動を行っています。詰め替え商品や環境ラベルの貼られた環境配慮商品を購入することで、廃棄物削減やリサイクル資源の利活用、資源の保全などの環境貢献ができることを紹介し、消費者に環境について関心をもってもらい、商品選びに役立ててもらうことが目的です。ユニーでは独自企画として、バイオマスプラスチック製容器包装の普及啓発活動を行っています。また、県や市と協力して店内でイベントを開催し、より多くの消費者に知ってもらい、買っていただくよう努めています。



キャンペーンポスター



愛知県 (テラスウォーカー一宮)



三重県 (アピタ桑名店)



岐阜県 (アピタ岐阜店)



名古屋市 (ヒルズウォーク徳重)

お買い物支援で地域貢献

- 認知症買い物セーフティーネット
- 認知症の方へのお買い物サポート

高齢化社会が進みつつある中で、ユニーでは認知症の方にも安心してお買い物を楽しんでいただけるようサポートしています。従業員には認知症への理解と見守りの役割を担うための教育を行い、店内での困りごと対応やお手伝いをしています。また一般のお客様にもご理解・ご協力いただくために、認知症支援のボランティアや市の職員、支援大学と一緒に店内でお買い物サポートイベントを開催しています。



認知症買い物セーフティーネットマーク



従業員への認知症サポーター教育



お買い物サポートイベントを店舗で開催



キュービーが介護食を紹介



アルツハイマーデー啓発

認知症買い物セーフティーネット店舗

テラスウォーク宮が「認知症買い物セーフティーネット店舗」になりました。店舗には、お客様に分かりやすいようにお買い物安心マークを掲示しています。従業員が認知症サポーターとなり、自治体、地域包括支援センター、社会福祉協議会と連携し、認知症のお客様への声かけや見守りを行い、一般のお客様にも認知症についてご理解いただくためのお買い物サポートイベントを開催しています。



テラスウォーク宮
支配人
河野 琢真

認知症の方のお買い物サポートを支援

2011年アビタ大府店を皮切りに始まった店舗内での「認知症啓発イベント」は、はや18回を数え、延べ参加者数は1万8,000人を超えました。認知症の学習会に参加していただいた従業員の方は1,041名となっています。ご協力いただいた各店舗の皆様にも心より感謝申し上げます。イベントは子ども向けのゲームを中心に楽しく認知症が学べる明るい催しとなり、スタッフも楽しみながら関わらせていただいています。今や65歳以上の15%の人が認知症という時代ですので、今後、お店に認知症の方の来店も多くなってくると予想されます。認知症になっても、周りの人のちょっとした理解とサポートがあることで安心して買物ができますので、今後ともご支援よろしくお願いたします。



NPO HEART TO HEART
代表
尾之内 直美さん

● ネットスーパーで支援

店舗に行かなくても買物ができる「ネットスーパー」は、買物が困難なお客様や時間が無いお客様の強い見方です。特に出歩くことや重い荷物を持ち運ぶことができない高齢者や小さな子どもがいる家庭にはとても助かる好評です。タブレット端末や使用済み容器包装を持ち帰ってのリサイクル、商品梱包時のレジ袋をエコバッグに変えるなど、お客様に便利で環境にも配慮した取り組みを進めています。



ネットスーパーの紹介



商品をエコバッグでお客様にお渡しする取り組み



使用済み容器包装をリサイクル

● サービス介護士の養成

ユニーでは2007年からサービス介助士資格取得を進めています。高齢化社会が進み、高齢者や障がいをお持ちの方にも安心してお買い物をしていただくために、サービスレベルの向上を目指し、お店の店長、副店長から資格の取得を進めてきました。現在サービス介助士の資格取得者人数は1,319名です。今後も高齢者や障がいをお持ちのお客様のお買い物サポートに取り組んでいきます。



車椅子操作訓練



高齢者体験

● 全国一斉クリーンキャンペーン

ユニーでは毎日店舗や事業所周辺の清掃や除草の活動を行っていますが、6月の環境月間、10月の3R推進月間には活動範囲を近くの公園や道路などに広げ、全店一斉クリーンキャンペーンとして実施しています。また本社ではグループ企業と一緒に清掃活動を行い社会貢献活動に取り組んでいます。



グループ企業とのクリーンキャンペーン



アビタ向山店のクリーンキャンペーン



店舗周辺道路を清掃

Re DESIGN PROJECT (リ デザイン プロジェクト)

「地球」「若者」「障がい者」が繋がると…ハッピーなお買い物が始まります。

- 地球を守る…捨てられてしまうものを素敵なグッズにし、ゴミを減らします。
- 若者の力…エコグッズはデザインを専門に学ぶ学生のセンスとアイデアで。
- 障がい者のワザ…障がいのある方たちに作ってもらいました。



リデザインPJは、使われず廃棄されてしまう未利用資材（生地など）を使い、デザインを専門に学ぶ学生がデザインした商品を、障がい者が生産し、ユニーの店舗で販売するものです。この商品はファッション性・機能性に優れたエコ商品であり、障がい者へのチャリティーではなく、「私の好きなエコ商品」として購入していただきます。ユニーは商品を販売すること、お客様はお買い物をすることで、地域貢献・社会貢献ができます。

素材

ユニーの本社のある愛知県尾張地方は繊維業が盛んで多くのテキスタイルメーカーがあり、その倉庫に眠っているサンプル生地や少しの傷のために廃棄される「繊維素材」を提供していただきました。

●2013年度協賛企業 19社5組合

デザイン

提供いただいた素材を持参して各デザイン学校でコンテストの目的やテーマなどを伝え、デザイナーの卵である学生たちがセンスとアイデアと技術を駆使した作品をデザインしました。

2013年度参加校：6校

- 学校法人 愛知文化服装専門学校
- OKA学園トータルデザインアカデミー
- 中部ファッション専門学校
- 名古屋学芸大学
- 学校法人 名古屋ファッション専門学校
- 名古屋モード学園

生産

授産施設に通う障がい者の働く機会を創出し、公正な対価を払うことで自立を支援しています。一定量の商品を生産することで技術向上にも繋がります。

2013年度参加授産施設

- 社会福祉法人 名古屋市身体障害者福祉連合会 名身連第1ワークス・第1デイサービス
- 社会福祉法人 ゆたか福祉会 みのり共同作業所
- 社会福祉法人 すぎな 作業所えがお



授産所の皆さん

販売

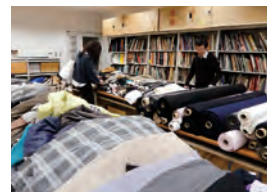
検査機関で検査しユニーの販売品質基準をクリアしたものをアピタ店頭で販売します。店舗の販売力、協力体制、社会貢献への意欲は年々上がってきています。また、売り上げは授産所で働く方への支援に繋がっています。

2013年度販売店舗

- アピタ安城南店
- アピタ千代田橋店
- アピタ名古屋南店
- アピタ静岡店
- アピタ稲沢東店
- アピタ東海荒尾店
- アピタ長久手店
- アピタ長津田店



プロジェクトの目的



毛織工業組合で素材をいただく様子



学校説明会



応募作品の審査



佐古社長よりユニー賞の贈呈



表彰式に参加した皆さん

商品化に向けて

このプロジェクトには立ち上がりから関わっていますが、年々学生さんのデザイン力や授産所さんの技術力が上がっているように感じます。皆さんの「あたたかい気持ち」を商品化し、たくさんの方へお届けできるように進めています。



住関本部
商品企画開発部
チーフバイヤー 墨 康秀

リ デザイン プロジェクトが環境省主催「グッドライフアワード」グッドライフ特別賞を受賞

グッドライフアワードとは環境への負荷をより少なくし、地球の恩恵を持続的に受けることができ、誰もが「楽しい」「幸せ」を感じられる【よい暮らし】実現のためのアイデアや仕組みを表彰するアワードです。リデザイン プロジェクトが評価され、第1回「グッドライフ特別賞」を受賞しました。



表彰状授与



表彰状



環境教育

ユニーはエコ・ファースト企業として、環境方針に従って地球環境保全・地域社会貢献活動を行うために、従業員や関係者への教育を実施しています。環境方針には持続可能な社会を小売業としての企業活動を通して、お客様や自治体、お取引先と一緒に創り上げていくことが明記してあります。それらを実現していくために必要な知識や技術を習得させるための講習や実習を現場教育・集合教育で行っています。また、ユニーと一緒に活動していただく消費者・行政・取引先や同業者、その他の店舗見学や講習も行っています。

従業員教育

●新入社員教育

ユニーの環境方針の理解や店舗・事業所での環境保全活動について、新入社員オリエンテーションで教育を行っています。



新入社員オリエンテーション

●管理職教育

管理職に登用された社員には、それぞれの職制に必要な環境保全・社会貢献の教育を行っています。特に店舗管理職には、店舗に関わる法令やその他の要求事項について、その内容と遵守するための取り組みについての講習を行っています。



新任店長・部長室教育

●ISO14001集合教育

環境マネジメントシステム14001の適正な運用と、それぞれの仕事から環境影響を抽出し、環境実施計画を策定し、目的目標を達成するための教育を行っています。



ISO14001本社従業員集合教育

●テナント・その他の従業員教育

店舗に出店しているテナントやそこで働く人達に、環境保全活動を理解し協力してもらうための教育を実施しています。特に廃棄物の分別計量システムや排水に関する教育は、店舗ごとにマニュアルやDVDを使って行っています。



店舗テナント環境教育

●関係会社従業員教育

ユニーの従業員以外の派遣社員やその他社内で働いている人達に、環境に関する社内ルールや認知症支援活動などについて、理解し協力してもらうように教育を行っています。



店舗での認知症教育

●各エリア環境担当者連絡会

関東・山静・北陸と中京エリアを担当する、環境担当者を集めて店舗での環境対策や環境イベントの打ち合わせや、学習会を開催しています。



各エリア環境担当者連絡会

ユニーと一緒に環境学習

●環境関連事業者連絡会

ユニーと取引のある、一般廃棄物運搬事業者や産業廃棄物関連事業者、リサイクル事業者などの環境関連事業者を集め、年2回連絡会を開催しています。環境問題全般や環境関連法令などに関する講習会、先進的な取り組みをしている環境施設の見学会を通し、法令遵守やリサイクル推進をユニーと一緒に取り組んでもらうことを目的としています。



環境法令学習会



エコフィールド製造工場視察

●店舗見学の受け入れ

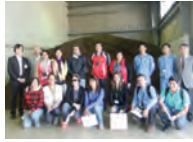
店舗の施設見学や環境活動の見学に、消費者団体・行政・同業者の方を受け入れています。特に多いのは、食品リサイクルグループの仕組みやエコ野菜販売などについての見学です。



地域の人達の見学会

●海外からの見学者

国連地域開発センターを通して、アジアやアフリカ、南米の行政官が、廃棄物対策やリサイクル資源の活用などの見学に来ています。



JICAの研修プログラム

●インタープリター研究会

ユニーのインタープリター・ボランティアや地域のNPOの皆さんと、環境教育の研究会を行っています。日頃の活動の課題対策や新しいカリキュラムなどを習得し、環境教育の推進に役立ててもらっています。



インタープリター研究会



インタープリターとして活躍

環境コミュニケーションツール

社内コミュニケーション

●従業員教育マニュアル

社内規程をまとめたポケットガイドに環境のページを設け、廃棄物分別などのマニュアルを記載しています。



●新入社員テキスト

新入社員に対して基礎教育に使用するテキストに、環境の基本的な事項や遵守すべき法令などを記載しています。



●社内報での情報の共有化

社内報に「環境」「社会貢献」のスペースを設け、会社や各店舗での取り組み、成果などの情報を全従業員が共有し、従業員の環境意識を高めています。



社外コミュニケーション

●ホームページ

ユニーのホームページ「環境社会貢献」には、活動の最新情報や活動報告、環境配慮商品などの情報を掲げています。



●環境壁新聞

ユニーの店内には環境問題を紹介した「やさしくらしPress」を掲示しています。ホームページでも見ることが出来ます。



●環境教育用DVD

ユニーの環境活動を「食品リサイクル」「容器のリサイクル」「生物多様性」などのDVDにして、店内やイベントで使い、理解と協力を促しています。





ユニーの食育について

心身ともに健全な社会に向けて、国を挙げて取り組まれている食育。

ユニーでは、皆様の「健康なからだ」と「豊かなこころ」づくりを応援します。

子ども達の「食」への興味・関心を育て、親子や親しい人同士で食の楽しさを発見・実感するきっかけになるよう、

「おいしく」「たのしく」をモットーに、さまざまな食育活動に取り組んでいます。



ユニーの食育

心身ともに健全な社会のため、子どもから大人まで食に関心を持ち、正しい知識を身につけ、おいしく楽しい食生活を送っていただけるよう食育活動に取り組んでいます。



たべものがつたり

食材の旬・生まれ・栄養素・調理方法や昔ながらの伝統食など、親から子へ語り伝えていきたい食の物語を「たべものがたり」と名付け、皆様に分かりやすくお伝えしていきます。

ユニーの食育理念

私たちは、食と食に関わる情報の提供を通して、食の大切さや楽しさを地域のお客様と共有化します。

ユニーの食育方針

- 1 新鮮かつおいしい食材を提供することにより味覚を養います。
- 2 食材の持つ栄養素とその働きを理解することにより体を養います。
- 3 食材のルーツをたどることにより食べ物を大切にすることを養います。
- 4 食材本来の味や特性を活かした調理や料理ができる技を培います。
- 5 合理的な手法を用いた商品選択により安全・安心な食材提供に努めます。



あいち食育サポート企業団の活動

地元愛知の健全な食生活の実現と豊かで活力ある社会づくりに向けて、「あいち食育サポート企業団」を結成し、愛知県や関係団体等と連携・協働して食育を推進しています。また、「うちでごはんの日」や「早寝早起き 朝ごはん」運動の普及、日本型食生活の良さ・地産地消の啓発、食の体験活動なども推進しています。

2007年	「あいち食育サポート企業団」の結成
2008年	「地域に根ざした食育コンクール」で最優秀賞
2010年	愛知県とともにドアラを食育大使に任命
2011年	愛知県図書館に食育絵本110冊を寄贈
2012年	愛知県に企業団オリジナル食育絵本1,000冊を寄贈
2012年	名古屋文理大学にて食育講座を開講

あいち食育サポート企業団 加盟企業

ユニー(株)	イチビキ(株)	カゴメ(株)	カネハツ食品(株)	(株)グレスト
コーミ(株)	敷島製パン(株)	(株)昭和	(株)トーカン	(株)浜乙女
ポッカサッポロ フード&ピバ レッジ(株)	(株)丸越	マルサンアイ(株)	(株)Mizkan	



「地域に根ざした食育コンクール2008」にて農林水産大臣賞（最優秀賞）を受賞



愛知県とともにあいち食育大使にドアラを任命



愛知県にオリジナル絵本を寄贈



愛知農林水産フェアで食育イベントを実施



愛知県と共催で食育講座を実施



毎月加盟企業による店頭イベントを実施



名古屋文理大学にて食育講座を開講



愛知の野菜を使ったレシピコンテストを実施

あいち食育サポート企業団活動紹介ホームページ <http://aichishokuiku-support.info/>

店舗を中心とした食育活動

企業との食育への取り組み

店舗内外のイベントを通じて、皆様に「食」への関心を持っていただくために、食品関連企業や各種団体と共同で、食に関するさまざまなイベントを開催しています。食を大切にする心を育むことを目的に、食品の製造現場を訪ねる工場見学も積極的に行っています。



学生との食育への取り組み

大学や専門学校の学生と、食育まんがやイベントなど、子どもにも分かりやすい食育活動に取り組んでいます。食育における学生と子どもの「共育」推進も目的としています。



生産者との食育への取り組み

お客様が農産物の栽培から収穫までを生産者とふれあいながら体験することにより、売り場の野菜・果物を身近に感じていただくことも大切な食育と考えています。



5ADAY (ファイブ・ア・デイ) 食育体験ツアー

「1日5皿分 (350g) 以上の野菜と200g以上の果物を食べましょう」をスローガンとした活動を推進しています。



ふれあいクッキング

お客様に食材の「おいしさ」「栄養」「使い方」を実感し、よりよく知っていただくために、店舗で料理教室を行っています。



メニュー提案コーナー

栄養士が健康を考え、旬の食材を使ってレシピを提案するライブクッキング (365キッチン、クッキングワゴン) を行っています。



ホームページ

私たちにとって、一番身近な「食」に関するさまざまな「こと」を紹介するサイトです。旬の食べ物を食卓に取り入れる方法や栄養士が考える健康&簡単「からだにイイことレシピ」、食物栄養学科の学生と協力して作った「食育まんが」など、さまざまな情報で日々の食生活を応援しています。また、店頭などで行った食育イベントレポートも順次アップしています。

ユニー たべものがたり

検索



<http://www.uny.co.jp/tabemonogatari/>

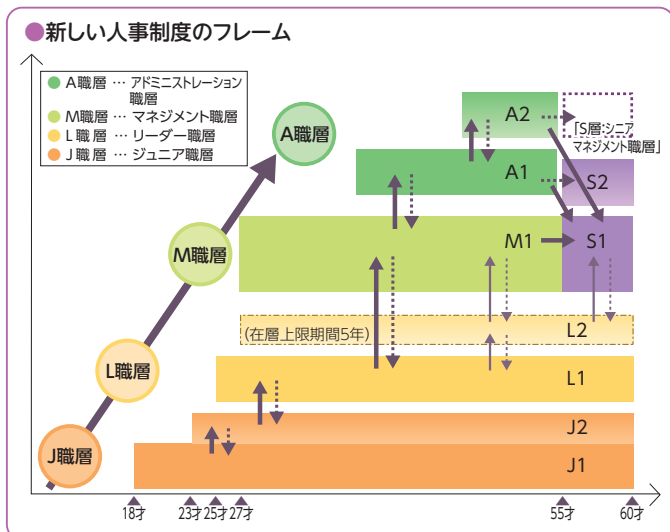
働きやすい職場環境づくり

ユニーでは従業員一人ひとりが、自ら学び、考え、動く「考勤」する人材になることを目指しています。流通小売業に従事するビジネス人としてのスキルアップのみならず、広く社会に貢献できる人間力を育成するのが、ユニーの人材に対する考え方です。安定した雇用環境や実力重視の人材登用、充実した福利厚生など、従業員一人ひとりを強力にバックアップしています。

キャリアアップ制度

ユニーを支えているのは「人」。その能力を最大限に発揮させていくことが、会社の成長につながっています。そこでユニーでは、配属においても本人の希望を考慮しています。毎年、全社員を対象に自己申告を実施し、今後のキャリアについて本人の希望を確認しています。配属希望の部署やそのために取り組んでいる自己啓発などを調査することで、その後の配属に活かしています。

営業店舗で店長を目指して仕事している方、商品部でバイヤーとして世界中に商品の買いつけに行く方、スタッフ部署で営業の企画を立案している方など、各人の能力・適性により活躍できるフィールドはたくさん用意されています。



充実の教育体系

キャリアに応じて必要な教育研修を実施。自己啓発を勧め、従業員の成長をサポートしています。

●研修

新入社員から管理職まで各職層別に研修を実施。2013年度の研修参加者数は述べ4,662名になります。



●従業員キャリアアップ

従業員のキャリアアップを手伝うため、134講座におよぶ通信教育講座を案内。会社推薦講座受講者には会社からの補助があります。2013年度は378名が受講しました。



●サービス介助士資格

高齢者の方や障がいを持つ方にも安心して買い物に来ていただけるよう、店舗の店長や副店長などの管理職を中心にサービス介助士資格の取得を勧めています。現在までに、1,000名以上が取得しています。



●技能研修

特別勤務者（パートタイム）の方には、生鮮部門担当者を中心に商品加工技術のある方に技能給を、福祉用具専門相談員やグリーンアドバイザー、自転車安全整備士、ホームヘルパーなどの資格を取得し、仕事に活かしている方にライセンス給を支給しています。



障がい者雇用

ノーマライゼーションの理念に基づき、障がいを持つ人も生き生きと働ける職場環境をつくるため、障がい者雇用に取り組んでいます。毎年、特別支援学校や施設から職場体験の受け入れも実施しています。

▶▶障がい者雇用率

2012年	1.95%	2014年	2.15%
2013年	2.05%		

ワークライフバランスへの取り組み

●半日休制度

付与された年次有給休暇のうち6日間に半日に分割して年間12回取得可能。年次有給休暇をより取得しやすくするため、2006年より導入しました。

●配偶者出産休暇

配偶者が出産のとき、出産日から2週間以内に有給の休暇を2日取得可能。2010年より導入しました。

●65歳までの再雇用制度

定年を迎えた従業員がその後の生活の安定を図るため、再雇用されることを希望した場合、65歳までを上限とし再雇用し、長年培った知識・経験・専門能力・技能を活用できるようにしています。

●自社商品割引購買制度

自社商品を割引で購入可能。同居家族も同条件で利用できる「家族証」を発行しています。

●アニバーサリー休暇

本人および家族の誕生日を対象の記念日として、記念日を含む月度にアニバーサリー休暇として、1年間に2日の年次有給休暇を取得することができる制度です。ここでいう家族とは、配偶者、父母、子、配偶者の父母、孫を対象とします。

愛知県ファミリー・フレンドリー企業に登録

労働者が男女ともに仕事と家庭を両立させながら働くことができる職場環境づくりに取り組んでいる企業として認められ、2003年に愛知県ファミリー・フレンドリー企業に登録しました。



次世代法に基づく基準適合一般事業主認定企業

仕事と子育ての両立を図るために必要な、雇用環境の整備などを進めるための「一般事業主行動計画」を策定し、基準に適合した一般事業主として2008年に認定されました。



ユニグループ総合福祉センター

ユニグループ各社の従業員と家族を含めた生涯にわたる総合福祉確立のために、会社と労働組合の共同事業として設立されています。主な福利厚生事業として、お祝い金やお見舞金の慶弔活動、社内セーフティネットとしての共済保険制度の提供、健康支援活動や各種セミナーの開催、宿泊・レジャー関連施設の斡旋などを行っています。

従業員同士が親しみ仲良く交流し、心と体の健康を増進するために

●行楽・レクリエーション

従業員同士のコミュニケーションツールとして店舗や事業所ごとに、行楽等を行っています。また、心と体の健康づくりとして日頃のストレスを発散できるよう、ボウリング大会や地域ごとに中日ドラゴンズの応援会を行っています。



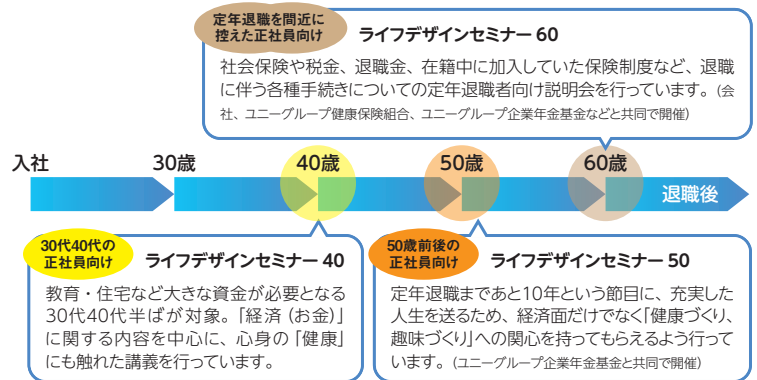
●サークル活動

共通の趣味を持つ仲間と同好会をつくり活動することで、活発な職場づくりに活かしています。内容は、フットサルなどのスポーツ、写真・華道など文化的なものなど多岐にわたっています。

従業員が充実した人生を送るために

●ライフデザインセミナー

正社員を対象に、定年退職後も充実した生き方・暮らし方ができるよう、先を見据えた人生設計を支援するセミナーを、社外から専門講師を招いて、年代別に開催しています。



従業員の健康な身体づくりのために

●健康セミナー

夫婦でも参加できる体験型セミナーです。食習慣・運動習慣を見直すきっかけづくりを目的とし、栄養管理士等の資格を持った社外講師によるストレッチやウォーキングを取り入れた講義を行っています。(ユニグループ健康保険組合と共同で開催)



●健康ウォーキング

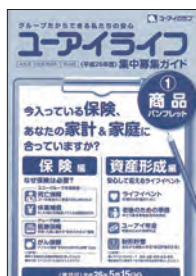
家族やOBも参加できるウォーキング大会を年に数回開催しています。仕事を離れ、自然の中やテーマパークを歩くことで、運動の楽しさを実感するとともに、従業員同士の交流を図る場にもなっています。本年はじゃんけん大会も取り入れ、大変盛り上がりました。



従業員が安心して働くために

●保険制度・貯蓄制度

従業員本人はもちろん、家族まで対象としてスケールメリットを活かした団体保険を提供しています。正社員やパートタイマーなどそれぞれのニーズに合わせたコースを設定しています。また、財形貯蓄や拠出型企業年金保険など、有利な貯蓄制度を提供しています。



従業員と家族の充実した余暇生活のために

●宿泊施設、レジャー施設

従業員がより充実して働くためには余暇の充実も重要なポイントです。従業員と家族皆さんに旅行やレジャーを通して楽しんでいただくため、全国各地にあるリゾートホテル、シティホテル、アミューズメントパークなどと法人契約しています。各宿泊施設、各レジャー施設の最新情報を、従業員向けに定期的に発行している冊子や、専用ホームページで案内・紹介しています。





「未来の子ども達に美しい自然を残したい」
ユニーは環境に優しい生活をお客様と一緒に進めていきます。



ユニー株式会社
愛知県稲沢市天池五反田町1番地



この報告書の印刷・製本工程で使用した電力量(900kWh)はグリーン電力でまかなわれています。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



TEL.0587-24-8093 FAX.0587-24-8010 <http://www.uny.co.jp>

2014年10月発行